

1 目 的

- (1) 検査問題の妥当性を検証し、今後の内容・形式等の改善に役立てる。
- (2) 受験者の学習成果の実態を明らかにし、県下中学校の学習指導上の課題を考察し、改善の指針を示す。

2 学力検査の実施教科
国語、社会、数学、理科、英語

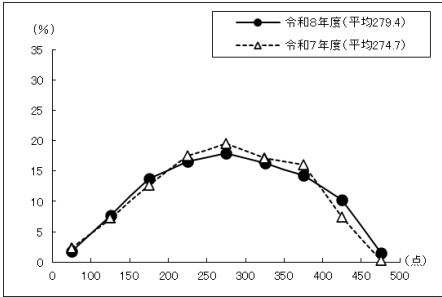
3 分析結果
(1) 平均点

教科	国語	社会	数学	理科	英語	総点	受験者数
平均	61.8 (58.6)	60.5 (56.1)	50.2 (47.0)	58.3 (57.4)	48.7 (55.5)	279.4 (274.7)	12,092人 (12,910人)
最高	94 (94)	100 (100)	100 (100)	100 (98)	100 (100)	481 (467)	
最低	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	42 (0)	
合格者 平均	61.8 (58.8)	60.3 (56.2)	50.0 (47.1)	58.3 (57.6)	48.6 (55.6)	279.0 (275.4)	

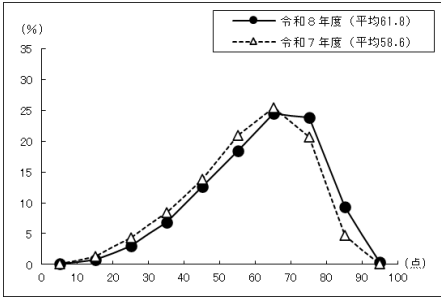
※ 数値は、全日制課程受験者の値
※ () は昨年度の値

(2) 総点及び各教科の得点分布

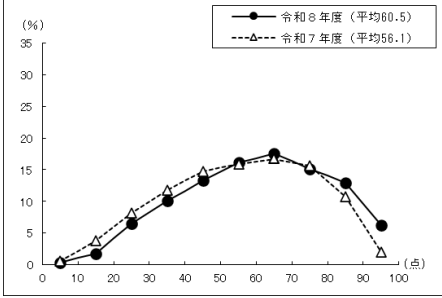
総点



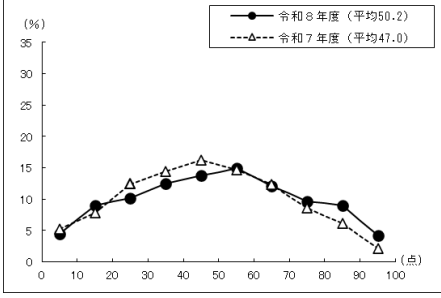
国語



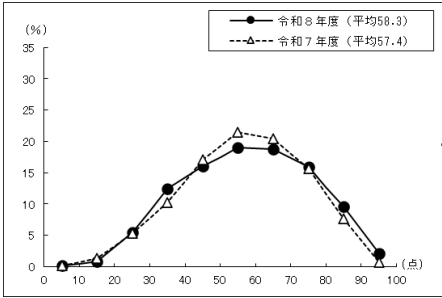
社会



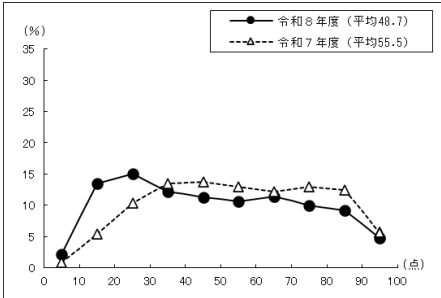
数学



理科



英語



(3) 各教科の概況

全日制課程の学校・学科の中から学力検査総点の受験者平均点を基にして50校・学科を抽出し、さらに調査書総点ごとのバランスに留意して合計400人の答案を抽出して、教科ごと、小問ごとにその状況を分析考察した。

教科	概況
国語	心情に関する描写を基に登場人物像を捉えられているが、複数の情報を整理しながら内容を解釈することや、多様な考えができる事柄について根拠の適切さを考えながら自分の考えを書くことに課題が見られた。
社会	日本の諸地域や国際社会等に関する基本的な事象は理解しているが、資料から読み取れる情報を多面的・多角的に考察し表現することや、歴史的な事象を各時代の特色を踏まえて捉えることに課題が見られた。
数学	数と式の領域における基本的な計算技能の定着は見られるが、問題場面の条件を読み取って数量の関係を式に表現することや、図形を多面的な視点で捉えて解決の過程を論理的に表現することに課題が見られた。
理科	自然事象に関する基本的な知識や観察・実験の技能の定着は見られるが、実験結果を分析して規則性を捉え、量的な関係を見いだすことや、科学的な根拠に基づいて自分の考えを表現することに課題が見られた。
英語	日常的な話題の聞き取りや、基礎的な語彙や文法事項については定着が見られが、文章の構成や論理の展開を踏まえて要点を的確に把握することや、自分の考えとその理由を論理的に表現することに課題が見られた。
まとめ	基本的な知識や事象の理解は定着しており、与えられた情報から必要なものを読み取る基礎的な能力は身に付いているが、複数の資料から情報を読み解き、関係性や規則性を見いだす力や、論理的に考察し、自分の考えを根拠とともに表現することに課題が見られた。

(4) 今後の対応

知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成するため、複数の事象を比較しながら、多面的・総合的に考察する活動の充実や、根拠を明確にして論理的に表現し合う対話的な活動場面の設定など、授業の構成や指導のあり方を一層工夫、改善する必要がある。

教科	授業づくりのポイント
国語	- 目的に応じて必要な情報を的確に捉え、内容を要約する言語活動の充実 - 根拠の適切さを検討し、自分の考えが伝わる文章になるよう工夫する活動の充実
社会	- 知識・技能を活用し、諸資料から適切に情報を読み取り、分類・整理・考察・表現する活動の充実 - 歴史的な事象の意味・意義や特色、事象間の関連を説明したり、意見交換したりする活動の実践
数学	- 自らの解決過程を振り返り、式やグラフを用いた根拠を数学的に説明する活動の充実 - 結論を導くために必要な事柄を明確にして、証明の過程を論理的に表現する活動の充実
理科	- 条件を制御した実験で規則性を捉え、数値分析により量的な関係を見いだす活動の充実 - 科学的な根拠に基づいて、実験の条件を検討し、得られた結果を分析する等の活動の充実
英語	- 英文を読む際に、接続詞に注目しながら文章の流れを理解したり、キーワードに着目し全体の要旨を英語でまとめたりする活動の充実 - 読んだり聞いたりしたことを基にして、自分の考えや気持ちを伝え合う統合的な言語活動の充実

令和8年度

公立高等学校入学者選抜
学力検査の分析結果

宮城県教育委員会

ま え が き

本報告は、令和8年度宮城県公立高等学校入学者選抜における第一次募集本試験（令和8年3月4日実施）の結果について、分析及び考察を示したものです。

公立高等学校の入学者選抜学力検査問題については、入学者の選抜に際し極めて重要な資料となることから、中学校学習指導要領の趣旨に即し、その実現に資する出題内容となっているか、中学校において育成することを目指す資質・能力の状況を適切に測ることができているかなど、これまでも、継続的な調査研究に取り組み、出題方法の工夫や改善に努めてきたところです。

また、入学者選抜学力検査は、義務教育段階の終わりまでに育成することを目指す資質・能力の状況を測ることができるものであり、中学校において学習指導の充実・改善を図るための重要な基礎資料として、当該検査の結果の精緻な分析は大きな意味があります。

これらを踏まえ、次の二点を目的として分析及び考察を進めました。

- 1 検査問題の妥当性を検証し、今後の内容・形式等の改善に役立てる。
- 2 受験者の学習成果の実態を明らかにし、県下中学校の学習指導上の課題を考察し、改善の指針を示す。

一方、高等学校においても、本報告に示すデータや考察は、中学校教育までの学習の成果の円滑な接続、生徒の実態に応じた指導計画の作成、指導内容や指導方法の工夫のための有用な情報であると考えます。

中学校及び高等学校においては、生徒一人一人が育成を目指す資質・能力を確実に身に付けることを目指し、カリキュラム・マネジメントの充実、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善などに取り組んでいるところですが、本報告を積極的に活用することにより、これらを一層促進し、中学生及び高校生にとってより質の高い、豊かな学びが実現されることを切に期待しています。

令和8年7月

宮城県教育委員会教育長 小 野 寺 邦 貢

目 次

I	受験状況	3
II	出題の基本方針	3
III	学力検査の結果（全日制受験者）	
1	総点	3
2	各教科の成績	3
3	各教科の得点分布	4
IV	各教科の分析	
1	分析の方法	4
2	各教科の分析結果の概況	5
	（1）国語	
	・出題のねらいと内容・結果の考察	6
	・正答率・無答率・得点率・その他	8
	・問題	9
	・正答表	17
	（2）社会	
	・出題のねらいと内容・結果の考察	18
	・正答率・無答率・得点率・その他	20
	・問題	21
	・正答表	29
	（3）数学	
	・出題のねらいと内容・結果の考察	30
	・正答率・無答率・得点率・その他	32
	・問題	33
	・正答表	41
	（4）理科	
	・出題のねらいと内容・結果の考察	42
	・正答率・無答率・得点率・その他	44
	・問題	45
	・正答表	53
	（5）英語	
	・出題のねらいと内容・結果の考察	54
	・正答率・無答率・得点率・その他	56
	・問題	57
	・「放送によるテスト」台本	65
	・正答表	69

I 受験状況

表 1 に今年度及び前年度の学力検査の全教科受験者数を示す。

表 1 年度別学力検査受験者数

年 度	全日制	定時制	計
令和 8 年度	12,092	343	12,435
令和 7 年度	12,910	371	13,281

II 出題の基本方針

中学校学習指導要領に示されている目標や内容を踏まえ、基礎的・基本的な知識及び技能並びに習得した知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を総合的にみることをねらいとした。また、各教科とも履修学年や分野・領域、難易度のバランス、問題の分量について配慮し、受験生の多様な能力を捉えることができるように工夫した。

III 学力検査の結果（全日制受験者）

1 総 点

全教科受験者の総点について、表 2 に度数分布表を、図 1 に相対度数分布図を示す。

表 2 総点の度数分布表

得点区分	令和 8 年度		令和 7 年度
	人数	割合(%)	割合(%)
0～100	210	1.7	2.3
101～150	934	7.7	7.2
151～200	1,660	13.7	12.7
201～250	1,997	16.5	17.5
251～300	2,170	17.9	19.5
301～350	1,966	16.3	17.1
351～400	1,732	14.3	16.0
401～450	1,234	10.2	7.4
451～500	189	1.6	0.3
計	12,092	100.0	100.0

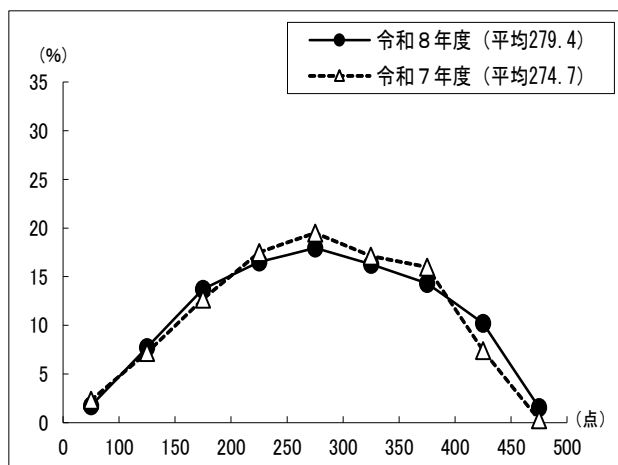


図 1 総点の相対度数分布図

2 各教科の成績

表 3 に各教科の受験者の平均点等と、合格者の平均点を示す。

表 3 各教科の平均点等

教科 区分		国語	社会	数学	理科	英語	総点
受 験 者	平 均	61.8 (58.6)	60.5 (56.1)	50.2 (47.0)	58.3 (57.4)	48.7 (55.5)	279.4 (274.7)
	最 高	94	100	100	100	100	481
	最 低	0	0	0	0	0	42
	合格者平均	61.8	60.3	50.0	58.3	48.6	279.0

() 内は前年度の平均点

3 各教科の得点分布

今年度及び前年度の国語、社会、数学、理科、英語の得点の相対度数分布図を、以下に示す。

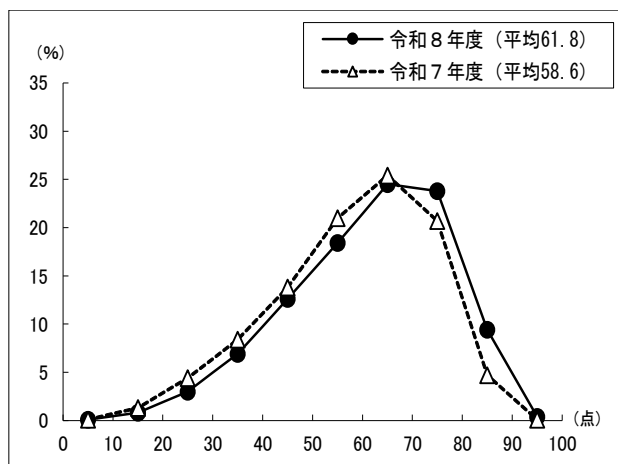


図2 国語

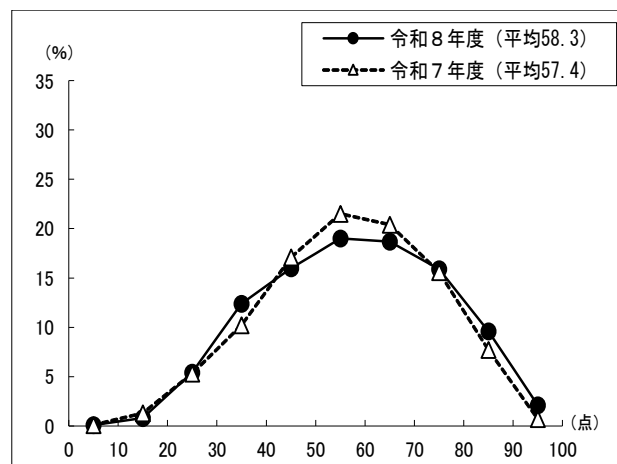


図5 理科

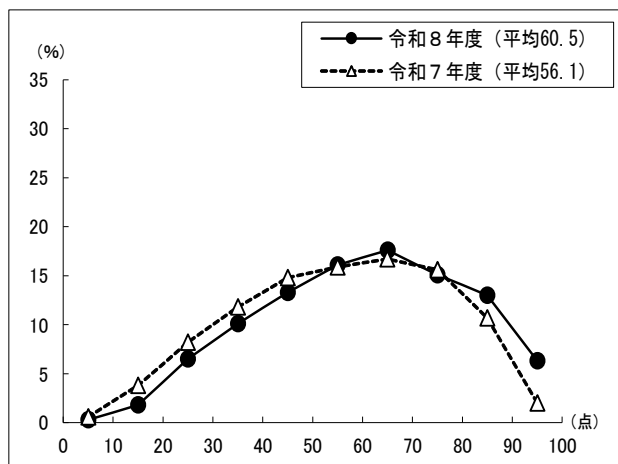


図3 社会

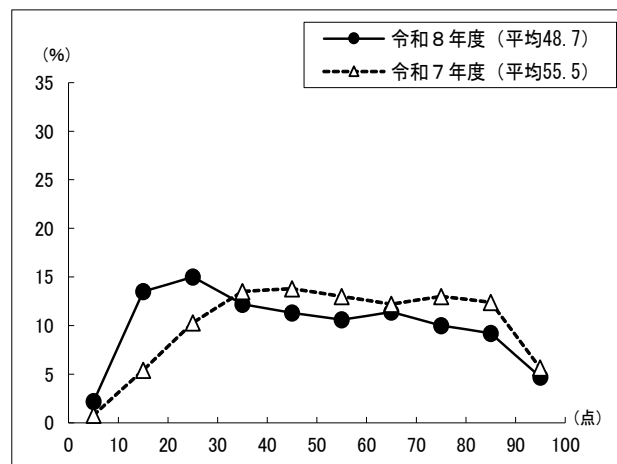


図6 英語

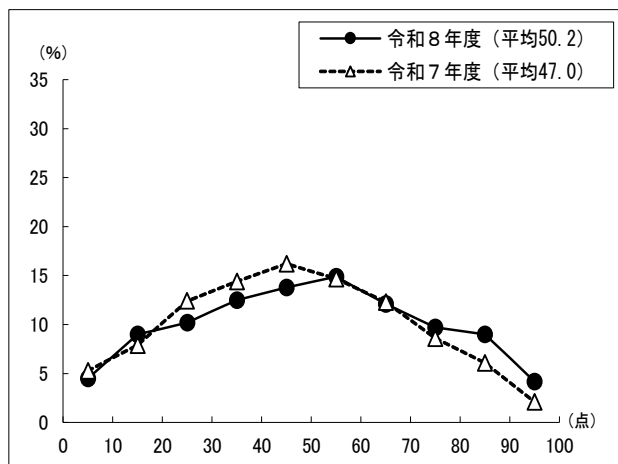


図4 数学

IV 各教科の分析

1 分析の方法

全教科受験者を対象にして、小問ごとの正答率（完全正答の割合）、無答率、得点率（配点に対する平均点の割合）を算出した。また、調査書総点を基に三つの階層に分け、それぞれの階層別の得点率を算出した。

さらに、誤答例・誤答傾向について詳細に分析を行うため、*標本を抽出して解答状況の確認を行った。

*標本の抽出について

全日制課程の学校・学科の中から学力検査総点の受験者平均点を基にして50校・学科を抽出し、さらに、調査書総点ごとのバランスに留意して合計400人を抽出し、標本とした。

2 各教科の分析結果の概況

国語 平均点 61.8点（前年度比 +3.2）

情報を整理しながら内容を解釈すること、根拠の適切さを考えて書くことに課題

学びの成果

- ・ 助動詞「られる」の意味を文脈から見分けることができる。
- ・ 描写を基に、登場人物の人物像を的確に捉えることができる。

課題

- ・ 複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈することに課題がある。
- ・ 根拠を明確にしながら、自分の考えを書くことに課題がある。

授業づくりのポイント

- ・ 目的に応じて必要な情報を捉えて要約する活動を充実させる。
- ・ 書こうとする根拠が適切であるかを検討しながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する活動を充実させる。

社会 平均点 60.5点（前年度比 +4.4）

知識を活用して考察すること、歴史に関わる事象を、各時代の特徴を踏まえて捉えることに課題

学びの成果

- ・ 日本の諸地域や政治、現代社会、国際社会に関する基本的な事象が理解できている。

課題

- ・ 習得した知識を活用して、資料から読み取れる情報について多面的・多角的に考察し、適切に表現することに課題がある。
- ・ 歴史に関わる事象を、時系列に沿って整理したり、政治の展開や社会の様子などに着目して理解したりすることに課題がある。

授業づくりのポイント

- ・ 習得した知識を活用して、地図や文献、統計などの諸資料から情報を読み取り、分類・整理して表現する活動を充実させる。
- ・ 歴史に関わる事象の意味・意義や特色、事象間の関連を説明したり、意見交換したりする学習活動を積極的に取り入れる。

数学 平均点 50.2点（前年度比 +3.2）

与えられた条件を読み取り、数量の関係を式に表現すること、図形を多面的な視点で捉え、筋道を立てて表現することに課題

学びの成果

- ・ 数と式の領域における基礎的・基本的な計算の知識・技能が身に付いている。

課題

- ・ 問題場面において、与えられた条件を正しく読み取り、数量の関係を式に表現して活用する

ことに課題がある。

- ・ 図形を多面的に捉え、数学的に考察した内容について表現することに課題がある。

授業づくりのポイント

- ・ 自らの解決過程を振り返り、式やグラフなどを用いた根拠について数学的に説明する活動を充実させる。
- ・ 結論を導くために必要な事柄を明確にして、証明の過程を表現する活動を充実させる。

理科 平均点 58.3点（前年度比 +0.9）

実験結果を分析して、成り立つ規則性を捉え、量的な関係を見だし表現することに課題

学びの成果

- ・ 自然の事物・現象についての基本的な知識が定着している。
- ・ 観察、実験に関する基本的な知識や技能が身に付いている。

課題

- ・ 実験結果の分析から、成り立つ規則性を捉え、量的な関係を考察することに課題がある。
- ・ 観察実験等から見いだした関係性を、科学的な根拠を基に、表現することに課題がある。

授業づくりのポイント

- ・ 実験結果を分析する際に、条件を制御した実験により規則性を捉え、数値による分析により量的な関係を見いだす活動を確保する。
- ・ 探究の過程において、根拠のある仮説を設定させたり、仮説の妥当性を考えさせたりすることで、表現する活動の充実を図る。

英語 平均点 48.7点（前年度比 -6.8）

文章の構成や論理の展開を踏まえて要点を的確に把握すること、自分の考えとその理由を論理的に表現することに課題

学びの成果

- ・ 日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができる。

課題

- ・ 文と文との論理的なつながりを意識しながら読むことに課題がある。
- ・ 自分の考えとその理由を論理的に表現することに課題がある。

授業づくりのポイント

- ・ 構成や論理の展開をふまえて、要点を的確に読み取るためには、ディスコースマーカーに着目して読む活動などを取り入れる。
- ・ 聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを整理して伝え合う統合的な言語活動を充実させる。

1 出題のねらいと内容

言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化に関する知識及び技能並びに話すこと・聞くこと、書くこと及び読むことに必要な思考力、判断力、表現力等、国語で正確に理解し適切に表現する能力を総合的にみることをねらいとした。

第一問では、基礎的な漢字を読む力や書く力、表現技法についての知識、行書の特徴についての知識をみようとした。

第二問では、広報委員会で作成する壁新聞の記事の内容について話し合う場面を素材とし、言葉の特徴や使い方、情報の扱い方についての知識及び技能、話し合いの進め方の工夫など、話し合う力をみようとした。

第三問では、祖母が営む雑貨店で働き始めた主人公が、自分に対する祖母の思いに気付く場面を描いた文章を素材とし、叙述に基づ

いて、文章の内容や表現を的確に捉える力や適切に表現する力をみようとした。

第四問では、言葉が人の物事の見方や考え方に影響を与えることについて説明した文章を素材とし、叙述に基づいて、書き手のものの見方や考え方を的確に捉える力や適切に表現する力をみようとした。

第五問では、故郷の家族に手紙を出す際の心境を詠んだ漢詩を素材とし、古典に関する基礎的な知識を基に、現代語訳や語注などを手がかりにして、古人のものの見方や考え方を的確に捉える力をみようとした。

第六問では、示されたグラフから読み取ったことと、その読み取ったことに対する自分の考えを書くことによって、豊かに発想する力及び自分の考えを適切に表現する力をみようとした。

2 結果の考察

＜第一問＞知識及び技能

漢字を正しく読んだり書いたりすること、表現技法に関する知識の定着に課題

問一 漢字の読み書きの問題。③「遵守」については、正答率が37.1%であり、「遵」を「そん」と読んだ誤答が多かった。⑥「就任」については、正答率が50.2%であり、「就」を書き間違えた誤答が多かった。教科書を読むことや読書を通して漢字の読みの習熟を図るとともに、漢字を様々な文脈の中で使う機会を充実させたい。

問二 俳句に用いられている表現技法を適切に捉えることができるかをみる問題。正答率は72.5%であったが、各層の得点率の差が大きかった。c層では、得点率が48.4%にとどま

り、表現技法に関する知識の定着に課題があると推察される。それぞれの表現技法を、その名称と結び付け、意味や用法とともに理解して使うことができるようにすることが重要である。

＜第二問＞知識及び技能並びに思考力、判断力、表現力等「話すこと・聞くこと」

発言の意図を捉えることに課題

問一 助動詞「られる」の意味について理解しているかをみる問題。正答率は83.9%であり、助動詞「られる」の意味を文脈から見分けることができていたといえる。

問六 互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるかをみる問題。得点率は55.6%

であった。合意形成のために、複数の人物の発言から共通点を見いだしていることに着目できていない誤答が多かった。互いの考えを生かしながら議論や討論をする活動を通して、立場や考えの違いを認めつつ、納得できる結論を目指して話し合う力を伸ばしたい。

＜第三問＞思考力、判断力、表現力等「読むこと」文学的な文章

登場人物の言動の意味を捉え、適切に表現することに課題

問二 登場人物の言動の意味について、適切に表現できるかをみる問題。得点率は43.9%にとどまった。根拠となる描写には着目できていたものの、傍線部中の指示する語句が指し示す内容を適切に表現することができていない解答が多かった。根拠となる本文の言葉を用いて登場人物の言動の意味を説明したり、登場人物の言動から考えたことを伝え合ったりする活動を一層充実させたい。

問三（二） 登場人物の人物像を捉えることができるかをみる問題。正答率は86.8%であった。心情に関する描写を基に、人物像を的確に捉えることができていたといえる。

＜第四問＞思考力、判断力、表現力等「読むこと」説明的な文章

情報を整理しながら内容を解釈することに課題

問二 主張と例示との関係を的確に捉えることができるかをみる問題。得点率は41.8%にとどまった。接続語に着目して、文章中に示されている具体例と、書き手の主張との関係を考えながら内容を把握することができていなかったと推察される。文章の内容をノートやレポート等にまとめる活動を充実させ、文章

の構成や展開を正確に捉える力を育成することが望まれる。

問三（一） 複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈することができるかをみる問題。得点率は11.5%であった。傍線部直前の表現のみに着目したと推察される解答が多かった。目的に応じて必要な情報を捉えて要約する活動を充実させ、情報を整理して、内容を解釈する力を伸ばしたい。

＜第五問＞知識及び技能「我が国の言語文化」

訓読の仕方の理解に課題

問二 漢文の訓読の仕方を理解しているかをみる問題。得点率は59.7%であったが、各層の得点率の差が大きかった。一・二点の位置が逆であったり、レ点を付けたりした誤答が多かった。作品を朗読することを通して、訓読の仕方について理解を深めるとともに、生徒と古典の世界との距離を縮め、古典の世界に親しむことができるように授業を工夫したい。

＜第六問＞思考力、判断力、表現力等「書くこと」

根拠の適切さを考えながら自分の意見を書くことに課題

グラフから情報を読み取り、読み取ったことに対する自分の考えを適切に表現することができるかをみる問題。グラフから読み取ったことに対する考えを書くことができていなかったり、自分の考えを支える根拠が明確でなかったりする解答が多かった。多様な考えができる事柄について自分の意見をもち、書こうとする根拠が適切かを検討しながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する活動を充実させ、書く力の伸長を図りたい。

問題				正答率→	←無答率	得点率	調査書総点別得点率 (a:135～111点 b:110～88点 c:87～48点)
第一問	問一	①	記述 知・技 漢字	99.3%	0.0%	99.3%	a:99.8% b:99.4% c:98.7%
		②	記述 知・技 漢字	96.5%	0.0%	96.5%	a:97.8% b:96.9% c:95.0%
		③	記述 知・技 漢字	37.1%	4.6%	37.1%	a:63.7% b:34.4% c:15.5%
		④	記述 知・技 漢字	84.5%	7.9%	84.7%	a:97.3% b:88.9% c:68.5%
		⑤	記述 知・技 漢字	85.0%	3.7%	85.1%	a:97.4% b:90.9% c:67.4%
		⑥	記述 知・技 漢字	50.2%	12.9%	50.2%	a:82.7% b:50.1% c:20.4%
	問二	多肢選択	知・技 表現技法	72.5%	0.1%	72.5%	a:94.5% b:76.3% c:48.4%
	問三	多肢選択	知・技 書写	66.3%	0.1%	66.3%	a:85.2% b:65.9% c:49.4%
第二問	問一	多肢選択	知・技 文法	83.9%	0.1%	83.9%	a:94.6% b:84.8% c:73.2%
	問二	記述	話・聞 発言	68.7%	2.2%	79.7%	a:91.2% b:81.2% c:67.5%
	問三	多肢選択	知・技 情報の整理	90.3%	0.1%	90.3%	a:96.3% b:92.6% c:82.2%
	問四	多肢選択	話・聞 司会の進め方	87.5%	0.0%	87.5%	a:96.6% b:90.1% c:76.5%
	問五	多肢選択	話・聞 発言	88.8%	0.1%	88.8%	a:97.5% b:91.2% c:78.3%
	問六	記述	話・聞 発言	49.4%	5.0%	55.6%	a:75.9% b:58.9% c:33.4%
第三問	問一	多肢選択	読む 精査解釈	91.6%	0.1%	91.6%	a:98.2% b:93.4% c:83.7%
	問二	記述	読む 構造内容	22.6%	8.1%	43.9%	a:59.0% b:45.6% c:28.2%
	問三	(一) 抜き出し	読む 精査解釈	89.9%	3.5%	91.4%	a:99.0% b:94.9% c:80.7%
		(二) 多肢選択	読む 構造内容	86.8%	0.4%	86.8%	a:97.2% b:90.3% c:73.6%
	問四	記述	読む 精査解釈	7.1%	11.9%	44.3%	a:54.5% b:47.0% c:31.9%
	問五	多肢選択	読む 表現	77.3%	0.6%	77.3%	a:87.2% b:78.1% c:67.3%
第四問	問一	多肢選択	読む 精査解釈	85.2%	0.3%	85.2%	a:97.3% b:89.1% c:69.9%
	問二	抜き出し	読む 構造内容	41.3%	24.0%	41.8%	a:67.0% b:40.0% c:20.5%
	問三	(一) 記述	読む 精査解釈	7.7%	31.1%	11.5%	a:25.0% b:8.1% c:2.9%
		(二) 抜き出し	読む 精査解釈	68.4%	14.0%	69.1%	a:92.8% b:74.5% c:41.4%
	問四	記述	読む 精査解釈	0.8%	41.0%	5.8%	a:12.6% b:4.6% c:0.9%
	問五	多肢選択	読む 構造内容	62.0%	2.8%	62.0%	a:79.8% b:61.9% c:45.7%
第五問	問一	多肢選択	知・技 言語文化	70.7%	1.0%	70.7%	a:90.6% b:70.1% c:53.1%
	問二	記述	知・技 言語文化	59.6%	4.0%	59.7%	a:88.3% b:63.0% c:29.7%
	問三	(一) 多肢選択	知・技 言語文化	78.6%	2.0%	78.6%	a:94.6% b:82.0% c:60.1%
		(二) 記述	知・技 言語文化	28.4%	19.1%	49.8%	a:71.9% b:52.6% c:26.5%
	第六問	論述	書く 意見文	1.7%	1.2%	59.7%	a:68.9% b:62.8% c:48.0%
計						62.1%	a:75.5% b:63.9% c:47.9%

令和 8 年 度

公立高等学校入学者選抜学力検査問題

国 語

第一問 次の問いに答えなさい。

問一 次の文の——線部①～⑥のうち、漢字の部分はその読み方をひらがなで書き、カタカナの部分は漢字に改めなさい。

- ・ 会場の客席が埋まる。①
- ・ 記録の更新に挑む。②
- ・ 交通規則の遵守を呼び掛ける。③
- ・ 渡り鳥のムれが飛んでいく。④
- ・ 限りあるシゲンを大切に使う。⑤
- ・ 社長にシユウニンする。⑥

問二 次の俳句で使われている表現技法として、最も適切なものを、あとのア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

おおや たつはる 大屋達治

- ア 直喩 イ 反復 ウ 体言止め エ 対句

問三 次の行書で書かれた漢字について、○で囲んだ a、b の部分に表れている行書の特徴の組み合わせとして、最も適切なものを、あとのア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

居 a

精 b

- | | | |
|---|-------|-------|
| ア | 筆順の変化 | 点画の省略 |
| イ | 点画の連続 | 点画の省略 |
| ウ | 点画の連続 | 筆順の変化 |
| エ | 点画の省略 | 筆順の変化 |

第二問 ある中学校の広報委員会では、壁新聞を作成し、校内に掲示しています。広報委員のAさんたち四人は、先日行われた体育祭について壁新聞を作成する担当です。次は、【前回の話し合いの記録】と、Aさんが司会となつて行つた【話し合いの一部】です。あとの問いに答えなさい。

【前回の話し合いの記録】

○記事の案

- ・各競技の結果
- ・赤組、白組、青組それぞれの総合得点
- ・赤組の優勝
- ・体育祭実行委員の活動
- ・放送委員の活動
- ・活躍した生徒へのインタビュー

○掲載する記事の数

四つ（紙面の大きさから）

【話し合いの一部】

〈Aさん〉 【前回の話し合いの記録】を見てもらえるかな。今日は、前回の記事の案をもとに、伝えたいことの優先順位を考えて、掲載する四つの記事の内容を決めるよ。紙面で大きく扱う順に記事Ⅰから記事Ⅳとして、まずは記事Ⅰから話し合おう。

〈Bさん〉 私は、赤組が優勝したことを一番伝えたいな。記事Ⅰでは、赤組の優勝を取り上げようよ。

〈Cさん〉 そうだね。記事Ⅰの内容は赤組の優勝がいいと思う。スペースが広いから、写真も入れられるよ。^①

〈Dさん〉 私も、赤組の優勝がいいと思うな。

〈Aさん〉 それでは、記事Ⅰの内容について、詳細はあとで検討することにして、記事Ⅰで ② ことは決定でいいね。次に、

^③ 記事Ⅱを決めよう。

〈Cさん〉 活躍した生徒へのインタビューを記事Ⅱにしたらどうかな。赤組の生徒の喜びの声を載せようよ。生徒の声を大きく扱うと、見る人は興味を持つってくれると思うんだ。

〈Dさん〉 インタビューを記事Ⅱにするのは賛成だけれど、赤組ではな

くて、白組と青組の生徒にインタビューをしようよ。ほかの組の生徒も取り上げた方が、より多くの人が壁新聞に興味を持つてくれると思うよ。

〈Bさん〉 私は、体育祭実行委員の働きに注目してほしいから、その活動を記事Ⅱで取り上げたいな。いろいろな仕事をして体育祭を支えてくれたよ。

〈Cさん〉 私は、Dさんの話を聞いて、白組や青組にも活躍した生徒がいたから、記事Ⅱでは白組と青組を取り上げるのがいいと思うたよ。運営側の活動は、記事Ⅲにしてもいいかもね。

〈Bさん〉 今のCさんの話に納得したよ。確かに運営側よりも、活躍した生徒を大きく取り上げた方がいいね。記事Ⅱでは、白組と青組の生徒へのインタビューを記事にしよう。

〈Aさん〉 ^④ これで、記事Ⅰから記事Ⅳのうち、記事Ⅱまでの内容が決まったね。次は、記事Ⅲについて話し合おう。まず、今出た体育祭実行委員の活動を記事にすることについて検討してみよう。

〈Dさん〉 体育祭実行委員の活動を記事Ⅲにするのは賛成だけれど、放送委員の活動を記事にする案も前回出ていたよね。放送委員も、進行のアナウンスなどをして体育祭を支えていたよね。その活動も伝えたいな。

〈Aさん〉 体育祭実行委員と放送委員をそれぞれ記事にすると、これで記事の数は四つになるよ。各競技の結果や、それぞれの総合得点を記事にするという案もあったけれど、どうかな。

〈Cさん〉 ^⑤ 確かに、どちらの委員の活動も伝えたいね。でも、運営側の活動の記事が二つもあるのは多くないかな。それに、競技結果や総合得点も記事にした方がいいと思うから、委員の活動を取り上げるのは記事Ⅲだけにしたい方がいいと思うな。

〈Bさん〉 ^⑥ みんなの考えは、体育祭を支えた委員の活動を記事にしたいという点では同じだね。たとえば「縁の下力持ち」のような言葉を見出しにして、体育祭実行委員と放送委員の活動を、記事Ⅲでまとめて取り上げたらどうかな。

〈Cさん〉 なるほど、それはいいアイデアだね。そうしようよ。

〈Dさん〉 うん、私も賛成。

〈Aさん〉 記事Ⅲの内容も決まったね。最後に、記事Ⅳを決めよう。

問一 【話し合いの一部】の中の「^①られる」と——線部の意味が同じものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 知り合いから声を掛けられる。
イ この箱は私でも持ち上げられる。
ウ 友人の言葉にいつも助けられる。
エ 涼しい風が心地よく感じられる。

問二 【話し合いの一部】の中の^②にあてはまる適切な表現を考えて、十五字以内で答えなさい。

問三 【話し合いの一部】の中に、「記事Ⅱを決めよう。」とありますが、次は、^③の部分でAさんが取った【メモ】です。^a、^dにあてはまる言葉の組み合わせとして、最も適切なものを、あとのア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

【メモ】

記事Ⅱ			
	Cさん	c の生徒に インタビュー	a
	Dさん	d の生徒に インタビュー	b
Bさん	体育祭実行委員の活動		
	働きに注目してほしい		

- ア 理由 | b 提案 | c 赤組 | d 白組と青組
イ 理由 | b 提案 | c 白組と青組 | d 赤組
ウ 提案 | b 理由 | c 赤組 | d 白組と青組
エ 提案 | b 理由 | c 白組と青組 | d 赤組

問四 【話し合いの一部】の中の「^④これで、」が始まるAさんの発言について、ここでの司会の進め方を説明したものとして、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 話し合いの進み具合について確認し、話し合いの次の論点を明示している。
イ それぞれの発言の内容を整理し、新たな観点から話し合うことを提案している。
ウ 話題がそれてしまったことを指摘し、話し合いの目的を改めて説明している。
エ これまでの発言の内容を振り返り、それぞれの考えの相違点を確認している。

問五 【話し合いの一部】の中の「^⑤確かに、」が始まるCさんの発言について説明したものとして、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 他者の意見に反論したうえで、自分の発言を見直し、新たな意見を出している。
イ 他者とは異なる意見を述べたうえで、その正当性を訴え、自分の意見に同意を求めている。
ウ 他者の意見に共感を示したうえで、説明が不足している点を挙げ、自分の言葉で補足している。
エ 他者の意見を受け止めたうえで、その課題を指摘し、自分の意見を述べている。

問六 次の文は、【話し合いの一部】の中の「^⑥みんなの考えは、」が始まるBさんの発言について説明したものです。にあてはまる適切な表現を考えて、十字以内で答えなさい。

- 互いの考えの ことで、みんなが納得できるようなアイディアを出している。

著作権保護のため本文等を掲載しておりません。

(長月 ながつき 天音 あまね「銀座ちぐさ百貨店」による)

*をつけた語句のへ注V

さつき

金型 ———— ここでは、たい焼き用の金属製の型のこと。

タネ ———— ここでは、たい焼きの生地のこと。

問一 本文中に「^①」とありますが、祖母が男の子の言葉から得たヒントとは、どのようなことですか。最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 新たな商品としてたい焼きを加えるということ。
イ 近所にはたい焼きを作りたい子どもが多いかもしれないということ。
ウ たい焼きの尻尾に塩昆布を入れるということかもしれないということ。
エ 老舗のたい焼き屋の場所を店に掲示すべきかもしれないということ。

問二 本文中に「^②」とありますが、祖母は、どのようなことが「楽しい」と述べたのですか。二十五字以内で説明しなさい。

問三 本文中に「^③」とありますが、次の対話は、ここでの「私」の様子について話し合ったものです。あとの(一)、(二)の問いに答えなさい。

〈Xさん〉 「^③」とあるけれど、祖母は

「^③」をしているんだね。

〈Yさん〉 うん。祖母にじつと見つめられた「私」は、幼い頃から祖母の

「^A」が大好きだったことを思い出しているね。

〈Xさん〉 そうだね。今でもその気持ちは変わっていないんだね。それ

から、祖母の話の内容だけでなく、「私」は祖母の指摘を「[□]」だと感じているよ。小さい頃から

「^B」 ようだね。

〈Yさん〉 そうすると、ここでの「私」は、祖母の目と、祖母の話の両方に引き込まれて、祖母から目を逸らせなくなっているんだね。

(一) 「^A」にあてはまる言葉を、本文中から七字でそのまま抜き出して答えなさい。

(二) 「^B」にあてはまる表現として、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 祖母の働く姿を見てきた「私」は、祖母のような仕事をしたいと思
い続け、自分の仕事に価値を見いだせずにいた
イ 互いの真意を探り合う大人の様子を見てきた「私」は、相手の言葉を
素直に受け止められず、周囲を信じられずにいた
ウ 人に気に入られるように振る舞ってきた「私」は、自分のやりたい
ことを我慢して、他者に合わせて生きてきた
エ 人の顔色を気にしてきた「私」は、相手が自分をどう思っているかを
意識しすぎていて、自分に自信を持てずにいた

問四 本文中に「^④」とありますが、このときの「私」の心情を、五十五字以内で説明しなさい。

問五 本文の表現について説明したものとして、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 祖母と野乃との会話をテンポよく重ねることで、祖母と「私」の接客
の違いをきわ立たせている。

イ 情景を色彩豊かに描写することで、登場人物の心情の移り変わりを読
者が想像しやすくしている。

ウ 「私」や祖母が過去を振り返る場面を描くことで、二人の人物像や関
係性を効果的に表現している。

エ 三人称の視点から物語を展開することで、それぞれの登場人物の心情
を客観的に描き出している。

著作権保護のため本文等を掲載しておりません。

（古田 徹也）「言葉なんていらない？ 私と世界のあいだ」による）

*をつけた語句の△注▽

鑿——木材や石材に穴や溝を掘る工具。

相貌——ここでは、特徴や側面のこと。

いずい——北海道や東北地方の方言。「違和感がある」「しつくりこない」などの意味がある。

問一 本文中に「 ^①」とありますが、それを知っていると、どのようなことができますと筆者は述べていますか。最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 強風で折れた倒木をその形のまま利用すること。

イ 倒木から作られた作品の価値に気づくこと。

ウ 家や学校で身につけた技術を他者に教えること。

工 何が作れるかという関心をもって倒木を見ること。

問二 本文中に〔 〕とありますが、次の文章は、このことについて、筆者が述べていることを説明したものです。〔 〕にあてはまる言葉を、本文中から十三字でそのまま抜き出して答えなさい。

問三 本文中に③

とありますが、次の文章は、このことについて、筆者が述べていることを説明したものです。あとの(一)、(二)の問いに答えなさい。

(一) 答えなさい。

A

にあてはまる適切な表現を考えて、三十五字以内で

(二) B にあてはまる言葉を、本文中から十七字で探し、はじめの五字で答えなさい。

問四 本文中に「 」とありますが、筆者がこのように述べる理由を、五十五字以内で説明しなさい。

問五 本文の論の進め方について説明したものととして、最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 主題について自分の見解を述べたあと、対立的な意見に対して反論しながら、持論を展開している。

イ たえを用いて主題を提示したあと、具体的な例を挙げ、他者の主張を引用しながら、説明を重ねている。

ウ 主題について問題を提起したあと、他の地域との共通点や相違点を挙げながら、自身の見解を明らかにしている。

工 先人の言葉を引用して主題について仮説を立てたあと、具体的な根拠を示しながら、検証を行っている。

第五問 次の【漢詩】と、その【書き下し文】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【漢詩】

秋思

張籍

【書き下し文】

秋思

張籍

洛陽城裏見秋風

洛陽城裏秋風を見る

欲作家書意万重

家書を作らんと欲して意万重

復恐匆匆说不尽

復た恐る匆匆説いて尽くさざるを

行人臨發又開封

行人発するに臨んで又封を開く

（「三体詩」による）

*をつけた語句のへ注▽

洛陽城裏——唐代の東都、洛陽の町。作者は故郷を離れ洛陽にいる。

家書——ここでは、家への手紙のこと。

行人——ここでは、手紙を届けてくれる旅人のこと。

問一 この【漢詩】の形式を何というか、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 五言絶句 イ 五言律詩 ウ 七言絶句 エ 七言律詩

問二 【書き下し文】を参考にして、【漢詩】中の「見秋風」に返り点を付けなさい。

問三 次の対話は、【漢詩】について話し合ったものです。あとの(一)、(二)の問いに答えなさい。

〈Xさん〉 前半の二句は、作者が、「秋風」をきつかけに「家書」を書

こうするといふ展開になっているね。

〈Yさん〉 そうだね。A 様子が、「意万重」という表現から伝わってくるよ。「秋風」が作者の心境に影響を与えたのかな。

〈Xさん〉 そうかもしれないね。後半の二句では、「行人」が発するときの作者の様子が描かれているよね。

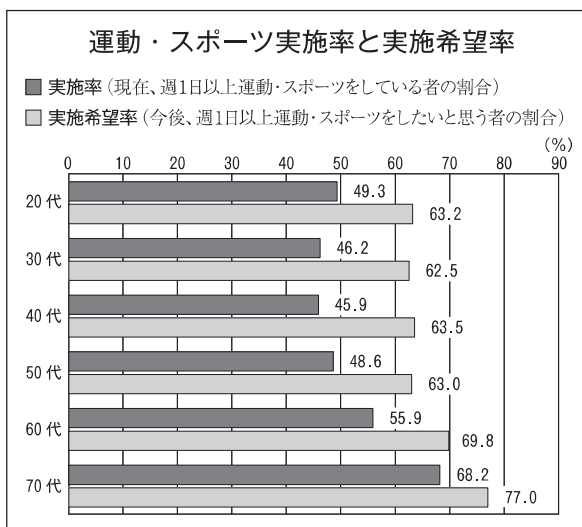
〈Yさん〉 うん。「又開封」からは、一度閉じた封を開けたことが分かるよ。作者は、B としたんだね。

- (一) A にあてはまる表現として、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 洛陽が寂れたことを嘆いている
- イ 家族への思いが込み上げている
- ウ 秋の風が強く吹いている
- エ 友人からの手紙を待ち望んでいる
- (二) B にあてはまる適切な表現を考えて、二十字以内で答えなさい。

第六問

総合的な学習の時間で、運動の習慣をテーマに、下のグラフを用いてレポートを書くことになりました。

あなたは、このグラフからどのようなことを読み取り、そこからのようなことを考えますか。百六十字～二百字で書きなさい。



（スポーツ庁「令和6年度『スポーツの実施状況等に関する世論調査』より作成）

(1) 国語正答表

							備考欄		
3	5	3	2	4	3	20	配点		
問五	問四	問三 (二) (一)	問二	問一	第三問				
ウ	(例) 私が思っていた以上に祖母が私のことを理解し、伸び伸びと働けるように考えてくれていたことに気づき、感激している。 (五十五字)	エ		(例) 違う形になったとしても、物が残っていくこと。 (二十二字)	ア				

						備考欄
						14
3	2	2	2	3	2	
問六	問五	問四	問三	問二	問一	第二問
(例) 共通点に着目する (八字)	エ	ア	ウ	(例) 赤組の優勝を取り上げる (十一字)	イ	

		漢字は、点画に過不足がなく、字形の正しさを損なっていないければ正答とする。						備考欄	配点
2	2	2	2	2	2	2	2	16	
問三	問二	問一							第一問
イ	ウ	⑥ 就任 シュウニン	⑤ 資源 シゲン	④ 群衆 ム	③ 遵守 ジュンシュ	② 挑発 テウハツ	① 埋没 マイボク		
				(れ)		(む)	(まる)		

△採点の基準▽

1	内容及び表現について	15点
グラフから読み取ったことと、そこから考えたことが、適切に表現されているか。		
2	表記について	5点
(1)	誤字や脱字はないか。	
(2)	仮名遣いや送り仮名は正しいか。	
(3)	漢字、ひらがな、カタカナの使い分けは適切であるか。	
(4)	句読点やその他の符号の使い方は適切であるか。	
(5)	原稿用紙の使い方は正しいか。	

△留意事項▽

採点は、前記の△採点の基準▽1、2によることとするが、次の点についても留意すること。

(1) 字数が百六十字に満たないものは、総点を10点以下とし、二百字を超えたものについては、その程度に応じて適宜減点する。

(2) 表記の誤りについては、前記の△採点の基準▽の2によって適宜減点する。

採点の 基準等	20	配点					備考欄
			4	2	2	2	10
第 六 問	問三		問二	問一	第 五 問		
	(二)	(一)	見 二 秋 風 一	ウ			
	う(例) 手紙に書き漏らしがないかを確認しよ (十八字)		イ				

							備考欄
3	5	3	4	3	2	20	配点
問五	問四	問三		問二	問一	第四問	
		(二)	(一)				
イ	(例) 伝達や内省の内容は、習得した言語に含まれる言葉の影響を受けた物事の見方や考え方の下でつくり出されるため。 (五十二字)		(例) 「緑」や「オレンジ」と呼んで区別する色彩も「茶」という言葉で表していた (三十五字)		エ		

(注) 上記以外については、各学校で適宜基準を設けるものとする。

满点 100 点

1 出題のねらいと内容

地理、歴史、公民に関する知識及び調査や諸資料から情報を読み取りまとめる技能並びに社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察するために必要な思考力、判断力、表現力等を総合的にみることがねらいとした。

第一問では、「国際連合の役割と取り組み」を題材とし、20世紀以降の世界の歴史に関する知識や、国際連合の仕組みと役割、持続可能な開発目標に関する知識をみようとした。

第二問では、「オセアニア州の3か国」を題材とし、世界地理に関する知識及び地図や統計資料から情報を読み取る技能並びにオーストラリア政府が移民などへの英語教育に力を入れている理由について、資料を基に多面的・多角的に考察し、適切に表現する力をみようとした。

第三問では、「古代から近代までの日本の政治体制」を題材とし、歴史に関する知識及

び選挙権の拡大を求める大正時代の活動について、資料を基に多面的・多角的に考察し、適切に表現する力をみようとした。

第四問では、「国民主権と政治参加」を題材とし、国民主権に関する知識及び松山市の若年層に対する選挙啓発活動について、資料を基に多面的・多角的に考察し、適切に表現する力をみようとした。

第五問では、「九州地方の特色」を題材とし、日本地理に関する知識及び統計資料から情報を読み取る技能並びに半導体関連企業が熊本県に集まった理由について、資料を基に多面的・多角的に考察し、適切に表現する力をみようとした。

第六問では、「日本の労働環境の歴史」を題材とし、公民や近現代の歴史に関する知識及び中小企業が働き方改革に取り組む目的について、資料を基に多面的・多角的に考察し、適切に表現する力をみようとした。

2 結果の考察

＜第一問＞公民的分野を中心とする歴史的分野との融合問題

近現代の歴史について、時系列に関わる視点から理解することに課題

2 国際連盟の設立から国際連合が発足されるまでの間の世界のできごとについて述べた文を、年代の古い順に並べかえる問題。正答率は42.0%であり、20世紀前半から中ごろまでの国際情勢について、時系列を踏まえた理解が不十分であったと推察される。年表などの諸資料から、歴史に関わる事象についての情報を読み取り、時系列に沿った整理を行う活

動を重視したい。

5 SDGsの達成に向けた日本政府の具体的政策と関連するSDGsの目標を選択する問題。正答率は95.6%であった。SDGsに関する基本的な知識を、資料から読み取れる情報と関連付けることができているといえる。

＜第二問＞地理的分野を中心とする問題

資料から必要な情報を読み取り、考察して表現することに課題

4 (2) オーストラリア政府が移民などへの英語教育に力を入れている理由として考えられ

ることを、資料を基に説明する問題。オーストラリアで英語を母国語としない移民が増加していることには触れていたが、「成人移民英語プログラム」の実施目的にまで言及できていない解答が多かった。資料から必要な情報を読み取り、適切に表現する活動のより一層の充実が望まれる。

＜第三問＞歴史的分野を中心とする問題

各時代の特色を、政治の展開や社会の様子に着目して理解・考察することに課題

- 1 8世紀の日本の政治について述べた文として最も適切なものを選択する問題。正答率は39.7%であった。藤原道長や天武天皇について述べた選択肢を選んだ解答が多く、律令国家の確立に至る過程や、奈良時代の政治についての理解が不十分であったと推察される。各時代の特色について、政治の展開などに着目しながら理解できるよう指導をしたい。
- 5 大正時代に行われた活動について、その活動が行われた理由を、資料を基に説明する問題。納税額や性別により制限されていた選挙権の拡大を求めた活動という学習事項を、資料から読み取れることと関連付けながら考察できていない解答が多かった。知識を活用して諸資料を読み解き、社会の様子などに着目しながら考察・表現する活動を重視したい。

＜第四問＞公民的分野を中心とする問題

選挙制度を理解すること、統計資料から適切な情報を読み取り表現することに課題

- 2 (1) 選挙の制度を定めた法律の名称を記述する問題。正答率は33.7%であった。「普通選挙法」という誤答が多くみられた。選挙に関する具体的な事例を取り上げるなどして選挙に対する関心を高め、正しい選挙が行われ

るための制度や取組について理解を深めることができるようにしたい。

- 4 松山市が選挙コンシェルジュによる啓発活動を取り入れている理由を、資料を基に説明する問題。政治的関心と投票行動の関係性を示した統計資料から、適切な情報を読み取ることができていない解答が多かった。様々な種類の統計資料を基に、多面的・多角的に考察し、適切に表現する活動を多く取り入れたい。

＜第五問＞地理的分野を中心とする問題

習得した知識と、資料から読み取れる情報とを関連付けて考察することに課題

- 3 (2) 福岡県の製造品出荷額等に関する資料の空所にあてはまる品目の組み合わせを選択する問題。正答率は50.6%であった。福岡県の製造業の変化の特徴と、資料から読み取れる情報とを関連付けた考察が不十分であったと推察される。習得した知識を活用して、資料を分析する活動を多く取り入れたい。

＜第六問＞歴史的分野を中心とする公民的分野との融合問題

近現代の歴史に関わる事象を、時期や年代、推移に着目して整理することに課題

- 4 占領期の日本、高度経済成長期の日本、現代の日本の3つの時期の代表的なできごとを、起こった年代の古い順に並べかえる問題。正答率は22.9%と全設問中で最も低く、戦後の日本社会の変化や推移について理解できていなかったと推察される。歴史に関わる事象の学習においては、時期や年代、推移などに着目して問いを設定し、図版や統計資料などの諸資料から歴史に関わる事象についての情報を読み取り、まとめる活動を重視したい。

問題				正答率→	←無答率	得点率	調査書総点別得点率 (a:135~111点 b:110~88点 c:87~48点)
第一問	1	多肢選択	歴史 (近代)	73.1%	0.0%	73.1%	a: 89.2% b: 76.0% c: 55.2%
	2	並べ替え	歴史 (近代)	42.0%	0.0%	42.0%	a: 70.5% b: 37.5% c: 20.8%
	3	語句記述	公民 (国際)	48.8%	15.8%	56.4%	a: 86.2% b: 57.7% c: 27.8%
	4	多肢選択	公民 (国際)	77.7%	0.2%	77.7%	a: 92.3% b: 78.9% c: 62.9%
	5	多肢選択	公民 (現代社会)	95.6%	0.1%	95.6%	a: 99.2% b: 97.6% c: 90.1%
第二問	1	多肢選択	世界地理 (気候)	70.8%	0.0%	70.8%	a: 87.1% b: 71.6% c: 54.9%
	2	多肢選択	世界地理 (農業)	48.7%	0.1%	48.7%	a: 65.8% b: 45.4% c: 36.4%
	3	語句記述	世界地理 (農業)	66.4%	7.0%	71.4%	a: 93.5% b: 75.8% c: 46.4%
	4	(1) 多肢選択	世界地理 (貿易)	84.3%	0.3%	84.3%	a: 95.5% b: 88.2% c: 69.9%
		(2) 論述	世界地理	35.4%	3.6%	58.3%	a: 77.9% b: 58.0% c: 40.6%
第三問	1	多肢選択	歴史 (古代)	39.7%	0.1%	39.7%	a: 59.6% b: 36.4% c: 25.1%
	2	多肢選択	歴史 (中世)	49.8%	0.1%	49.8%	a: 73.3% b: 44.3% c: 34.2%
	3	並べ替え	歴史 (近世)	46.4%	0.0%	46.4%	a: 69.2% b: 43.2% c: 28.9%
	4	語句記述	歴史 (近代)	40.2%	14.6%	51.3%	a: 79.1% b: 52.5% c: 24.5%
	5	論述	歴史 (近代)	27.4%	6.0%	54.6%	a: 72.8% b: 56.5% c: 35.8%
第四問	1	多肢選択	公民 (人権)	62.5%	0.1%	62.5%	a: 88.9% b: 65.0% c: 35.7%
	2	(1) 語句記述	公民 (政治)	33.7%	15.6%	34.5%	a: 67.5% b: 29.9% c: 9.2%
		(2) 多肢選択	公民 (政治)	75.3%	0.3%	75.3%	a: 93.8% b: 78.4% c: 55.0%
	3	多肢選択	公民 (人権)	68.3%	0.7%	68.3%	a: 76.0% b: 71.1% c: 58.1%
	4	論述	公民 (政治)	29.2%	6.1%	56.6%	a: 68.7% b: 61.2% c: 40.5%
第五問	1	多肢選択	日本地理	82.7%	0.1%	82.7%	a: 95.5% b: 85.1% c: 68.5%
	2	多肢選択	日本地理 (農業)	90.6%	0.1%	90.6%	a: 97.0% b: 92.7% c: 82.6%
	3	(1) 語句記述	歴史 (近代)	55.7%	11.2%	62.6%	a: 89.0% b: 67.0% c: 33.7%
		(2) 多肢選択	日本地理 (産業)	50.6%	0.6%	50.6%	a: 67.5% b: 50.3% c: 35.5%
	4	論述	日本地理 (工業)	55.0%	4.1%	75.8%	a: 92.4% b: 79.7% c: 56.3%
第六問	1	多肢選択	歴史 (近代)	45.1%	0.2%	45.1%	a: 65.3% b: 37.5% c: 34.8%
	2	多肢選択	歴史 (近代)	41.0%	0.3%	41.0%	a: 52.4% b: 36.3% c: 35.5%
	3	語句記述	歴史 (近代)	63.2%	15.8%	64.8%	a: 94.5% b: 70.6% c: 31.2%
	4	並べ替え	歴公	22.9%	0.3%	22.9%	a: 36.4% b: 18.8% c: 15.1%
	5	論述	公民 (企業)	46.9%	6.0%	68.1%	a: 87.3% b: 71.4% c: 46.9%
計						60.9%	a: 79.5% b: 61.6% c: 43.2%

令和 8 年度
公立高等学校入学者選抜学力検査問題
社 会

第 一 問 国際連合の役割と取り組みについて、資料 A を読んで、あとの 1～5 の問いに答えなさい。

資料 A 国際連合の役割と取り組み

現在の世界には、各国が協力して取り組むべき問題があります。そうした問題の解決に主体的な役割を果たすことが期待される国際連合は、アメリカ大統領 ① の提案にもとづき、1920年に設立された②国際連盟にかわる新たな国際組織として、第二次世界大戦後に発足した組織です。国際連合には総会や③安全保障理事会などの主要機関が置かれ、専門機関などと連携しながら、④国際社会の平和維持や、⑤持続可能な開発目標（SDGs）の達成を目指した活動を行っています。

- 1 ① にあてはまる人物として、最も適切なものを、次のア～エから 1 つ選び、記号で答えなさい。
- ア ワシントン イ チャーチル ウ ウィルソン エ レーニン
- 2 下線部②について、国際連盟の設立から国際連合が発足されるまでの間に起こった世界のできごとについて述べた次のア～ウの文を、起こった年代の古い順に並べかえ、記号で答えなさい。
- ア ドイツのポツダムで会議が開かれ、日本の降伏条件や戦後処理について討議された。
- イ 日本、ドイツ、イタリアの間で日独伊三国同盟が結ばれ、三国間の関係が強化された。
- ウ アメリカの呼びかけでワシントン会議が開かれ、列強の間で海軍の軍備が制限された。
- 3 下線部③について、安全保障理事会の常任理事国である 5 か国が持つ権限により、重要な問題については 1 か国でも反対すると決定することができません。常任理事国のみが持つこのような権限を何というか、書きなさい。
- 4 下線部④について、国際連合が行う、紛争が起きた地域での停戦の監視や治安維持などにあたる活動の略称として、最も適切なものを、次のア～エから 1 つ選び、記号で答えなさい。
- ア WTO イ WHO ウ ODA エ PKO
- 5 下線部⑤について、資料 B は、SDGs の達成に向けた日本政府の具体的政策の一部です。資料 B の取り組みと関連する SDGs の目標として、最も適切なものを、あとのア～エから 1 つ選び、記号で答えなさい。

資料 B 「SDGs アクションプラン2023」の一部

事業名	世界遺産の森林生態系保全対策事業
事業概要	我が国の世界自然遺産の森林生態系を適切に保全管理し、世界遺産としての資質の維持・増進を図るため、必要な技術開発、科学的知見の収集を実施する。

（「外務省ホームページ」より作成）

- ア 平和と公正をすべての人に イ 陸の豊かさも守ろう
ウ 人や国の不平等をなくそう エ 貧困をなくそう

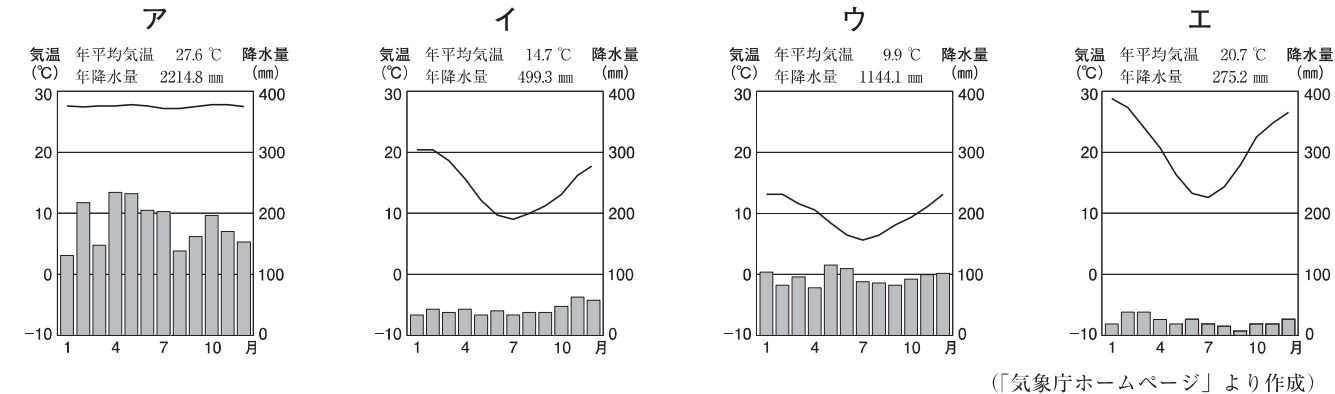
第 二 問 陽子さんは、社会科の「世界の諸地域を調べよう」という授業で、オセアニア州の3か国の特徴について調べ、略地図と資料Aを作成しました。これをみて、あとの1～4の問いに答えなさい。

略地図

資料A オセアニア州の3か国の特徴

- パプアニューギニアでは、熱帯雨林が広がっており、林業や①森林資源を利用した農業などが行われています。
- オーストラリアには、鉄鉱石や石炭などの鉱産資源が豊富にあり、②日本や中国、東南アジア諸国などに輸出されています。
- ニュージーランドでは、羊や牛などの牧畜がさかんに行われており、酪農品や肉類が重要な輸出品となっています。

1 陽子さんは、略地図中のPの都市の気温と降水量を調べました。Pの都市の気温と降水量をあらわしたグラフとして、最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。



2 陽子さんは、オセアニア州の3か国の農業について調べ、資料Bを作成しました。 X ～ Z にあてはまる国名の組み合わせとして、最も適切なものを、あとのア～カから1つ選び、記号で答えなさい。

資料B オセアニア州の3か国の農業（2022年）

	農林水産業		おもな農業生産物の生産量 (万 t)		おもな畜産物の生産量 (万 t)	
	就業者 (千人)	全就業者に占める割合(%)				
X	300	2.2	小麦 3,624 サトウキビ 2,867	生乳 845 牛肉 188		
Y	175	6.0	キウイフルーツ 65 リンゴ 58	生乳 2,105 牛肉 73		
Z	569	18.5	油ヤシの実 327 バナナ 124	ジビエ肉 44 豚肉 8		

(注) 数字は四捨五入している。ジビエ肉とは、食肉として販売される野生鳥獣肉のことを指す。(「FAOSTAT」などより作成)

- ア X - オーストラリア Y - パプアニューギニア Z - ニュージーランド

イ X - ニュージーランド Y - オーストラリア Z - パプアニューギニア

ウ X - パプアニューギニア Y - ニュージーランド Z - オーストラリア

エ X - オーストラリア Y - ニュージーランド Z - パプアニューギニア

オ X - ニュージーランド Y - パプアニューギニア Z - オーストラリア

カ X - パプアニューギニア Y - オーストラリア Z - ニュージーランド

- 3 下線部①について、パプアニューギニアでは、樹木などを切りはらって燃やし、燃やした場所で、その灰を肥料として作物を栽培する農業が行われています。この農業を何というか、書きなさい。
- 4 下線部②について、陽子さんは、オーストラリアと諸外国との関係に興味を持ち、調べを進めました。次の(1)、(2)の問いに答えなさい。

- (1) 陽子さんは、日本とオーストラリアの間の貿易について調べ、資料Cを作成しました。資料Cから読みとれることとして最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

資料C 日本からみたオーストラリアとの貿易（億円）

	2012年	2022年
日本の輸出総額	14,708	21,727
オーストラリアへのおもな輸出品〔輸出額〕	自動車〔7,525〕 機械類〔2,856〕 石油製品〔1,328〕	自動車〔11,053〕 石油製品〔3,828〕 機械類〔3,026〕
日本の輸入総額	45,036	116,225
オーストラリアからのおもな輸入品〔輸入額〕	石炭〔14,557〕 液化天然ガス〔10,446〕 鉄鉱石〔8,635〕	石炭〔52,689〕 液化天然ガス〔36,403〕 鉄鉱石〔9,489〕

（注）数字は四捨五入している。

（「日本国勢図会2024/25」などより作成）

- ア 日本の輸出総額は、2012年の方が2022年よりも大きい。
- イ 日本の輸出総額に占める自動車の輸出額の割合は、2012年、2022年ともに5割以上である。
- ウ 2022年の日本の輸入総額は、2012年の輸入総額の4倍以上である。
- エ 2022年の日本の石炭の輸入額は、2012年の石炭の輸入額の5倍以上である。
- (2) 陽子さんは、オーストラリア政府が移民などへの英語教育に力を入れていることを知り、調べを進め、資料D～Fを作成しました。オーストラリア政府が移民などへの英語教育に力を入れている理由として考えられることを、資料D～Fを参考にして、簡潔に述べなさい。

資料D オーストラリアへの移民の推移

- 1901年、オーストラリアへの移民はイギリスからの移民が中心であり、アジア系移民は制限されていた。
- 第二次世界大戦後、労働力不足を解消するために、イギリスからの移民に加え、英語を母国語としないヨーロッパ系移民などを積極的に受け入れた。
- 世界的な人権尊重の風潮が強まるなか、1973年にオーストラリア政府が白豪主義を撤廃し、非ヨーロッパ系移民を受け入れ、多文化主義を目指すことを宣言した。

（「概説オーストラリア史」などより作成）

資料E オーストラリアの総人口とオーストラリアに居住する移民の総計の推移（万人）

	オーストラリアの総人口	オーストラリアに居住する移民の総計
1947年	758	74
1961年	1,051	178
1971年	1,276	258
1981年	1,452	295
1991年	1,677	369
2001年	1,927	445
2011年	2,234	602
2021年	2,569	753

（注）数字は四捨五入している。

（「Australian Bureau of Statisticsホームページ」より作成）

資料F オーストラリアの「成人移民英語プログラム」

- 「成人移民英語プログラム」は、第二次世界大戦後に政府によって導入された、英語が母国語ではない移民などに対して、公用語である英語の学習機会を提供するプログラムである。
- 「成人移民英語プログラム」は、オーストラリア各地の語学学校などで、一定の条件を満たした移民などが無料で英語の授業を受講することができ、職場で役に立つ英語を学ぶクラスと、地域社会で人々と交流し自立した生活を送るための英語を学ぶクラスがある。

（「Australian Governmentホームページ」などより作成）

第 三 問 康平さんは、社会科の授業で、「古代から近代までの日本の政治体制」について調べ、次の表を作成しました。これを見て、あとの1～5の問いに答えなさい。

古代から近代までの日本の政治体制		
律令にもとづいた政治 ①8世紀初めに定められた大宝律令により、国家のしくみが整えられた。律令にもとづき、天皇や貴族中心の政治が行われた。	幕府による政治体制 12世紀末に鎌倉幕府が成立し、武士を中心とした政治が行われるようになった。それ以降、②室町幕府、③江戸幕府と、幕府による政治体制が続いた。	新政府の樹立と国会開設 ④将軍から政権が朝廷に返上され、その後、新政府が樹立された。自由民権運動が高まるなか、大日本帝国憲法が發布され、⑤帝国議会が開設された。

- 下線部①について、8世紀の日本の政治について述べた文として、最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。
 ア 藤原道長とその子である頼通が、摂政や関白の職につき政治の実権をにぎった。
 イ 仏教の力で国家を守ろうとした聖武天皇が、国ごとに国分寺などを建てるよう命じた。
 ウ 天皇の位を幼い皇子にゆずった白河天皇が、上皇として自ら政治を行った。
 エ 壬申の乱に勝利して即位した天武天皇が、天皇を中心とする強い国づくりを進めた。
- 下線部②について、室町時代に起きたできごとについて述べた文として、最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。
 ア 貿易を望む大名や豪商に対して、将軍が東南アジアへの渡航を許可する朱印状を発行した。
 イ 朝廷の勢力を回復させるために兵をあげた後鳥羽上皇が、幕府軍に敗れて隠岐に流された。
 ウ 将軍のあとつぎをめぐって有力な守護大名が対立したことをきっかけに、内乱が起きた。
 エ 二度にわたる蒙古襲来後に、生活が苦しくなった御家人たちが幕府への反感を強めた。
- 下線部③について、江戸時代に起きたできごとについて述べた次のア～ウの文を、起こった年代の古い順に並べかえ、記号で答えなさい。
 ア 幕府が日本近海に接近する外国船を追い払うことを命じる法令を出した。
 イ 幕府が大名に一年ごとに領地と江戸の往復を義務づける制度を定めた。
 ウ 幕府が財政難に対応するために、質素・儉約などをかけた享保の改革を行った。
- 下線部④について、将軍から政権が朝廷に返上されたこのできごとを何というか、書きなさい。
- 下線部⑤について、康平さんは、帝国議会の開設と国民の政治参加について興味を持ち、調べを進め、資料A～Cを作成しました。資料Cのような活動が行われた理由として考えられることを、資料A～Cを参考にして、簡潔に述べなさい。

資料A 明治・大正時代の選挙制度

- 1889年に制定された法律では、有権者は、25歳以上の男子で、直接国税15円以上という高額な税金を納める者に制限された。
- 1919年の法律改正で有権者の納税要件が引き下げられ、25歳以上の男子で、直接国税3円以上を納める者とされた。

(「総務省広報誌」より作成)

資料B 日本の総人口と有権者数

	総人口 (万人)	有権者数 (万人)	割合 (%)
1890年	3,990	45	1.1
1920年	5,596	307	5.5

(注) 数字は四捨五入している。

(「総務省統計局ホームページ」より作成)

資料C 大正時代に行われた活動

- 吉野作造が、政治は国民の幸福のために、国民の意見によって行われなければならない、という考え方を主張した。
- 平塚らいてうが、市川房枝たちと、女性の政治参加の実現を目的とした組織をつくり、活動した。

(「吉野作造記念館ホームページ」などより作成)

第 四 問 国民主権と政治参加について、資料Aを読んで、あとの1～4の問いに答えなさい。

資料A 国民主権と政治参加

国民主権とは、国民が国の政治のあり方を決める権利を持つという意味であり、①基本的人権の尊重、平和主義と並ぶ日本国憲法の三大原則の一つです。国民主権を生かしていくためには、②国政選挙への参加や、③請願権の行使などを通じて、国民一人ひとりが自分たちの生活と社会の向上を目指し、④政治や社会に目を向け、主体的に関わる姿勢を持つことが大切です。

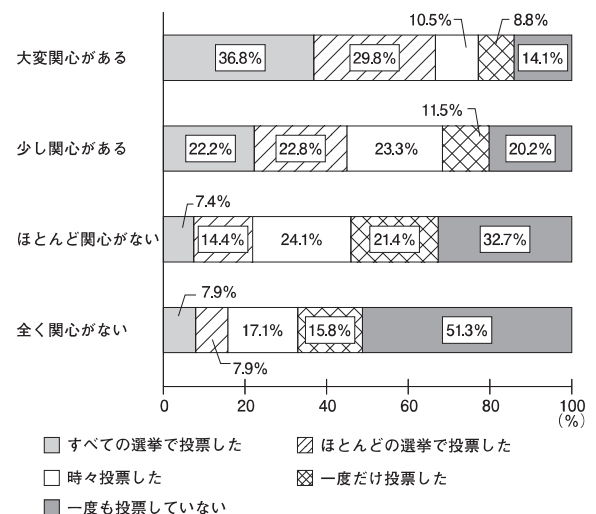
- 下線部①について、基本的人権の一つである、精神の自由を保障する日本国憲法の条文の一つとして、最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。
ア 何人も、公共の福祉に反しない限り、居住、移転及び職業選択の自由を有する。
イ 何人も、いかなる奴隷的拘束も受けない。又、犯罪に因る処罰の場合を除いては、その意に反する苦役に服させられない。
ウ 集会、結社及び言論、出版その他一切の表現の自由は、これを保障する。
エ すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。
- 下線部②について、次の(1)、(2)の問いに答えなさい。
(1) 日本において選挙区や議員定数などの選挙の制度を定めた法律を何というか、書きなさい。
(2) 2024年に行われた衆議院議員総選挙について述べた文として、最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。
ア 全国を一つの選挙区として行われる比例代表制をとった。
イ 小選挙区制と比例代表制を組み合わせた小選挙区比例代表並立制が採用された。
ウ 選挙に立候補できる被選挙権年齢を30歳以上とする制度が採用された。
エ 3年ごとに選挙を実施する制度により、総定数の半数が選出された。
- 下線部③について述べた文として、最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。
ア 国や地方公共団体などに意見や要望をする。 イ 労働条件の改善などを会社と交渉する。
ウ 国が正しく政治を行っているかを調査する。 エ 裁判所に権利侵害の救済を求める。
- 下線部④について、愛媛県松山市では、市内の学生を選挙コンシェルジュに任命し、選挙コンシェルジュによる啓発活動を行っています。松山市が選挙コンシェルジュによる啓発活動を取り入れている理由を、資料B、Cを参考にして、簡潔に述べなさい。

資料B 松山市における取り組み

- 松山市の若者の投票率が、全国と同じように低いという課題があったため、2014年2月から、松山市選挙管理委員会は、市内の専門学校生や大学生を選挙コンシェルジュに毎年任命し、選挙コンシェルジュによる啓発活動を行っている。
- 選挙コンシェルジュとなった学生たちが、市内の高校などで、期日前投票や模擬選挙などの主権者教育に関わる出前授業を行っている。
- 2023年には選挙コンシェルジュによるSNS啓発チームが立ちあげられ、10代、20代向けの選挙に関する投稿を行っている。

(「選挙コンシェルジュ10周年レポート」などより作成)

資料C 松山市の若者の政治的関心と投票行動



(注) 調査は松山市内の19歳から30歳を対象としている。
数字は四捨五入している。

(「2020年若者の投票行動に関する調査結果」より作成)

第五問 絵美さんは、社会科の授業で「九州地方の特色」について調べ、資料Aと略地図を作成しました。これをみて、あとの1～4の問いに答えなさい。

資料A九州地方の特色

自然

・山地や火山が広く分布し、①活火山も多い。
・暖流の影響により、冬でも比較的温暖な気候である。

農業

・九州北部では平野を中心に稲作がさかんに行われている。
・九州南部ではシラスと呼ばれる火山の噴出物が積もった台地が広がり、畑作や畜産がさかんである。

工業

・②北九州工業地帯（地域）は、日本の重工業の発展を支えた。
・自動車工場や半導体関連工場が九州各地に建てられ、近年は、③熊本県に半導体関連企業が集まっている。

九州地方の特色

略地図

- 1 下線部①について、略地図中の活火山 a の周辺の地域の説明として、最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。
- ア 南北に山地が連なり、その東側に広がる平野ではてんさいなどの畑作が行われている。
- イ 日本最大の湖が位置する低地であり、南北にのびる山地の間に盆地が広がっている。
- ウ 巨大なカルデラが広がり、火山の熱を生かした地熱発電所や温泉がみられる。
- エ 火山灰が積もってできた赤土におおわれた台地と、日本最大の平野が広がっている。
- 2 絵美さんは、九州地方の農業について調べを進め、資料Bを作成しました。資料Bから読みとれることとして、最も適切なものを、あとのア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

資料B九州地方の各県の農業統計（2023年）

	田と畑の面積（ha）		米の収穫量（t）	小麦の収穫量（t）	牛肉の生産量（t）
	田	畑			
福岡県	63,500	14,900	157,400	70,000	26,070
佐賀県	41,600	8,340	115,700	50,900	2,380
長崎県	20,700	24,600	48,800	2,150	8,980
熊本県	64,000	40,300	155,400	19,100	14,960
大分県	38,500	15,500	89,900	9,790	3,340
宮崎県	33,900	29,800	71,400	330	25,670
鹿児島県	33,600	77,100	83,400	130	47,800
沖縄県	750	35,400	1,850	10	1,910

（注）数字は四捨五入している。

（「作物統計調査」などより作成）

- ア 長崎県は、田、畑の面積がどちらも、沖縄県よりも広い。
- イ 鹿児島県は、九州地方のなかで畑の面積が最大で、小麦の収穫量は最も少ない。
- ウ 宮崎県は、牛肉の生産量が九州地方のなかで最も多い。
- エ 福岡県は、米、小麦の収穫量ともに九州地方のなかで最も多い。

3 下線部②について、絵美さんは、北九州工業地帯（地域）について調べました。次の(1)、(2)の問いに答えなさい。

(1) 北九州工業地帯（地域）の発展のきっかけとなった、1901年に鉄鋼の生産を始めた官営の施設を何というか、書きなさい。

(2) 絵美さんは、北九州工業地帯（地域）がある福岡県の製造品出荷額などの推移を調べ、資料Cを作成しました。資料C中の X ～ Z にあてはまる品目の組み合わせとして、最も適切なものを、あとのア～カから1つ選び、記号で答えなさい。

資料C 福岡県の製造品出荷額等の総額と上位3品目の推移（億円）

	1960年	1990年	2020年
総額	6,388	77,690	89,519
上位3品目 〔製造品出荷額等〕	X 〔2,400〕 化 学 〔 885〕 Y 〔 840〕	Z 〔9,539〕 X 〔9,003〕 電気機械 〔7,441〕	Z 〔27,961〕 Y 〔10,396〕 X 〔 7,705〕

（注）数字は四捨五入している。

（「工業統計調査」などより作成）

- | | | | |
|---|-----------|-----------|-----------|
| ア | X - 輸送用機械 | Y - 鉄鋼 | Z - 食料品 |
| イ | X - 輸送用機械 | Y - 食料品 | Z - 鉄鋼 |
| ウ | X - 食料品 | Y - 鉄鋼 | Z - 輸送用機械 |
| エ | X - 食料品 | Y - 輸送用機械 | Z - 鉄鋼 |
| オ | X - 鉄鋼 | Y - 食料品 | Z - 輸送用機械 |
| カ | X - 鉄鋼 | Y - 輸送用機械 | Z - 食料品 |

4 下線部③について、絵美さんは調べを進め、資料D～Fを作成しました。半導体関連企業が熊本県に集まった理由として、資料D～Fからわかることを、簡潔に述べなさい。

資料D 半導体の使用と製造

- 半導体は、軽量で高価な部品であり、スマートフォンや自動車、タブレットなど、私たちの生活に関わるさまざまなものに使用されている。
- 半導体をつくる際には、わずかなゴミや不純物であっても水で洗い流す必要があることから、大量の水が必要となる。

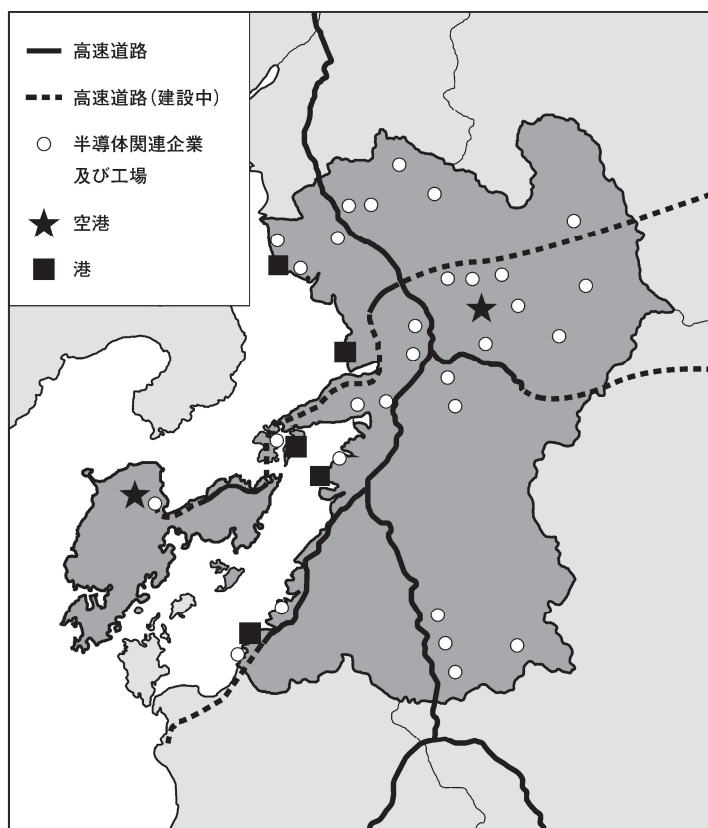
（「半導体理解促進ガイドブック」などより作成）

資料E 熊本の水資源

日本の平均降水量が、年間約1,700mmであるのに対し、熊本地域では年間約2,000mmの降水量がある。降雨の多さが地下水に恵まれる一因となっており、熊本市では、市民の使う水道水の100%が地下水でまかなわれている。

（「熊本県ホームページ」などより作成）

資料F 熊本県の交通網と半導体関連企業及び工場の立地



（「企業立地ガイド熊本」などより作成）

第 六 問 日本の労働環境の歴史について、資料A～Dをみて、あとの1～5の問いに答えなさい。

資料A 日本の産業革命と労働環境

①19世紀末から産業革命が始まると、多くの労働者は長時間労働を強いられた。大正時代には、各地で②労働運動や社会運動が活発化した。

資料C 日本国憲法の制定と労働者の権利

④第二次世界大戦後、政治や経済などの民主化が進められた。日本国憲法の制定により、労働者の権利が保障された。

資料B 戦時体制と労働者

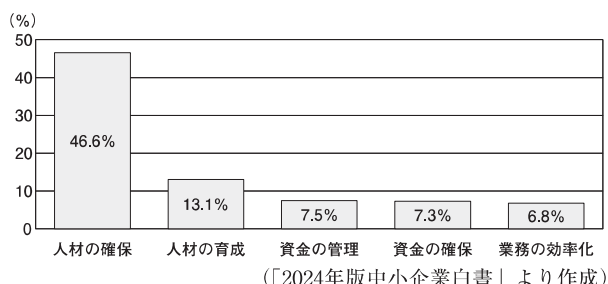
日中戦争の長期化を受け、③戦時体制を整えた。軍需品の生産が優先され、多くの労働者が軍需工場などに動員された。

資料D 働き方改革の推進

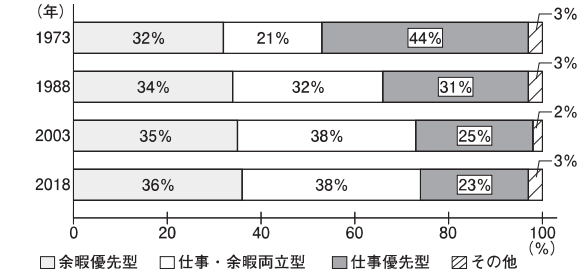
2019年に働き方改革に関する法律が施行され、大企業や⑤中小企業に働き方改革に取り組むことが促された。

- 下線部①に関連して、日本で産業革命が始まった19世紀末の世界のようすについて述べた文として、最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。
ア フランスでナポレオンが皇帝となった。 イ 日本と清との間で日清戦争が起きた。
ウ アヘン戦争でイギリスが清に勝利した。 エ 中国で辛亥革命が起こり中華民国が成立した。
- 下線部②について、大正時代の労働運動や社会運動に関係することがらについて述べた文として、最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。
ア シベリア出兵による米の急激な値上がりに対して、米の安売りを求める騒動が全国で起きた。
イ 足尾銅山で起きた鉱毒被害を受け、田中正造が銅山の操業停止を求めて活動を始めた。
ウ ポーツマス条約の内容に不満を持った国民が、政府を激しく批判した。
エ 農地改革によって、多くの小作人が農地を手に入れ自作農となった。
- 下線部③について、政府が議会の承認なしに、労働力や物資を戦争に動員することを目的として、1938年に制定された法律を何というか、書きなさい。
- 下線部④について、第二次世界大戦後の日本の労働環境や生活環境に関連するできごとについて述べた次のア～ウの文を、起こった年代の古い順に並べかえ、記号で答えなさい。
ア 労働基準法が制定され、労働時間や賃金、休日などの労働基準が定められた。
イ 男女雇用機会均等法が制定され、雇用や昇進などの職場での男女平等が定められた。
ウ 公害対策基本法が制定され、公害を防止するための国や企業の役割などが定められた。
- 下線部⑤について、現在の日本において、中小企業が働き方改革に取り組む目的について、資料E～Gを参考にして、簡潔に述べなさい。

資料E 中小企業が考える最も優先度が高い経営課題



資料F 仕事と余暇に関する労働者の意識の変化



(注) 数字は四捨五入している。
(「令和7年版労働経済の分析」などより作成)

資料G 中小企業が取り組む働き方改革の事例と職場の変化

- 月給及び休憩時間はそのまま、全従業員の勤務時間を30分短縮した。
- 時間単位で休暇を取得できる制度を導入するなど、休暇をとりやすい環境を整えた。
- 勤務時間内に仕事が終わるように、業務効率化のための知恵を出し合う雰囲気が生まれた。

(「中小企業における働き方改革取組事例集」より作成)

令和8 (3) 社会正答表

備考欄	配点	第 一 問	
	15		
	3	1	ウ
	3	2	ウ → イ → ア
	3	3	拒否権
	3	4	エ
	3	5	イ

備考欄	配点	第 二 問	
	17		
	3	1	ア
	3	2	エ
	3	3	焼畑農業
	3	(1)	イ
	5	4 (2)	(例) オーストラリアでは、第二次世界大戦後、英語を母国語としない移民が増加し、これらの人々に対して公用語である英語を学ぶ機会を提供することで、移民が自立して生活したり働いたりできるようにするため。

備考欄	配点	第 五 問	
	17		
	3	1	ウ
	3	2	エ
	3	3 (1)	八幡製鉄所
	3	(2)	オ
	5	4	(例) 熊本県は、半導体を製造するのに必要な水資源が豊かであるだけでなく、空港や高速道路、港が整備されており、半導体の輸送ルートが確保されているから。

備考欄	配点	第 三 問	
	17		
	3	1	イ
	3	2	ウ
	3	3	イ → ウ → ア
	3	4	大政奉還
	5	5	(例) 選挙権が納税額や性別により制限されている状況を改善して、より多くの国民に選挙権が与えられ、広く政治に参加できるようにするため。

備考欄	配点	第 四 問	
	17		
	3	1	ウ
	3	2 (1)	公職選挙法
	3	(2)	イ
	3	3	ア
	5	4	(例) 政治的関心が高いほど、投票行動につながる傾向があるため、選挙コンシェルジュによる出前授業やSNSでの投稿などを通じて、若者の政治的関心を高め、若者の投票率向上を目指しているから。

備考欄	配点	第 六 問	
	17		
	3	1	イ
	3	2	ア
	3	3	国家総動員法
	3	4	ア → ウ → イ
	5	5	(例) 中小企業では人材の確保が課題となっており、仕事と余暇の両立や余暇を優先する労働者の意識の変化に応じて、業務の効率化や勤務時間の短縮、休暇制度の充実を図り、人材の確保につなげようとしている。

(注) 上記以外については、各学校で適宜基準を設けるものとする。

満点 100 点

1 出題のねらいと内容

数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などの知識及び事象を数学化したり、数学的に解釈、表現・処理したりする技能並びにそれらを活用して問題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を総合的にみることをねらいとした。

第一問では、数と式についての基礎的な知識と計算する力、ヒストグラムから相対度数を求める力及び空間図形の性質から線分の長さを求める力をみようとした。

第二問では、起こり得る場合の数を考察し確率を求める力、正五角形の性質と平行線の性質を利用して角の大きさを求める力、関数の変域を求める力及びグラフの特徴を捉え比例定数を求める力、与えられた事象から規則

性を見いだし数学化して論理的に考察する力をみようとした。

第三問では、2種類の飲料の販売数と製造の手順を素材とし、条件を整理して一次方程式を立式し処理する力、水と液体原料をタンクに入れる時間と量との関係をグラフに表現する力及び変化する二つの数量の関係を論理的に考察して処理する力をみようとした。

第四問では、三平方の定理から線分の長さを求める力、二つの三角形が相似であることを二等辺三角形の性質から論理的に考察し表現する力、相似な三角形に着目して線分の長さを求める力及び円周角の定理の逆や相似な三角形を見いだし論理的に問題を解決する力をみようとした。

2 結果の考察

＜第一問＞数と式、図形、関数、データの活用
の基礎事項についての問題

無理数を数量として捉えること、相対度数の意味を理解することに課題

6 示された無理数よりも小さい自然数をすべて答える問題。正答率は53.5%で、根号の中の数6よりも小さい自然数をすべて答えた誤答が多かった。授業で無理数を扱う際は、数直線上に点をとり観察するなど、無理数の数量を実感させ、数の概念が理解できるような工夫が望まれる。

7 示されたヒストグラムから、中央値がふくまれる階級の相対度数を求める問題。正答率は51.5%で、中央値がふくまれる階級やその階級値を答えた誤答が多かった。授業でデータを扱う際は、示されたヒストグラムなどから、データの傾向を読み取り、その結果を基

に予測や判断したことを説明する活動を通して、相対度数などの必要性や意味を理解できるような工夫が望まれる。

＜第二問＞4領域の基礎事項についての問題及び数学的な見方・考え方を働かせる問題

図形の性質を組み合わせで考察すること、二次関数の式とグラフの概形を相互に関連付けて考察すること、規則性を考察し立式を行うことに課題

2 平行線の性質と三角形の外角の和の性質を用いて、多角形の角度を求める問題。(1)は、正五角形の内角の性質を用いて角度を求める問題。正答率は70.1%で、多角形の内角の性質は理解できているといえる。(2)は、平行線の性質を用いて角度を求める問題。正答率は29.6%で、無答率は19.4%であった。図に

示されている角度と(1)で求めた角度を足した誤答が多かった。内角の性質と平行線の性質を組み合わせで考えることができなかつたと推察される。図形をよく観察し条件や性質を整理して、問題を段階的に解決する力を育成したい。

- 3 (1)は、与えられた x の変域に対応する y の変域を求める問題。正答率は63.2%で、 x の変域の端点を代入した誤答が多かった。(2)は、放物線の対称性とグラフ上の点を通る直線の傾きを利用し、比例定数を求める問題。正答率は24.7%で、無答率は第二問の中で最も高い31.5%であった。誤答としては正負を誤った解答が多く、比例定数の正負とグラフの概形を関連付けて考察することに課題があるといえる。授業でグラフを扱う際は、ICT機器などを用いて視覚的に捉える活動を取り入れ、二つの数量関係の変化や対応の特徴を考察する力を育成したい。

- 4 (2) 規則性について考察し、正方形に並べたタイルのうち、色が塗られていないものの個数を求める問題。正答率は46.8%で、立式をせず、(1)の結果から全体のタイルの数を5で割ったと推察される誤答が多かった。授業で規則性を扱う際は、予想を立て、文字式を用いて予想が正しいことを説明する活動を取り入れ、数学的な表現を用いて事象を的確に表現する力を育成したい。

＜第三問＞数と式、関数の融合問題

与えられた条件を正しく読み取り、数学的に表現したり考察したりすることに課題

- 1 (1)は、条件を整理して文字式を立式する問題。正答率は48.0%であった。飲料Aを飲料Bの1.5倍仕入れていることは立式できているが、10本売れ残ったことまでは立式できていない誤答が多かった。(2)は、立式した

ものを処理する問題。正答率は17.9%であった。生徒の経験に基づいた場面を設定したり興味のある題材を取り上げたりして、数学的に表現するよさを実感させ、日常生活や社会の事象に数学を活用する力を育成したい。

- 2 (3) グラフの交点の座標を用いて2つの飲料の製造量が等しくなる時間を求める問題。正答率は19.1%で、グラフが交わるときに製造量が等しくなることは捉えられていたが、グラフから文字式を立式できなかつたと推察される誤答が多かった。必要な情報を式やグラフに表して、考察したことを説明する活動を取り入れ、問題解決に必要な情報を適切に読み取り、数学的に考察する力を育成したい。

＜第四問＞図形についての問題

相似であることを論理的に筋道を立てて表現すること、合同な三角形を多面的に捉え考察することに課題

- 2 二つの三角形が相似であることを、円の接線の性質と二等辺三角形の底角の性質を用いて証明する問題。円の接線と、接点を通る半径が垂直であることは記述できているが、二等辺三角形の底角の性質を用いて二つの角が等しいことを記述できていない誤答が多かった。授業で証明を扱う際は、証明の根拠を説明し合ったり確認したりするなど、生徒同士で証明を評価・改善する活動を取り入れ、筋道を立てて表現する力を育成したい。

- 4 付加された条件の下で、円周角の定理を用いて、合同な三角形の関係を見だし、面積を求める問題。無答率は58.8%と全問題の中で最も高かった。合同な三角形に着目できず、線分の長さを求めることができなかつたと推察される。図形を多面的な視点で捉え、合同な三角形の対応関係を見だし、筋道を立てて考察する力を育成したい。

問題				正答率→	←無答率	得点率	調査書総点別得点率 (a:135~111点 b:110~88点 c:87~48点)
第一問	1	計算	整数の加減	98.0%	0.0%	98.0%	a: 99.7% b: 99.1% c: 95.1%
	2	計算	分数を含む乗法	87.2%	1.2%	87.8%	a: 96.6% b: 93.2% c: 73.9%
	3	計算	整式の加減	88.8%	0.7%	88.9%	a: 97.6% b: 93.5% c: 75.8%
	4	求値	反比例	69.5%	2.0%	69.5%	a: 96.7% b: 78.6% c: 34.5%
	5	計算	連立方程式	84.0%	3.6%	84.7%	a: 97.1% b: 92.4% c: 65.0%
	6	求値	無理数	53.5%	4.1%	54.1%	a: 81.9% b: 54.0% c: 28.7%
	7	求値	相対度数	51.5%	6.8%	51.6%	a: 84.2% b: 54.9% c: 18.2%
	8	求値	中点連結定理	53.6%	7.7%	53.8%	a: 86.7% b: 57.3% c: 19.8%
第二問	1	(1) 求値	確率	92.7%	0.5%	92.8%	a: 99.4% b: 96.5% c: 82.7%
		(2) 求値	確率	61.4%	3.8%	62.3%	a: 81.9% b: 66.6% c: 39.6%
	2	(1) 求値	角の大きさ	70.1%	4.6%	70.1%	a: 95.7% b: 77.9% c: 38.2%
		(2) 求値	角の大きさ	29.6%	19.4%	29.6%	a: 60.4% b: 24.6% c: 6.8%
	3	(1) 求値	関数 $y = ax^2$	63.2%	6.9%	63.6%	a: 92.5% b: 70.8% c: 29.4%
		(2) 求値	関数 $y = ax^2$	24.7%	31.5%	24.7%	a: 54.2% b: 19.2% c: 3.6%
	4	(1) 求値	規則性	77.4%	0.6%	77.4%	a: 89.6% b: 79.6% c: 63.8%
		(2) 求値	二次方程式	46.8%	13.2%	46.8%	a: 75.2% b: 44.6% c: 23.2%
第三問	1	(1) 式表現	文字式	48.0%	10.1%	48.4%	a: 79.3% b: 49.4% c: 19.1%
		(2) 求値	一次方程式	17.9%	37.8%	20.2%	a: 50.3% b: 11.3% c: 2.0%
	2	(1) 求値	比例	85.3%	5.7%	85.3%	a: 96.8% b: 89.1% c: 70.6%
		(2) グラフ表現	一次関数	57.3%	12.6%	61.1%	a: 89.1% b: 64.4% c: 31.9%
		(3) 求値	一次関数	19.1%	35.5%	19.3%	a: 48.9% b: 10.7% c: 1.3%
第四問	1	求値	三平方の定理	70.4%	4.9%	70.4%	a: 95.5% b: 79.2% c: 37.9%
	2	証明	三角形の相似の証明	23.7%	12.7%	35.7%	a: 69.5% b: 32.2% c: 8.4%
	3	求値	三角形と比	11.8%	27.9%	11.8%	a: 32.3% b: 4.9% c: 0.5%
	4	求値	三角形の面積	1.4%	58.8%	1.4%	a: 4.4% b: 0.1% c: 0.0%
計						50.7%	a: 73.4% b: 51.1% c: 29.3%

令和 8 年度
公立高等学校入学者選抜学力検査問題
数 学

第 一 問 次の 1 ～ 8 の問いに答えなさい。

1 $-7 + 2$ を計算しなさい。

2 $(-3)^2 \times \frac{5}{6}$ を計算しなさい。

3 $4(a + 2b) - 2(3a - b)$ を計算しなさい。

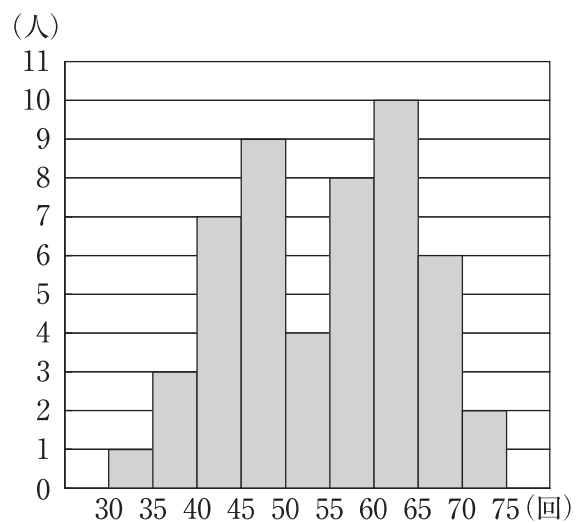
- 4 下の表は、反比例 $y = \frac{a}{x}$ について、 x の値と y の値との関係を表したものです。□ にあてはまる数を求めなさい。

x	...	-2	...	0	...	6	...
y	...	□	...	×	...	3	...

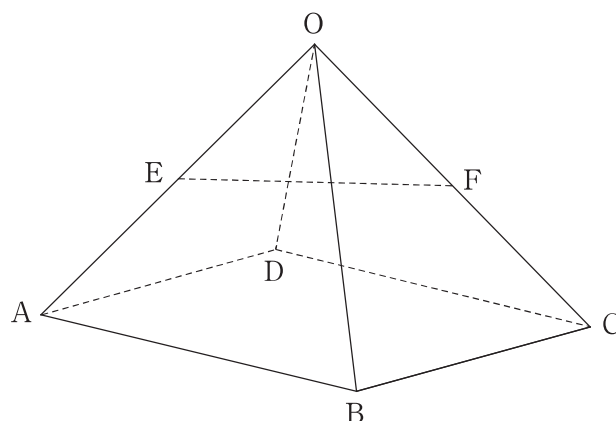
- 5 連立方程式 $\begin{cases} 2x + y = 4 \\ 3x - 2y = 13 \end{cases}$ を解きなさい。

- 6 $\sqrt{6}$ より小さい自然数をすべて答えなさい。

- 7 下の図は、ある中学校の2年生 50 人の反復横とびの記録を、階級の幅を 5 回として、ヒストグラムに表したものです。たとえば、30 回以上 35 回未満の階級の度数は 1 人です。
このヒストグラムから、中央値がふくまれる階級の相対度数を求めなさい。



- 8 下の図のような、底面が1辺6 cmの正方形で、側面がすべて正三角形である正四角錐があります。辺OA、辺OCの中点をそれぞれE、Fとしたとき、線分EFの長さを求めなさい。



第 二 問 次の1～4の問いに答えなさい。

- 1 下の図のような、1、2、3、4、5の数字が1つずつ書かれた5枚のカードがあります。あとの(1)、(2)の問いに答えなさい。

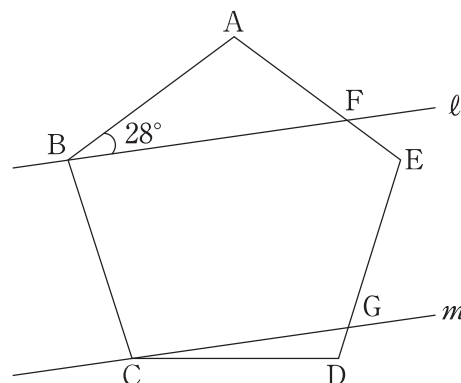


- (1) 5枚のカードをよくきってから、1枚取り出します。このとき、取り出したカードに書かれた数が奇数である確率を求めなさい。
- (2) 5枚のカードをよくきってから、1枚ずつ2回続けて取り出します。1回目に取り出したカードに書かれた数を十の位の数字、2回目に取り出したカードに書かれた数を一の位の数字として、2けたの整数をつくります。このとき、できる2けたの整数が、3の倍数になる確率を求めなさい。ただし、取り出したカードはもとにもどさないものとします。

- 2 下の図のような、正五角形ABCDEがあります。辺AE上に、点Fを $\angle ABF = 28^\circ$ となるようにとり、点Bと点Fを通る直線を ℓ とします。また、点Cを通して直線 ℓ に平行な直線を m とし、直線 m と辺DEとの交点をGとします。

次の(1)、(2)の問いに答えなさい。

- (1) $\angle FBC$ の大きさを求めなさい。



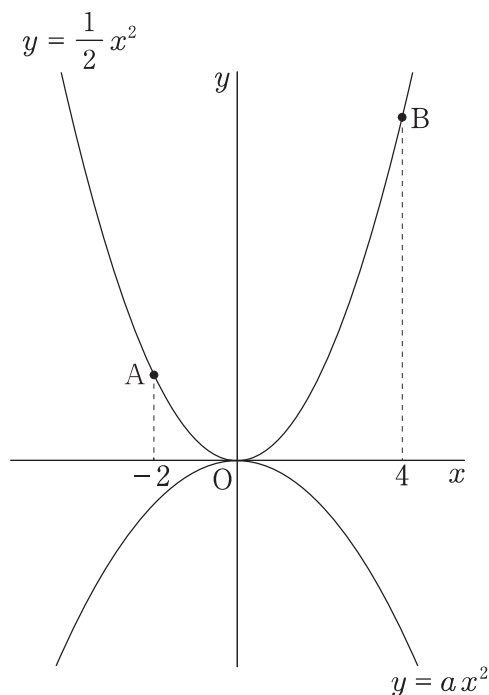
- (2) $\angle CGE$ の大きさを求めなさい。

- 3 下の図のような、関数 $y = \frac{1}{2}x^2$ と関数 $y = ax^2$ のグラフがあります。関数 $y = \frac{1}{2}x^2$ のグラフ上に、 x 座標がそれぞれ -2 、 4 である 2 点 A、B をとります。ただし、 $a < 0$ とします。

次の(1)、(2)の問いに答えなさい。

- (1) 関数 $y = \frac{1}{2}x^2$ について、 x の変域が $-2 \leq x \leq 4$ のとき、 y の変域を求めなさい。

- (2) 関数 $y = ax^2$ のグラフ上に、点Bと x 座標が等しい点Cと、点Cと y 座標が等しく x 座標が異なる点Dをとります。2点A、Dを通る直線の傾きが3であるとき、 a の値を求めなさい。



- 4 小さい正方形のタイルをすきまなく並べて、 n 段 n 列の正方形をつくり、下の【規則】にしたがって色を塗ります。

【規則】

1 段目の 1 列目にあるタイル、2 段目の 2 列目にあるタイル、3 段目の 3 列目にあるタイル、
…、 n 段目の n 列目にあるタイルに色を塗る。

下の図は、タイルを並べて、3 段 3 列の正方形をつくり、【規則】にしたがって色を塗ったものです。

あとの(1)、(2)の問いに答えなさい。

	1 列 目	2 列 目	3 列 目
1 段目			
2 段目			
3 段目			

- (1) 6 段 6 列の正方形をつくり、【規則】にしたがって色を塗りました。このとき、色が塗られていないタイルの枚数を求めなさい。
- (2) n 段 n 列の正方形をつくり、【規則】にしたがって色を塗りました。色が塗られていないタイルの枚数が 240 枚となるとき、 n の値を求めなさい。

第 三 問 良太さんは、2 種類の飲料A、B について、ある店での販売数と工場で製造する手順を調べました。

次の 1、2 の問いに答えなさい。

- 1 良太さんは、ペットボトル入りの飲料A と飲料B について、ある店での販売数を調べました。この店では、飲料A の本数が飲料B の本数の 1.5 倍となるように、飲料A と飲料B を仕入れました。仕入れた翌日に、すべての飲料A と飲料B を店頭に並べて販売したところ、飲料B はすべて売れましたが、飲料A は 10 本売れ残りしました。

次の(1)、(2)の問いに答えなさい。ただし、飲料A、B ともに仕入れ前には店にないものとします。

- (1) この店で、仕入れた翌日に飲料B が売れた本数を x としたとき、飲料A が売れた本数を x を使った式で表しなさい。

- (2) この店では、飲料A の値段は 1 本 140 円、飲料B の値段は 1 本 190 円です。仕入れた翌日の飲料A の売上げと飲料B の売上げの合計は 21000 円でした。仕入れた翌日に、飲料A が売れた本数と飲料B が売れた本数は、それぞれ何本ですか。

- 2 工場では、飲料A と飲料B のそれぞれについて、水と液体原料をタンクに入れ、製造しています。良太さんは、飲料A と飲料B を製造する手順について調べてわかったことを、次の のようにそれぞれまとめました。

【飲料A を製造する手順】

- ① 空のタンクPに水を毎分 20 L の一定の割合で入れ始める。
- ② 水を入れ始めてから 30 分後に、1 分あたりに入れる水の量を変えずに、タンクP に液体原料を毎分 20 L の一定の割合で入れ始める。
- ③ タンクP に入っている水と液体原料の合計の量が 1000 L になったときに、水と液体原料を入れることをやめる。

【飲料B を製造する手順】

- ① 空のタンクQに、水を毎分 15 L の一定の割合で入れ始めるのと同時に、液体原料を毎分 20 L の一定の割合で入れ始める。
- ② タンクQ に入っている水と液体原料の合計の量が 700 L になったときに、液体原料を入れることをやめるのと同時に、水を毎分 10 L の一定の割合に変えて入れ続ける。
- ③ タンクQ に入っている水と液体原料の合計の量が 1000 L になったときに、水を入れることをやめる。

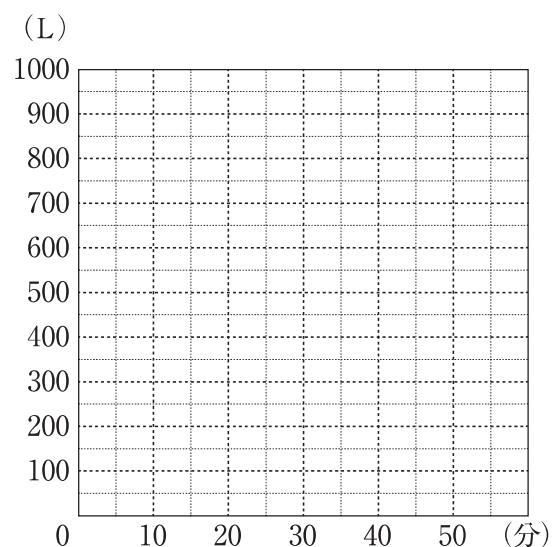
飲料A、B をこれらの手順で製造するとき、次の(1)～(3)の問いに答えなさい。

(1) 空のタンクPに水を入れ始めてから 30 分後の、タンクPに入っている水の量は何Lですか。

(2) 空のタンクQに水と液体原料を入れ始めてから水を入れることをやめるまでの、時間とタンクQに入っている水と液体原料の合計の量との関係を表すグラフを、**解答用紙の図**にかき入れなさい。

(3) 空のタンクPに水を入れ始めるのと同時に、空のタンクQに水と液体原料を入れ始めたところ、タンクPに入っている水と液体原料の合計の量と、タンクQに入っている水と液体原料の合計の量が等しくなるときがありました。タンクPに入っている水と液体原料の合計の量と、タンクQに入っている水と液体原料の合計の量が等しくなったのは、空のタンクPに水を入れ始めてから、何分何秒後ですか。ただし、タンクP、タンクQに入っている水と液体原料の合計の量が、どちらも 0 L のときとどちらも 1000 L のときは除きます。

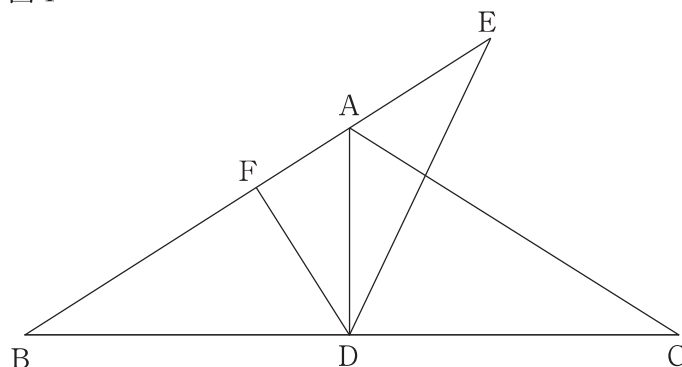
なお、下の図を利用してもかまいません。



第 四 問 図 I のような、 $AB = AC = 7 \text{ cm}$ 、 $BC = 12 \text{ cm}$ の二等辺三角形 ABC があります。点 A から辺 BC に垂線をひき、辺 BC との交点を D とします。また、辺 AB を A の方に延長した直線上に、点 E を $DB = DE$ となるようにとり、点 D と点 E を結びます。さらに、点 D から辺 AB に垂線をひき、辺 AB との交点を F とします。

次の 1 ～ 4 の問いに答えなさい。

図 I



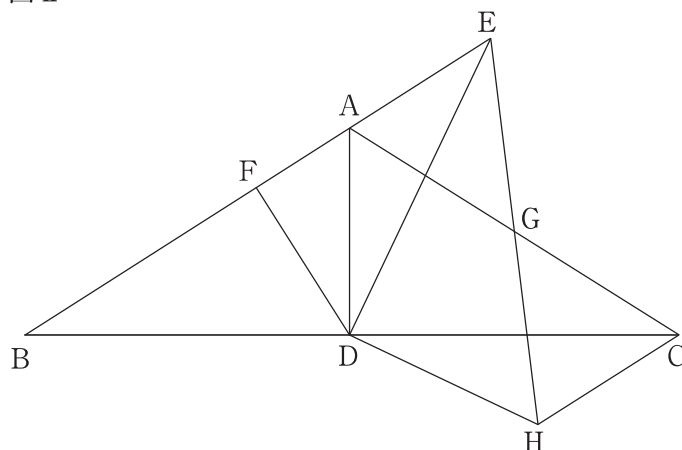
1 線分 AD の長さを求めなさい。

2 $\triangle ADC \simeq \triangle DFE$ であることを証明しなさい。

3 線分 AE の長さを求めなさい。

4 図 II は、図 I において、辺 AC の中点を G とし、線分 EG を G の方に延長した直線上に、点 H を $EG = GH$ となるようにとったものです。また、点 H と点 C 、点 H と点 D をそれぞれ結びます。 $\triangle CDH$ の面積を求めなさい。

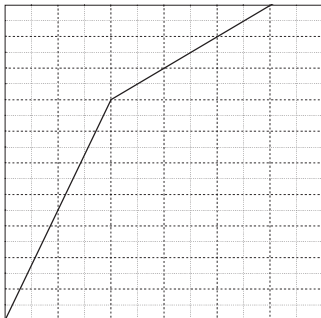
図 II



令和8 (2) 数 学 正 答 表

備考欄	配 点		第 一 問
	26		
	3	1	- 5
	3	2	$\frac{15}{2}$
	3	3	$-2a+10b$
	3	4	- 9
	3	5	$x = 3、y = -2$
	3	6	1、2
	4	7	0.16
	4	8	$3\sqrt{2}$ [cm]

備考欄	配 点		第 二 問	
	32			
	3	1	(1)	$\frac{3}{5}$
	5		(2)	$\frac{2}{5}$
	3	2	(1)	80 [度]
	5		(2)	116 [度]
	3	3	(1)	$0 \leq y \leq 8$
	5		(2)	$-\frac{1}{4}$
	3	4	(1)	30 [枚]
	5		(2)	16

備考欄	配 点		第 三 問
	21		
	3	(1)	$1.5x - 10$ [本]
	4	1	[飲料A] 74 [本]
		(2)	[飲料B] 56 [本]
	3	(1)	600 [L]
採点基準と配点は各学校で定める。	5	2 (2)	(L)  0 10 20 30 40 50 (分)
			(3)

備考欄	配 点		第 四 問
	21		
採点基準と配点は各学校で定める。	4	1	$\sqrt{13}$ [cm]
	6	2	(例) $\triangle ADC$ と $\triangle DFE$ において 仮定から $\angle ADC = \angle DFE = 90^\circ \quad \cdots \quad \text{①}$ $\triangle ABC$ は二等辺三角形だから $\angle ABC = \angle ACB$ つまり $\angle ABD = \angle ACD \quad \cdots \quad \text{②}$ $\triangle DEB$ は二等辺三角形だから $\angle DEB = \angle DBE$ つまり $\angle DEF = \angle ABD \quad \cdots \quad \text{③}$ ②、③より $\angle ACD = \angle DEF \quad \cdots \quad \text{④}$ ①、④より、2組の角がそれぞれ等しいから $\triangle ADC \sim \triangle DFE$
	5	3	$\frac{23}{7}$ [cm]
	6	4	$\frac{69\sqrt{13}}{49}$ [cm ²]

(注) 上記以外については、各学校で適宜基準を設けるものとする。

1 出題のねらいと内容

自然の事物・現象についての知識及び観察、実験などに関する技能並びに科学的に探究する力を総合的にみることをねらいとした。

第一問では、混合物の分離、音の性質、刺激に対する反応、火山活動と火成岩を素材とし、自然の事物・現象に関する基本的な知識及び技能並びに自然の事物・現象の規則性や関係性を思考、判断する力をみようとした。

第二問では、力学台車をものさしに衝突させて力学台車の速さともものさしの移動距離の関係を調べる実験を通して、運動エネルギーや物体どうしにはたらいている力に関する知識及び得られた実験結果を分析して解釈し、力学台車がものさしにした仕事について思考、判断する力をみようとした。

第三問では、月の観察を通して、太陽と月の位置関係による月の形の見え方に関する知

識及び地球から見たときの月の動き方並びに皆既月食のときの地球と月の位置関係や月食のしくみについて思考、判断、表現する力をみようとした。

第四問では、植物の種子の呼吸に関する実験を通して、葉緑体のはたらきや呼吸に関する知識及び呼吸によって出入りする酸素と二酸化炭素の関係について思考、判断、表現する力をみようとした。

第五問では、マグネシウムと酸素が結びついて酸化マグネシウムができるときの質量の変化を調べる実験を通して、マグネシウムと酸素の化学反応式及び反応する物質の質量の間には一定の関係があること並びに得られた実験結果を分析して解釈し、質量変化の規則性について思考、判断する力をみようとした。

2 結果の考察

＜第一問＞ 4領域の基礎的・基本的事項についての問題

実験器具に関する基本的な知識は定着しているが、用語の理解と定着に課題

- 1 (2) ガスバーナーの空気調節ねじについて正しいものを選択する問題。正答率は78.5%であった。実験器具の知識は概ね定着しているといえる。安全に実験を行うためにも、基本操作や正しい器具の扱い方などを習熟させるように今後も指導したい。
- 4 (1) 火山の噴火により噴き出されたものをまとめて何というかを記述する問題。得点率は55.6%であった。「マグマ」や「噴火物」といった誤答が多くみられた。火山活動については、実際に観察するのは困難であるため、

火山噴出物の実物の活用や、モデル実験を行って考察させたり、コンピュータシュミレーションを用いて視覚的に捉えさせたりするなど、イメージをもたせる指導が有効である。

＜第二問＞ 物理領域についての問題

実験結果を分析し、規則性や量的な関係を捉えることに課題

- 3 実験結果を基に、ものさしの移動距離について正しいものを選択する問題。正答率は45.8%であった。力学台車の速さを2倍にしたとき、ものさしの移動距離を単純に2倍とした誤答が多くみられた。実験結果の中から必要な情報を判断し、分析することに課題があるといえる。

- 5 実験結果を基に、指定された質量、速さで運動させた力学台車がものさしにした仕事を求める問題。得点率は9.0%で、力学台車の速さともものさしの移動距離をまとめた表から、速度と質量に成り立つ規則性を捉えることができなかつたと推察される。物体の高さや質量、速さなどの条件を制御して、落下実験や衝突実験を行い、その結果の分析から規則性を捉えるように指導したい。

＜第三問＞地学領域についての問題

観察結果を基に、時間的・空間的な関係を科学的な視点で捉え、表現する力に課題

- 1 (1) 月と地球の位置関係から、月の南中時刻を選択する問題。正答率は34.5%で、日の出、日の入りと月の南中時刻との関係や、地球と太陽の位置関係に伴う月の満ち欠けについて理解できていなかったと推察される。月の観察記録や資料を用いて、月の見え方の特徴を見いださせ、地球を俯瞰するような視点から天体の位置関係を捉えることができるように指導したい。
- 2 (2) 皆既月食のとき、地球から見て月の東側から欠け始める理由を論述する問題。得点率は24.3%で、太陽、地球、月が一直線上に並ぶ現象は理解しているが、月の公転運動と地球の自転が、月の欠け始めにどのように関係するか表現できていない解答が多かった。月の満ち欠けの観察等により、月が公転する向きや形の変化、時間による変化を理解させたい。また、既習内容や生活経験を基に、根拠のある仮説を設定し、表現する活動の充実を図りたい。

＜第四問＞生物領域についての問題

実験結果から読み取った情報を、科学的な根拠を基に思考することに課題

- 1 顕微鏡による観察からわかる、発芽した種子の説明として正しく述べているものを選択する問題。正答率は89.9%であり、葉緑体のはたらきについての理解度が高いといえる。
- 3 (2) 実験結果を基に、装置内の酸素と二酸化炭素の量的な関係として正しいものを選択する問題。正答率は25.6%にとどまり、多肢選択問題の中で最も低かった。フラスコ内の条件とチューブのようすからわかる、呼吸により出入りする気体の量的な関係を理解できていなかったといえる。科学的な根拠を基に、実験の条件を検討したり、得られた結果の分析をしたりすることで、思考力の育成を図りたい。

＜第五問＞化学領域についての問題

実験結果を基に、量的な関係を見いだし思考・表現することに課題

- 1 マグネシウムを加熱したときの反応を、化学反応式で記述する問題。得点率は50.5%で、c層の得点率は16.0%にとどまった。化学反応式を Mg^{2+} のようにイオン式の形で解答した誤答が多かった。化学変化を扱う際には、模型を用いて、目に見えない原子や分子をイメージさせ、化学変化の前後で原子の組み合わせが変わることを理解させたい。
- 5 酸化マグネシウムと水の反応によってできた化合物Xの質量を求める問題。全問題の中でも、得点率は1.1%と最も低く、無答率は30.6%と最も高かった。酸化マグネシウムと水の反応について、習得した知識に基づいて科学的に考察することや、比から量的な関係を考察することに課題がみられた。探究の過程において、数値による分析を充実させたり、仮説の妥当性や新たな問題を見いだす活動を取り入れたりすることで、思考力や表現力の育成につなげたい。

問題				正答率→	←無答率	得点率	調査書総点別得点率 (a:135~111点 b:110~88点 c:87~48点)
第一問	1	(1)	語句記述 化学 (沸点)	89.5%	1.6%	90.5%	a:98.4% b:95.9% c:77.5%
		(2)	多肢選択 化学 (空気調節ねじ)	78.5%	0.0%	78.5%	a:92.1% b:78.8% c:65.8%
		(3)	多肢選択 化学 (蒸留)	88.4%	0.0%	88.4%	a:96.6% b:89.5% c:79.7%
	2	(1)	語句記述 物理 (ヘルツ)	95.3%	0.9%	95.3%	a:99.8% b:98.2% c:88.2%
		(2)	多肢選択 物理 (振幅)	45.3%	0.1%	45.3%	a:62.2% b:44.0% c:31.1%
		(3)	多肢選択 物理 (音の波形)	82.2%	0.0%	87.5%	a:96.9% b:90.1% c:76.0%
	3	(1)	語句記述 生物 (感覚器官)	79.2%	2.8%	81.0%	a:97.7% b:88.0% c:58.0%
		(2)	多肢選択 生物 (骨や筋肉)	72.3%	0.0%	72.3%	a:83.4% b:73.1% c:61.2%
		(3)	多肢選択 生物 (反応時間)	62.6%	0.3%	62.6%	a:86.8% b:60.9% c:42.3%
	4	(1)	語句記述 地学 (火山噴出物)	53.7%	1.5%	55.6%	a:84.2% b:57.8% c:27.1%
		(2)	多肢選択 地学 (火成岩)	64.2%	0.1%	64.2%	a:91.3% b:64.0% c:39.4%
		(3)	多肢選択 地学 (溶岩の特徴)	44.5%	0.1%	56.6%	a:74.6% b:54.9% c:41.7%
第二問	1	多肢選択	物理 (エネルギー)	89.1%	0.0%	89.1%	a:96.4% b:90.1% c:81.3%
	2	多肢選択	物理 (はたらく力)	71.0%	0.1%	71.0%	a:90.4% b:72.7% c:51.3%
	3	多肢選択	物理 (仕事)	45.8%	0.0%	55.0%	a:78.9% b:50.7% c:37.8%
	4	計算	物理 (仕事)	47.0%	7.9%	47.1%	a:78.5% b:45.9% c:19.4%
	5	計算	物理 (仕事)	8.9%	29.3%	9.0%	a:25.0% b:3.3% c:0.3%
第三問	1	(1)	多肢選択 地学 (南中時刻)	34.5%	0.1%	34.5%	a:57.1% b:26.6% c:22.3%
		(2)	多肢選択 地学 (天体望遠鏡)	43.7%	0.1%	43.7%	a:59.6% b:40.2% c:33.0%
		(3)	多肢選択 地学 (月の動き)	52.0%	0.1%	65.9%	a:74.1% b:62.6% c:61.9%
	2	(1)	多肢選択 地学 (月食の位置)	73.0%	0.1%	73.0%	a:94.3% b:75.8% c:50.3%
		(2)	論述 地学 (月の欠け方)	12.9%	13.0%	24.3%	a:43.7% b:22.4% c:8.6%
第四問	1	多肢選択	生物 (葉緑体)	89.9%	0.0%	89.9%	a:98.1% b:92.9% c:79.2%
	2	多肢選択	生物 (酸素の量)	69.0%	0.1%	69.0%	a:83.0% b:71.5% c:53.3%
	3	(1)	論述 生物 (空気量の変化)	23.1%	10.9%	31.2%	a:56.6% b:27.5% c:11.8%
		(2)	多肢選択 生物 (呼吸)	25.6%	0.3%	25.6%	a:40.4% b:20.8% c:17.0%
第五問	4	多肢選択	生物 (種子の養分)	47.6%	0.2%	47.6%	a:63.2% b:45.9% c:35.1%
	1	語句記述	化学 (化学反応式)	48.7%	2.7%	50.5%	a:86.6% b:51.7% c:16.0%
	2	多肢選択	化学 (質量変化)	85.2%	0.1%	89.6%	a:98.5% b:92.4% c:78.5%
	3	作図	化学 (グラフ)	57.0%	5.6%	62.2%	a:89.2% b:69.5% c:29.7%
	4	多肢選択	化学 (質量比)	75.4%	0.2%	75.4%	a:96.8% b:77.3% c:53.9%
計	5	計算	化学 (化合物の質量)	1.1%	30.6%	1.1%	a:3.1% b:0.2% c:0.2%
							a:75.6% b:58.6% c:43.1%

令和 8 年度

公立高等学校入学者選抜学力検査問題

理 科

第 一 問 次の 1～4 の問いに答えなさい。

- 1 調味料のみりんを蒸留し、みりんにふくまれているエタノールをとり出した実験について、あとの(1)～(3)の問いに答えなさい。

〔 実験 〕

- ① みりん 20cm³と沸騰石を枝つきフラスコに入れ、図 1 のように、装置を組み立てた。
- ② ①の装置で、みりんを蒸留し、出てきた蒸気の温度をはかりながら、試験管に液体を集めた。試験管を加熱時間 2 分ごとにとりかえ、加熱時間 2～4 分で集めたものを液体 A、加熱時間 6～8 分で集めたものを液体 B とした。
- ③ 加熱を始めてから 10 分後までの加熱時間と蒸気の温度との関係を、図 2 にまとめた。
- ④ 試験管に集めた液体 A、B をそれぞれ蒸発皿に入れて、マッチの火を近づけると、液体 A は火がついて燃えたが、液体 B は燃えなかった。

図 1

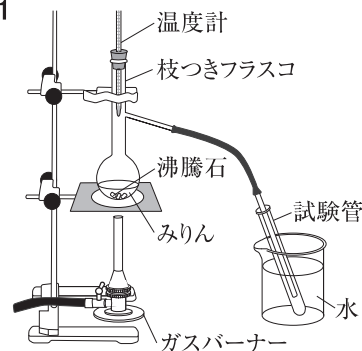
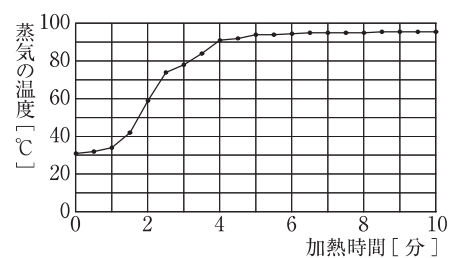


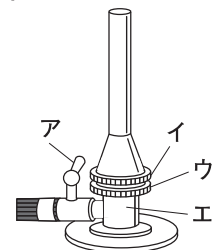
図 2



- (1) 液体が沸騰し始めるときの温度を何というか、答えなさい。

図 3

- (2) 図 3 は、ガスバーナーを示したものです。空気調節ねじを、図 3 のア～エから 1 つ選び、記号で答えなさい。



- (3) 実験の結果から、液体 A と液体 B のそれぞれに最も多くふくまれる物質の組み合わせとして、最も適切なものを、次のア～エから 1 つ選び、記号で答えなさい。

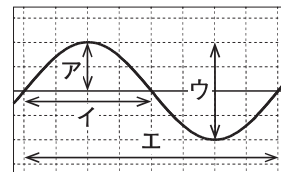
ア 液体 A - 水 液体 B - 水	イ 液体 A - エタノール 液体 B - エタノール
ウ 液体 A - 水 液体 B - エタノール	エ 液体 A - エタノール 液体 B - 水

2 オシロスコープで、おんさから出る音の波形を観察しました。次の(1)～(3)の問いに答えなさい。

(1) 音の振動数の単位には「Hz」を使います。この単位の読み方を、カタカナで答えなさい。

図4

(2) 図4は、オシロスコープに表示されたおんさから出る音の波形を太い線(—)で表したものです。振幅を示している矢印として、最も適切なものを、図4のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。



(3) 音の大きさや高さと、音の波形との関係について述べた次の文章の内容が正しくなるように、①のア、イ、②のウ、エからそれぞれ1つ選び、記号で答えなさい。

おんさを弱くたたいて小さな音を出したときより、強くたたいて大きな音を出したときのほうが振幅は① (ア 小さい イ 大きい)。高い音が出るおんさと低い音が出るおんさを同じ強さでたたいたとき、高い音が出るおんさのほうが振動数は② (ウ 少ない エ 多い)。

3 恵さんと勇さんは、刺激を受けとってから反応するまでにかかった時間について調べるための実験を行いました。あとの(1)～(3)の問いに答えなさい。

〔実験〕

- ① 図5のように、恵さんはものさしの上端を持ち、ものさしの下端を基準線にあわせて静止させ、勇さんは机の上に手を置き、ものさしにふれないように指をそえた。
- ② 図6のように、恵さんは合図をしないで持っているものさしを静かに離し、勇さんはものさしが落下し始めるのを見たらすぐに手でものさしをつかんだ。
- ③ 基準線からものさしが落下した距離を記録した。
- ④ ①～③と同様の操作をさらに2回くり返し、合計で3回分のものさしが落下した距離を表1にまとめた。
- ⑤ 物体が自由落下したときの距離と時間との関係を示した資料を用いて、3回分のものさしが落下した距離の平均値から勇さんが反応するまでにかかった時間を求めた。

図5

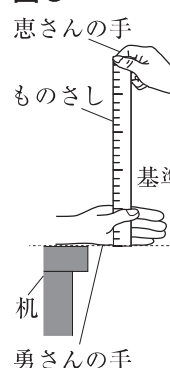
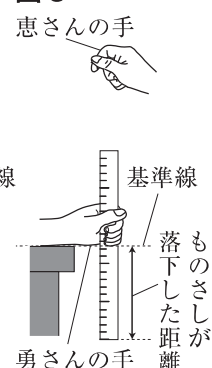


図6



〔資料〕

自由落下した距離 [cm]	自由落下にかかった時間 [秒]
18.8	0.196
19.0	0.197
19.2	0.198
19.4	0.199

表1

実験回数 [回]	1	2	3
ものさしが落下した距離 [cm]	19.4	18.9	18.7

(1) 目や耳のように、外界から刺激を受けとる器官を何というか、答えなさい。

(2) 骨や筋肉について述べたものとして、最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

- ア 骨はからだを支えると同時に、脳やせきずいを保護するはたらきがある。
 イ 骨は両端がけんになっており、骨どうしは、けんでつながっている。
 ウ うでの筋肉は、ひじの関節から肩の関節まで、1つの骨についている。
 エ うでを曲げたとき、うでの骨を囲む筋肉はのばされず、すべて縮む。

(3) ⑤で求めた勇さんが反応するまでにかかった時間として、最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

ア 0.196秒

イ 0.197秒

ウ 0.198秒

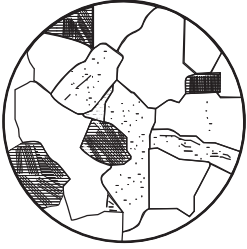
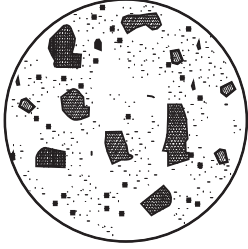
エ 0.199秒

4 マグマからできた岩石について観察Ⅰ、Ⅱを行いました。あとの(1)～(3)の問いに答えなさい。

〔 観察Ⅰ 〕

- ① 花こう岩と安山岩を用意した。
- ② ルーペを使って、鉱物の大きさや集まり方、鉱物の色に注目してスケッチした。
- ③ 花こう岩と安山岩のそれぞれの特徴を表2にまとめた。

表2

花こう岩		安山岩	
＜スケッチ＞	＜特徴＞	＜スケッチ＞	＜特徴＞
	・ひとつひとつの鉱物が大きい。 ・有色より無色の鉱物のほうが多い。		・大きな鉱物を形がわからないほど小さな鉱物が囲んでいる。 ・黒色や灰色の鉱物がある。

〔 観察Ⅱ 〕

- ① 溶岩を用意した。
- ② 表面のようすや鉱物の大きさや集まり方に注目して観察した。
- ③ 溶岩の特徴を表3にまとめた。

表3

溶岩	
	＜特徴＞ ・表面に多数の小さな穴がある。 ・大きな鉱物はなく、形がわからないほど小さな鉱物が集まってできている。

- (1) 溶岩のように、噴火により火口からふき出されたものをまとめて何というか、答えなさい。
- (2) 表2をもとに、観察した花こう岩や安山岩について述べたものとして、最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。
- ア 花こう岩は、斑晶のまわりをうめるように、石基がとり囲んでいる。
- イ 花こう岩は、ねばりけの強いマグマが長い時間をかけて冷え固まった岩石である。
- ウ 安山岩は、石基の部分がなく、斑晶が集まってできている。
- エ 安山岩は、ねばりけの弱いマグマが地下の深いところで冷え固まった岩石である。
- (3) 観察Ⅰ、Ⅱをもとに、溶岩の表面のようすと、鉱物の大きさや集まり方から考えられることについて述べた次の文章の内容が正しくなるように、①のア、イ、②のウ、エからそれぞれ1つ選び、記号で答えなさい。

地下深くにあるマグマが地表付近まで上昇すると、マグマにとけている気体を閉じこめようとする力が①（ア 小さく イ 大きく）なる。そのため、マグマは発泡しながら固まると、多数の小さな穴があいた岩石になる。また、鉱物の大きさや集まり方から、溶岩は地表や地表付近でマグマが②（ウ 短い時間で エ 長い時間をかけて）冷え固まった岩石と考えられる。

第 二 問 力学台車がする仕事の大きさに関する実験について、あとの 1～5 の問いに答えなさい。

〔 実験 〕

- 1 図 1 のように、水平な机の上に 2 冊の本をテープで固定し、2 冊の本の間にものさしをはさみ、本の端とものさしの端をあわせ、矢印の進行方向に力学台車を押し出すと、ものさしにまっすぐ衝突するように装置を組み立てた。
- 2 力学台車におもりを固定し、質量の合計を 1.0kg とした。
- 3 1 の装置で、0.3m/s の速さで等速直線運動させた 2 の力学台車をものさしに衝突させた。力学台車ともものさしは離れず同じ方向にまっすぐ移動し、図 2 のように、力学台車は本に衝突しないで静止した。そのあと、ものさしの移動距離を表 1 に記録した。
- 4 力学台車の速さを 0.6m/s、0.9m/s にかえ、それぞれの速さについて、3 と同様の操作を行った。
- 5 力学台車に別のおもりを固定し、質量の合計を 2.0kg とした。
- 6 5 の力学台車を用いて、3、4 と同様の操作を行い、ものさしの移動距離を表 2 に記録した。

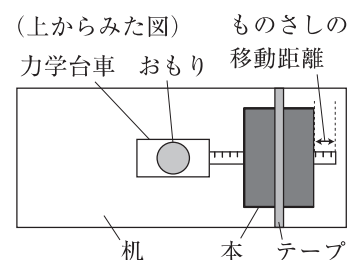
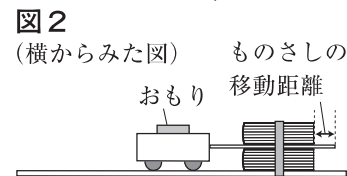
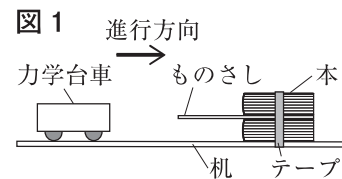


表 1

力学台車の速さ [m/s]	ものさしの移動距離 [cm]
0.3	0.9
0.6	3.6
0.9	8.1

表 2

力学台車の速さ [m/s]	ものさしの移動距離 [cm]
0.3	1.8
0.6	7.2
0.9	16.2

- 1 物体の速さが大きいほど、また質量が大きいほど、大きくなるエネルギーとして、最も適切なものを、次のア～エから 1 つ選び、記号で答えなさい。

ア 光エネルギー イ 弾性エネルギー ウ 運動エネルギー エ 位置エネルギー

- 2 3 で、力学台車ともものさしが移動しているとき、物体どうしにはたらく力について述べたものとして、最も適切なものを、次のア～エから 1 つ選び、記号で答えなさい。

ア 力学台車には、2 冊の本から垂直抗力がはたらく。
 イ 力学台車には、ものさしから力学台車の進行方向と同じ向きの摩擦力がはたらく。
 ウ ものさしには、机から垂直抗力がはたらく。
 エ ものさしには、2 冊の本から力学台車の進行方向と反対向きの摩擦力がはたらく。

- 3 実験の結果からわかることについて述べた次の文章の内容が正しくなるように、①のア、イ、②のウ、エからそれぞれ 1 つ選び、記号で答えなさい。

力学台車とおもりの質量の合計をかえずに、力学台車の速さを 2 倍にすると、ものさしの移動距離は① (ア 2 倍 イ 4 倍) になる。力学台車の速さをかえずに、力学台車とおもりの質量の合計を 2 倍にすると、ものさしの移動距離は② (ウ 2 倍 エ 4 倍) になる。

- 4 3 で、力学台車とおもりの質量の合計を 1.0kg として、1.2m/s の速さで等速直線運動させた力学台車がものさしに衝突したとき、ものさしの移動距離は何 cm になるか、求めなさい。

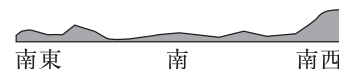
- 5 表 1、表 2 をもとに、力学台車とおもりの質量の合計を 4.0kg として、0.45m/s の速さで等速直線運動させた力学台車がものさしに衝突したときから力学台車ともものさしが静止するまでに、力学台車がものさしにした仕事は何 J になるか、求めなさい。ただし、力学台車がものさしに加える力の大きさは常に 5.0N とします。また、計算結果は小数第 3 位を四捨五入しなさい。

第 三 問 拓也さんは、ある年の9月1日と9月8日に、宮城県内にある自宅から肉眼や天体望遠鏡で月を観察しました。次の1、2の問いに答えなさい。

図 1

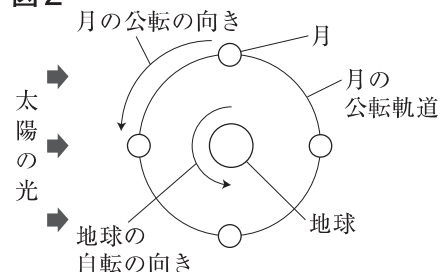
D

- 1 図 1 は、拓也さんが9月1日に月を観察し、南中時刻に月の形と位置をスケッチしたものです。次の(1)～(3)の問いに答えなさい。



- (1) 図 2 は、北極星側から見た太陽の光の向き、地球と月の位置関係を模式的に表したものです。9月1日の月の南中時刻として、最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。ただし、9月1日の日の出時刻を午前5時、日の入り時刻を午後6時とします。

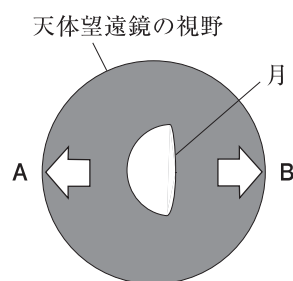
図 2



- ア 午前5時頃 イ 午前11時頃
ウ 午後6時頃 エ 午後11時頃

- (2) 拓也さんは、図 1 の月を、天体望遠鏡で観察しました。図 3 のように天体望遠鏡の視野の中央で月を観察したあと、5分後に再び天体望遠鏡をのぞいたところ、月が移動して、視野から外れていました。その理由と月が移動した方向として、最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

図 3



- ア 地球の自転によって、図 3 の A の方向へ移動した。
イ 地球の自転によって、図 3 の B の方向へ移動した。
ウ 地球の公転によって、図 3 の A の方向へ移動した。
エ 地球の公転によって、図 3 の B の方向へ移動した。

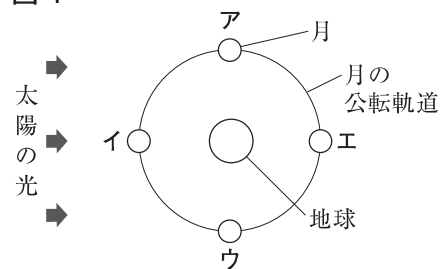
- (3) 地球上の同じ地点から見たときの月の動き方について述べた次の文章の内容が正しくなるように、①のア、イ、②のウ、エからそれぞれ1つ選び、記号で答えなさい。

月は、太陽の日周運動と同じように、1時間につき①（ア 約 10° イ 約 15° ）ずつ東から西へ動いているように見える。さらに、月は、地球のまわりを公転しているため、同じ時刻の月は1日につき約 12° ずつ②（ウ 東から西へ エ 西から東へ）移動しているように見える。

- 2 拓也さんは、皆既月食が起こった9月8日に月を観察しました。皆既月食について、次の(1)、(2)の問いに答えなさい。

- (1) 図 4 は、北極星側から見た太陽の光の向き、地球と月の位置関係を模式的に表したものです。皆既月食のときの月の位置として、最も適切なものを、図 4 のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

図 4



- (2) 拓也さんは、皆既月食を観察したとき、月が動いている方向と反対の東側から欠け始めることに気がきました。皆既月食のとき、地球から見て月の東側から欠け始める理由を、月食のしくみにふれながら、簡潔に述べなさい。

第 四 問 科学部に所属する洋さんと和子さんは、理科の授業で植物の呼吸に興味をもち、植物の種子が呼吸をしているのかを調べる方法について話しています。これを読んで、あとの1～4の問いに答えなさい。



和子さん

植物も動物と同じように呼吸をしていることはわかったけど、植物の種子は呼吸をしているのかな。



洋さん

確かに気になるね。袋の中に種子を入れて、酸素や二酸化炭素が増えたり減ったりするのかを調べれば、種子が呼吸をしているのか、わかりそうだよ。コムギの種子を使って、調べてみよう。

〔 実験 I 〕

- 1 図1のようなコムギの乾燥した種子を用意した。
- 2 乾燥した種子を水につけたあと、室温で光の当たらない場所に置いた。3日後、図2のように、芽や根が出た。
- 3 透明なポリエチレンの袋A、B、Cを用意した。袋Aには図2のような発芽した種子を50個入れた。袋Bには図1のような乾燥した種子を50個入れた。袋Cには何も入れなかった。
- 4 袋A～Cにそれぞれ十分な量の空気を入れて、袋の口をしっかりと閉め、室温で光の当たらない場所に置いた。1時間後、袋A～Cの中の空気をそれぞれ石灰水に通して、石灰水の変化を観察し、結果を表1にまとめた。

図1

図2



表1

	袋に入れたもの	石灰水の変化
袋A	発芽した種子	白くにごった
袋B	乾燥した種子	変化しなかった
袋C	なし	変化しなかった

実験Iの結果から、発芽した種子は呼吸をしているけど、乾燥した種子は呼吸をしていないと考えていいかな。



洋さん



和子さん

でも、乾燥した種子が石灰水を白くにごらせるくらいの二酸化炭素を出していないだけかもしれないよ。ほかに を確認できたら、乾燥した種子は呼吸をしていないと判断できそうね。

1 図2の芽と根の細胞をそれぞれ顕微鏡で観察したところ、葉緑体は見られませんでした。このことから、実験Iで使った発芽した種子についてわかることについて述べたものとして、最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

- ア 吸水が行われていない。 イ 光合成が行われていない。
ウ 蒸散が行われていない。 エ 二酸化炭素の出入りが無い。

2 会話文中の に入る、乾燥した種子が呼吸をしていないことを確認できるものとして、最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

- ア 実験後の袋Bと袋Cの中の酸素の量を比較して、袋Bのほうが酸素の量が多いこと
イ 実験後の袋Bと袋Cの中の酸素の量を比較して、袋Bのほうが酸素の量が少ないこと
ウ 実験前と実験後の袋Bの中の酸素の量を比較して、酸素の量が変化していないこと
エ 実験前と実験後の袋Bの中の酸素の量を比較して、実験後のほうが酸素の量が多いこと

3 洋さんたちは、**実験Ⅰ**をもとに、コムギの発芽した種子の呼吸によって出入りする酸素の量と二酸化炭素の量について調べるための**実験Ⅱ**を行いました。あとの(1)、(2)の問いに答えなさい。

〔 実験Ⅱ 〕

- 1 図3のように、フラスコの中に小さな容器を入れ、ガラス管とチューブをつなぎ、チューブの先端は水を入れたビーカーに差しこんだ装置を4つ組み立てた。それらの装置を、それぞれ装置D、E、F、Gとした。
- 2 装置D、Eのフラスコには、それぞれ小さな容器のまわりに発芽した種子を50個ずつ入れた。装置F、Gのフラスコには何も入れなかった。
- 3 装置D、Fの小さな容器には、それぞれ水を入れた。装置E、Gの小さな容器には、それぞれ二酸化炭素を十分に吸収することができる薬品を入れた。
- 4 装置D～Gをそれぞれゴム栓で密閉して、室温で光の当たらない場所に置いた。10分後、装置D～Gのビーカーに差しこんだチューブのようすを観察し、結果を表2にまとめた。

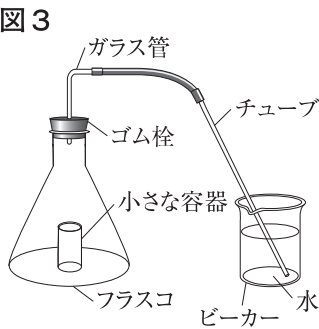
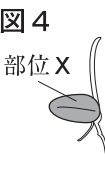


表2

	フラスコに入れたもの	小さな容器に入れたもの	チューブのようす
装置D	発芽した種子	水	変化が見られなかった
装置E	発芽した種子	薬品	チューブに水が引きこまれた
装置F	なし	水	変化が見られなかった
装置G	なし	薬品	変化が見られなかった

- (1) 装置Eでチューブに水が引きこまれたのは、装置Eのフラスコ内の空気の量が変化したからです。装置Eのフラスコ内の空気の量が変化した理由を、発芽した種子の呼吸によって出入りする酸素と二酸化炭素のそれぞれの量の变化にふれながら、簡潔に述べなさい。
- (2) **実験Ⅱ**の結果から考えられることについて述べたものとして、最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。
- ア 装置Dと装置Eを比較すると、発芽した種子では、呼吸によって吸収する酸素の量と放出する二酸化炭素の量は、ほぼ等しいと考えられる。
- イ 装置Dと装置Eを比較すると、発芽した種子では、呼吸によって吸収する酸素の量のほうが、放出する二酸化炭素の量より多いと考えられる。
- ウ 装置Dと装置Fを比較すると、発芽した種子では、呼吸によって吸収する酸素の量のほうが、放出する二酸化炭素の量より少ないと考えられる。
- エ 装置Eと装置Gを比較すると、発芽した種子では、呼吸によって吸収する酸素の量のほうが、放出する二酸化炭素の量より多いと考えられる。

- 4 図4の発芽した種子の部位Xを切り、その断面にヨウ素液をつけたところ、乾燥した種子で同様の操作を行ったときよりも青紫色がうすくなりました。その理由として、最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。
- ア 発芽した種子は、芽でつくった養分を部位Xの中にたくわえないから。
- イ 発芽した種子は、根で吸収した養分を使って、部位Xの中の養分を分解したから。
- ウ 発芽した種子は、呼吸で二酸化炭素を放出するとき、部位Xの中の養分は分解しないから。
- エ 発芽した種子は、呼吸で吸収した酸素を使って、部位Xの中の養分を分解したから。



第五問 マグネシウムと酸素が結びついて酸化マグネシウムができるときの質量の変化を調べた実験Ⅰ、Ⅱについて、あとの1～5の問いに答えなさい。

〔実験Ⅰ〕

- ① 図のように、マグネシウムの粉末1.00 gをステンレス皿全体にうすく広げて、4分間加熱した。よく冷ましたあと、加熱後の粉末の質量を記録した。
- ② 質量を記録した加熱後の粉末を、再び4分間加熱した。よく冷ましたあと、加熱後の粉末の質量を記録した。
- ③ ②と同様の操作をさらに4回くり返し、合計で6回分の加熱後の粉末の質量を表1にまとめた。

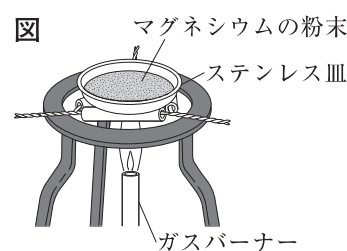


表1

加熱回数 [回]	1	2	3	4	5	6
加熱後の粉末の質量 [g]	1.56	1.61	1.64	1.67	1.67	1.67

〔実験Ⅱ〕

- ① マグネシウムの粉末3.00 g、ステンレス皿A、B、C、Dを用意した。
- ② マグネシウムの粉末を、ステンレス皿Aには0.30 g、ステンレス皿Bには0.60 g、ステンレス皿Cには0.90 g、ステンレス皿Dには1.20 g入れ、それぞれステンレス皿全体にうすく広げて、24分間加熱した。
- ③ ②で加熱したものをよく冷ましたあと、加熱後の粉末の質量をそれぞれ記録して、表2にまとめた。

表2

ステンレス皿	A	B	C	D
マグネシウムの粉末の質量 [g]	0.30	0.60	0.90	1.20
加熱後の粉末の質量 [g]	0.50	1.00	1.50	2.00

- 1 マグネシウムと酸素が結びつくときの化学変化を、化学反応式で表しなさい。
- 2 実験Ⅰの結果からわかることについて述べた次の文章の内容が正しくなるように、①のア、イ、②のウ、エからそれぞれ1つ選び、記号で答えなさい。

一定の質量のマグネシウムの粉末を加熱すると、結びついた酸素の分だけ、加熱後の粉末の質量は①（ア 小さく イ 大きく）なる。一定の質量のマグネシウムの粉末を加熱し続けると、酸化マグネシウムの質量は②（ウ やがて一定の値になる エ ずっと変化し続ける）。

- 3 表2をもとに、「マグネシウムの粉末の質量」と「マグネシウムと結びついた酸素の質量」との関係を表すグラフを、解答用紙の図にかき入れなさい。
- 4 実験Ⅰ、Ⅱの結果から、マグネシウムと酸化マグネシウムの質量の比として、最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。
 ア マグネシウム：酸化マグネシウム＝3：2 イ マグネシウム：酸化マグネシウム＝3：5
 ウ マグネシウム：酸化マグネシウム＝3：8 エ マグネシウム：酸化マグネシウム＝5：8

- 5 実験Ⅱを行った翌日にステンレス皿A～Dの加熱後の粉末をすべてあわせて質量をはかると、5.00 gではなく、5.44 gになりました。これは、酸化マグネシウムが空気中の水と反応して、化合物Xができたからです。表2をもとに、化合物Xは何gできたか、求めなさい。ただし、酸化マグネシウムの一部が化合物Xになったものとします。また、マグネシウムと化合物Xの質量の比を5：12とし、計算結果は小数第3位を四捨五入しなさい。

令和8 (5) 理 科 正 答 表

備考欄	配点	第 一 問	
	36		
	3	1	(1) 沸点
	3		(2) イ
	3		(3) エ
	3	2	(1) ヘルツ
	3		(2) ア
	3		(3) ①(イ) ②(エ)
	3	3	(1) 感覚器官
	3		(2) ア
	3		(3) イ
	3	4	(1) 火山噴出物
	3		(2) イ
	3		(3) ①(ア) ②(ウ)

備考欄	配点	第 二 問	
	16		
	3	1	ウ
	3	2	エ
	3	3	①(イ) ②(ウ)
	3	4	14.4 [cm]
	4	5	0.41 [J]

備考欄	配点	第 三 問	
	16		
	3	1	(1) ウ
	3		(2) ア
	3		(3) ①(イ) ②(エ)
	3	2	(1) エ
	4		(2) (例) 月食は公転している月が地球のかげに入ると起こり、地球から見て月の東側から地球のかげに入るため。

備考欄	配点	第 四 問	
	16		
	3	1	イ
	3	2	ウ
	4	3	(1) (例) 発芽した種子の呼吸によって、酸素は発芽した種子に吸収されて減り、呼吸で放出する二酸化炭素は薬品に吸収されて減ったから。
	3		(2) ア
	3	4	エ

備考欄	配点	第 五 問	
	16		
	3	1	$2\text{Mg} + \text{O}_2 \rightarrow 2\text{MgO}$
	3	2	①(イ) ②(ウ)
	3	3	マグネシウムと結びついた酸素の質量 [g] マグネシウムの粉末の質量 [g]
	3	4	イ
	4	5	1.44 [g]

(注) 上記以外については、各学校で適宜基準を設けるものとする。

満点 100 点

1 出題のねらいと内容

英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識及びこれらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによるコミュニケーションにおいて活用する技能並びに情報や考えを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりするために必要な思考力、判断力、表現力等を総合的にみることをねらいとした。

第一問では、絵を見ながら英語を聞いて内容を理解する力、会話の流れに沿って適切に応答する力、会話を聞いて内容を理解し質問に適切に応答する力及び短い英語を聞いて場面を捉え質問に対して即興で適切に応答する力をみようとした。

第二問では、短い会話を通して、基本的な文法・語法に関する知識と語彙力及び基本的

な英文を構成する力をみようとした。

第三問では、催し物について英語で書かれたチラシを素材とし、必要な情報を読み取る力をみるとともに、親切な行為の広がりについて中学生が話した英文を素材とし、英文の概要を的確に捉える力をみようとした。

第四問では、高校生が人間の行動の特性について調べるために読んだ英文を素材とし、必要な情報や概要、要点を的確に捉えながら、書き手が伝えようとする内容を読み取る力をみようとした。

第五問では、友人の誕生日に祝意を伝える際、電話と電子メールのどちらがよいか意見を募集する学校英語新聞の英文を素材とし、自分の考えやその理由を相手に伝わるように英語で適切に表現する力をみようとした。

2 結果の考察

<第一問>「聞くこと」に関する問題

発話を聞き、話し手の意向を正確に把握すること、適切に応答することに課題

問題3 3番 まとまった量の会話を聞いて話し手の意向を正確に把握できるかをみる問題。正答率は39.4%にとどまり、会話中の情報を整理できていない誤答が多かった。聞き取った情報を整理し、その内容を基本的な語句や表現を用いて伝える活動などを通して、話し手の意向を正確に捉える力を養いたい。

問題4 助言を求める質問に対して即興で適切に応答することができるかをみる問題。得点率は44.4%にとどまった。助言をするときに用いるYou can...などの表現を適切に使うことができていないものが多かった。目的や場面、状況などに応じて、即興で応答する活動

を通して、既習の文法事項や表現を適切に使用できるように指導したい。

<第二問> コミュニケーションを支える文法・語法に関する問題

文法事項を正しく用いて基本的な英文を構成することに課題

2 (2) 受け身に関する問題。正答率は18.3%にとどまった。主語と動詞を的確に捉えることができていない誤答が多かった。主語となる名詞を前置詞句で後置修飾することが難しかったと推察される。後置修飾を指導する際は、日本語の語順とは異なっていることに留意して指導する必要がある。基本的な文法事項については、言語活動の中で繰り返し使用することで、定着につなげたい。

＜第三問＞「読むこと（日常的な話題）」に関する問題

資料から必要な情報を読み取ること、文章の要点を捉え、表現することに課題

- 1 (2) 資料から必要な情報を読み取ることができるかをみる問題。正答率は48.7%にとどまった。b・c層では、チラシと同一の語句が使用されている選択肢を選んだ誤答が多かった。目的に応じて、必要な情報を素早く把握するような活動を充実させることで、資料から必要な情報を読み取る力を身に付けさせたい。
- 2 (4) スピーチの流れを正確に捉えられるかをみる問題。正答率は39.4%にとどまった。どの層においても、スピーチの内容の序盤から流れを捉えられていない誤答が多かった。エッセイや物語などの文章全体を読んだ後に、時系列に情報を整理したり、筆者が伝えたいことの大まかな内容を把握したりする活動を充実させ、まとまりのある文章を時系列に沿って整理する力を養いたい。
- 2 (5) スピーチの話し手が伝えたいことを正しく読み取り、それを表現できるかをみる問題。全体の得点率は19.7%にとどまった。話し手が伝えたい内容を抽象化して理解できていないものが多かった。また、要点を英語で表現することに課題がみられた。英文のキーワードを確認して、全体の内容を簡単な英語でまとめる活動を取り入れるなどして、要点を読み取る力を伸ばすとともに、その内容を適切に表現する力も伸ばさせていきたい。

＜第四問＞「読むこと（社会的な話題）」に関する問題

文章の構成や論理の展開を踏まえて、内容を的確に把握し、表現することに課題

- 2 本文中の空所に入るつなぎ言葉を選ぶ問題。第四問の中で、a層とb・c層の正答率の差が最も大きかった。順接を表す接続詞soが正答であるが、逆接を表すbutを選んだ誤答が最も多かった。文章の構成や論理の展開を意識しながら、内容を的確に読み取る力を育む指導の充実を図りたい。
- 4 英文の文脈に沿った疑問文を空所に入れることができるかをみる問題。文脈に沿っていないものも多く、空所の前後の内容を正確に捉えることや、文脈に沿った疑問文を表現することができなかつたと推察される。英文の内容を正確に把握する力や、文脈を踏まえて適切に表現する力を養う言語活動を充実させたい。

＜第五問＞「書くこと」に関する問題

自分の考えが伝わるように英文を論理的に書くことに課題

英文の内容を把握し、自分の考えとその理由を3文以上の英語で適切に表現することができるかをみる問題。問いに対する自分の考えを書くことはできるが、その理由を書くことには課題がみられた。考えと理由が論理的につながっていないものが散見された。c層では、動詞が欠落していたり、接続詞や関係代名詞などを用いずに動詞を多用したりするなどの文構造上の誤りが多くみられた。a・b層では、前置詞の用法や動詞の語法が誤っているものも多くみられた。読んだ内容について自分の考えやその理由を伝え合った上で、その内容を整理して書くなど、領域を統合した言語活動を充実させたい。また、自分の考えを英文で表現させる際は、他の生徒や教師からのフィードバックを通して内容や表現の適切さを吟味させ、論理的な構成や展開を意識した英文を書く力の育成を図りたい。

問題				正答率→	←無答率	得点率	調査書総点別得点率 (a:135～111点 b:110～88点 c:87～48点)
第一問	問題 1	1 番	多肢選択	リスニング内容把握	96.2% 0.0%	96.2%	a 99.0% 97.5% 92.1% b c
		2 番	多肢選択	リスニング内容把握	70.5% 0.0%	70.5%	a 95.5% 77.2% 40.3% b c
	問題 2	1 番	多肢選択	リスニング内容把握	82.4% 0.0%	82.4%	a 97.6% 85.8% 64.7% b c
		2 番	多肢選択	リスニング内容把握	76.1% 0.0%	76.1%	a 96.5% 82.9% 50.0% b c
	問題 3	1 番	多肢選択	リスニング内容把握	66.8% 0.0%	66.8%	a 92.8% 70.1% 39.2% b c
		2 番	多肢選択	リスニング内容把握	62.1% 0.0%	62.1%	a 87.5% 62.7% 38.1% b c
		3 番	多肢選択	リスニング内容把握	39.4% 0.1%	39.4%	a 63.5% 35.0% 22.0% b c
	問題 4	英文記述	リスニング応答文	28.8% 14.2%	44.4%	a 77.6% 45.0% 13.4% b c	
第二問	1	(1)	多肢選択	文法	80.5% 0.0%	80.5%	a 99.3% 90.1% 52.8% b c
		(2)	多肢選択	文法	79.2% 0.0%	79.2%	a 98.3% 87.0% 53.4% b c
		(3)	多肢選択	文法	39.7% 0.2%	39.7%	a 57.8% 37.2% 25.9% b c
	2	(1)	語順整序	文法	70.7% 0.1%	70.7%	a 97.2% 76.8% 39.8% b c
		(2)	語順整序	文法	18.3% 0.6%	18.3%	a 47.4% 9.4% 1.1% b c
	第三問	1	(1)	多肢選択	情報検索	69.3% 0.1%	69.3%
(2)			多肢選択	情報検索	48.7% 0.3%	48.7%	a 78.3% 44.2% 26.4% b c
2		(1)	多肢選択	内容理解	74.6% 0.5%	74.6%	a 97.3% 81.8% 46.0% b c
		(2)	和文論述	内容理解	24.4% 13.4%	41.5%	a 72.8% 43.0% 11.1% b c
		(3)	英文記述	内容理解	4.3% 24.0%	21.1%	a 39.6% 18.1% 7.3% b c
		(4)	多肢選択	本文の要旨	39.4% 1.3%	39.4%	a 75.6% 36.6% 9.1% b c
		(5)	語記述	本文の要旨	11.3% 32.2%	19.7%	a 41.4% 14.5% 5.4% b c
第四問	1	和文論述	内容理解	21.9% 27.4%	33.5%	a 66.5% 31.1% 5.7% b c	
	2	多肢選択	内容理解	55.4% 0.1%	55.4%	a 89.0% 51.4% 28.8% b c	
	3	多肢選択	内容理解	52.1% 0.5%	52.1%	a 83.4% 48.8% 26.9% b c	
	4	英文記述	内容理解	15.8% 35.4%	23.1%	a 50.2% 18.1% 3.7% b c	
	5	(1)	英文記述	内容理解	19.6% 27.9%	37.4%	a 58.2% 39.1% 16.4% b c
		(2)	英文記述	内容理解	16.9% 39.0%	28.3%	a 53.1% 26.0% 8.2% b c
	6	(1)	多肢選択	本文の要旨	58.9% 0.5%	58.9%	a 84.6% 58.5% 35.8% b c
		(2)	多肢選択	本文の要旨	49.9% 0.7%	49.9%	a 78.0% 45.8% 28.5% b c
		(3)	多肢選択	本文の要旨	43.5% 1.3%	43.5%	a 66.6% 38.2% 28.1% b c
第五問	英作文	英作文	5.3% 9.3%	40.6%	a 64.8% 41.6% 17.2% b c		
計						49.2%	a 74.1% 48.8% 26.6% b c

令和 8 年 度

公立高等学校入学者選抜学力検査問題

英 語

第 一 問 （放送によるテスト） 次の問題 1 から問題 4 に答えなさい。

問題 1 英語を聞いて、その内容を最も適切に表しているものを、それぞれア、イ、ウ、エの中から 1 つ選んで、その記号を解答用紙に書きなさい。

	ア	イ	ウ	エ
1 番	Museum Map A B C	Museum Map A B	Museum Map A B C	Museum Map A B
2 番	【今日の予定】 買い物 ↓ 映画	【今日の予定】 映画 ↓ 釣り	【今日の予定】 買い物 ↓ 映画 ↓ 釣り	【今日の予定】 映画 ↓ 買い物 ↓ 釣り

第一問（放送によるテスト）は、次のページにつづきます。

問題2 リリー (Lily) と健 (Ken) が会話をします。二人の会話は、問題用紙に示されている順に進みます。に入る発言として最も適切なものを、それぞれア、イ、ウ、エの中から1つ選んで、その記号を**解答用紙**に書きなさい。会話の のところでは、チャイム音が鳴ります。

1 番 Lily:
Ken:
Lily:
Ken: (チャイム音)

- ア It was 5,000 yen.
- イ It was so good.
- ウ By train.
- エ This weekend.

2 番 Ken:
Lily:
Ken:
Lily: (チャイム音)

- ア Oh, we can meet at five.
- イ Oh, you can start the party then.
- ウ Oh, the party will end soon.
- エ Oh, you should go now.

問題3 和男 (Kazuo) と留学生のキャシー (Cathy) が会話をします。そのあとで会話について3つの質問をします。それらの質問に対する答えとして最も適切なものを、それぞれア、イ、ウ、エの中から1つ選んで、その記号を**解答用紙**に書きなさい。

1 番 ア He needed more people to play volleyball.
イ He didn't know the rules of volleyball.
ウ He couldn't find a group to play volleyball.
エ He wanted to make new Japanese friends.

2 番 ア At the city gym.
イ At the city hall.
ウ At the park.
エ At the station.

3 番 ア She wants to play volleyball instead of Kazuo.
イ She wants to ask Kazuo what to bring to play volleyball.
ウ She wants to explain the rules of volleyball to Kazuo.
エ She wants to learn about volleyball from Kazuo.

問題4 1週間前にあなたの学校にやってきた留学生のベン（Ben）があなたに話しかけます。ベンの質問に対するあなたの答えを、英語で解答用紙に書きなさい。

第一問（放送によるテスト）は、ここまでです。

第二問 次の1、2の問いに答えなさい。

1 次の(1)～(3)の二人の会話が成立するように、()に入る最も適切なものを、それぞれあとのア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

(1) Riko: () notebook is this? There's no name on it.

Jack: Maybe it's Sam's.

ア How イ Where ウ What エ Whose

(2) Server: Would you like some dessert?

Man: No, thank you. I've already had a lot, so I'm () now.

ア full イ interested ウ delicious エ hungry

(3) Misa: Did you see my tennis racket? I think I () it in this room.

Denis: Hey, look. It's under the table.

ア fell イ left ウ stayed エ gave

2 次の(1)、(2)の二人の会話が成立するように、()内の語句を正しい順に並べかえ、(1)はア～エ、(2)はア～オの記号で答えなさい。ただし、文頭にくる語も小文字で示しています。

(1) Leon: Did you talk with our new ALT, Mr. Brown?

Yui: Yes, I did. (ア me イ taught ウ many things エ he)
about America.

(2) Becky: I heard that (ア a Japanese scientist イ read ウ a book エ is
オ about) in many countries.

Takeshi: Oh, really? Why is it so popular?

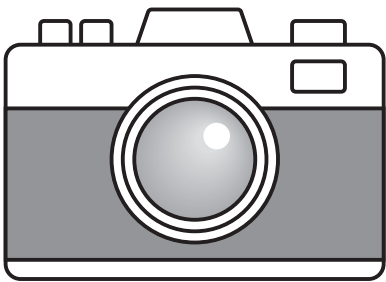
第 三 問 次の 1、2 の問いに答えなさい。

- 1 次のチラシは、けやき市文化センター（Keyaki City Culture Center）で行われる催し物についてのものです。これを読んで、あとの(1)、(2)の（ ）に入る最も適切なものを、それぞれア～エから 1 つ選び、記号で答えなさい。

〔チラシの一部〕

Keyaki High School Photo Exhibition

You can see beautiful photos taken by Keyaki High School's photo club members!



DATE:	August 3 – 6
TIME:	10:00 a.m. – 5:00 p.m.
PLACE:	Keyaki City Culture Center

Types of photos you can see

- Animal photos
- People photos
- Nature photos
- Street photos

Special events

- August 3 – 6
Students will show you where to take nice photos on a map.
- August 4, 5 (11:00 a.m. – 11:30 a.m.)
Students will give short speeches about their photos.

Special gift

On the first day of the exhibition, you can get a photo card made by students!

- (1) If you want to get a photo card, you should go to this exhibition on ().
ア August 1 イ August 3 ウ August 4 エ August 6

- (2) At this exhibition, you can ().
ア listen to a guest photographer's speech
イ take photos of animals
ウ see five types of photos
エ learn about good photo spots

- 2 次の英文は、中学生の真由（Mayu）が、英語の授業でスピーチをしたときのものです。この英文を読んで、あとの(1)～(5)の問いに答えなさい。

When I was twelve years old, I went to piano *lessons after school. One day, when I was at a station on the way, I saw a little girl crying alone. I asked her, “Are you all right?” Her name was

Ayako and she was seven years old. She came to the station with her parents, but she *got lost in the crowds and couldn't find ① them. I said, "Don't worry, Ayako. I'm with you. Everything will be OK." She slowly stopped crying. Ten minutes later, her parents found her. I felt happy to see Ayako's smile. That night, I told the story to my parents. My father said, "The girl you helped will never forget your kindness." ② I was so glad to hear that.

Now, I'm fifteen years old. One day last month, I was watching the news on TV with my parents at home. Then, an *announcer said, "The next news story is about a *ten-year-old girl who did something wonderful." The next moment, a girl and her name appeared on the *screen. It was Ayako! I couldn't understand what was happening at first. According to the news, an elderly woman got lost and couldn't get back to her house. Ayako saw the woman on her way home from school and talked to her. The woman looked *anxious, so Ayako said to her, "Don't worry. Everything will be OK." Then, Ayako went to the police with her, and the woman looked a little *relieved. In the interview, Ayako said, "When I was little, I got lost at a station. Then, a kind girl talked to me and stayed with me. I felt really relieved. I've wanted to be like her and help people, so I'm glad that I could." When I heard that, I felt something warm was filling my heart.

I already knew that being kind is important, but from this experience, I learned more. ③ Kindness spreads around. I want to help people around me more, and I hope you will think about what you can do for others, too. Then, our world will become a better place.

<注> *lesson(s) レッスン *got lost ← get lost 迷子になる、道に迷う
 *announcer アナウンサー *ten-year-old 10歳の *screen 画面
 *anxious 不安な *relieved 安心した

(1) 下線部①が示す内容として最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

ア piano lessons イ seven years ウ Ayako's parents エ the crowds

(2) 下線部②のように真由が感じたのはなぜか、本文の内容から具体的に日本語で書きなさい。

(3) 次の質問に対する答えを、本文の内容に合うように英語で書きなさい。

According to the news, who did Ayako see on her way home from school?

(4) 次のア～オを真由のスピーチの流れに合うように並べかえ、記号で答えなさい。

ア Ayako's words on the news moved Mayu.

イ Mayu tried to comfort Ayako.

ウ Mayu was surprised to see Ayako on TV.

エ Mayu found a little girl crying at a station.

オ The news story about a ten-year-old girl started.

(5) 次の英文は、スピーチ終了後に、下線部③について、具体的にどのようなことを伝えたかったのかと質問された真由が、英語で答えたものです。本文の内容をふまえて、 に入る4語以上の英語を書きなさい。

I wanted to say, "If you are kind to people, they will ." I hope the world will be filled with kindness.

第 四 問 次の英文は、高校生の雄也（Yuya）が、自分が興味を持っていることについて調べるために読んだ記事の一部です。この英文を読んで、あとの 1 ～ 6 の問いに答えなさい。

We often make decisions in our daily lives. Sometimes, however, we decide to do something but don't take action. Many people have probably experienced ① this situation. Actually, some scientists do research about it. They research our *minds and actions, and show us what to do in various cases. Let's look at one example case.

Imagine that today is the first day of your one month summer vacation. You have a lot of homework, and you decide to do it from today. However, you may also think, "I still have one month, (②) I don't have to do homework now." If you continue to think like this and don't begin your homework, you'll be in trouble. To avoid the trouble, what can we do? Here are two ways.

The first one is to set a *goal for the near future. There was ③ an interesting *experiment. Two scientists in America gathered 40 students and put them into groups. Then, they gave each student a *task. It was to finish a math practice book of 42 *pages in seven days. The students in Group 1 were *told, "Let's finish *at least 6 pages a day," but the students in Group 2 weren't. Four days later, the students in Group 1 finished 74% of their task *on average. On the other hand, the students in Group 2 finished 55% of their task on average. These results show that setting a goal for the near future is effective when we work on a task. So, in the case of the summer vacation homework, you should set a goal for the near future. For example, it's good to make your study plan for each day. Then, it will be easier to start working on your homework.

The second one is to look at things from different angles. Now, imagine that you're in a shop and find some chocolate that looks good. In front of it, you see an *ad, "90% of customers liked the taste." Maybe, you'll buy the chocolate. Then, think about a different ad, "10% of customers didn't like the taste." If you see this ad, ④ the chocolate? Maybe not. Many scientists say that people's way of looking at things influences their actions. Now, let's *apply this to the summer vacation homework. In this case, it's better to change your way of seeing time. Instead of thinking, "I still have one month," you should try to think, "I only have one month." Then, you'll realize that you should begin your homework soon.

We humans sometimes don't take the best action. We're not robots, so it can happen. However, if we know how we *tend to act, we can find some ways to change our actions. If we can make better decisions and take action, our daily lives will become brighter.

<注> *mind(s) 心 *goal 目標 *experiment 実験 *task 課題
*page(s) ページ *told ← tell *at least 少なくとも *on average 平均して
*ad 宣伝広告 *apply～ ～を応用する *tend to～ ～する傾向がある

1 下線部①が示す内容を、本文中から探して日本語で書きなさい。

2 本文中の (②) に入る最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

ア but イ so ウ for example エ also

3 次の表は、下線部③が示す内容の要点を雄也がまとめたものです。(①)、(②) に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

2つのグループの実験条件の違い	実験の結果
Only (①) set a goal for each day.	On average, the students in Group 1 finished a (②) part of their task than the students in Group 2.

ア ① Group 1 — ② larger

イ ① Group 1 — ② smaller

ウ ① Group 2 — ② larger

エ ① Group 2 — ② smaller

4 本文中の ④ に入る適切な内容を考えて、英語で書きなさい。

5 次の(1)、(2)の質問に対する答えを、本文の内容に合うように英語で書きなさい。

(1) How many students did the two scientists in America gather for the experiment?

(2) According to many scientists, what influences people's actions?

6 この記事を読んだ雄也は、記事に取り上げられている事例や筆者の主張を、次のようなメモにまとめました。本文の内容をふまえて、あとの(1)～(3)の問いに答えなさい。

• The example case — It's sometimes difficult to (③) summer vacation homework.	
	
④	{ • Set a goal for the near future. • Look at things from different angles.
• The writer's message to readers — ⑤ .	

(1) (③) に入る最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

ア imagine イ enjoy ウ start エ avoid

(2) ④ に入る最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

ア Where to look at things イ How to solve the problem

ウ What to stop doing エ When to set a future goal

(3) ⑤ に入る最も適切なものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

ア It is important to realize that we can choose a perfect action like robots

イ If we get more advice from people around us, we can avoid acting in a wrong way

ウ Understanding how we tend to act will lead to improving our decisions and actions

エ Make a lot of wrong decisions, and you will be able to make better ones

第 五 問 学校英語新聞の投稿欄で、ある話題について意見を募集しています。この英文を読んで、質問に対するあなたの答えを、**3文以上の英語**で書きなさい。

〔学校英語新聞の投稿欄の一部〕

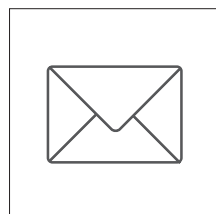
Calling on the Phone or Sending an E-mail?

My name is Hiroki. I went to Australia on an exchange program last summer and made a great friend there. His name is John. We had a wonderful time together.

John's birthday is next month, and I want to tell him "Happy Birthday!" So, which is better, calling him on the phone or sending him an e-mail? Why do you think so?



or



令和8

第 4 時

英 語

英 語 「 放 送 に よ る テ ス ト 」 台 本

これから、**第一問**の放送によるテストを行います。放送を聞いて**問題 1**から**問題 4**に答えなさい。
放送中に問題用紙にメモをとってもかまいません。

問題 1、英語を聞いて、その内容を最も適切に表しているものを、それぞれア、イ、ウ、エの中から
1 つ選んで、その記号を**解答用紙**に書きなさい。英語は、それぞれ**2**回放送されます。では、始めます。

1 番 In this museum, you cannot use your phone in area A and area B.
(この間約 4 秒)

繰り返します。

In this museum, you cannot use your phone in area A and area B.
(この間約 4 秒)

2 番 Today, we'll go shopping first and watch a movie after that. We'll go fishing
another day.
(この間約 4 秒)

繰り返します。

Today, we'll go shopping first and watch a movie after that. We'll go fishing
another day.
(この間約 7 秒)

次の問題に移ります。ページをめくり、2 ページに進んでください。
(この間約 4 秒)

問題 2、リリー (Lily) と健 (Ken) が会話をします。二人の会話は、問題用紙に示されている順に
進みます。空欄に入る発言として最も適切なものを、それぞれア、イ、ウ、エの中から 1 つ選んで、そ
の記号を**解答用紙**に書きなさい。会話の空欄のところでは、チャイム音 (チャイム音) が鳴ります。会
話は、それぞれ**2**回放送されます。では、始めます。

1 番 Lily: What did you do last weekend, Ken?
Ken: I saw a musical with my family.
Lily: Really? How was it?
Ken: (チャイム音)
(この間約 4 秒)

繰り返します。

Lily: What did you do last weekend, Ken?
Ken: I saw a musical with my family.
Lily: Really? How was it?
Ken: (チャイム音)
(この間約 4 秒)

2番 Ken: Lily, what time is it now?
Lily: Let's see.... It's five o'clock.
Ken: Oh, no! There's a party at Tom's house at five thirty!
Lily: (チャイム音)
(この間約 4 秒)

繰り返します。

Ken: Lily, what time is it now?
Lily: Let's see.... It's five o'clock.
Ken: Oh, no! There's a party at Tom's house at five thirty!
Lily: (チャイム音)
(この間約 7 秒)

次に問題3に移ります。和男 (Kazuo) と留学生のキャシー (Cathy) が会話をします。そのあとで会話について3つの質問をします。それらの質問に対する答えとして最も適切なものを、それぞれア、イ、ウ、エの中から1つ選んで、その記号を解答用紙に書きなさい。はじめに会話、続いて質問の順で、2回放送されます。では、始めます。

Kazuo: Hi, Cathy. Are you free next Sunday?
Cathy: Yes. What's up?
Kazuo: My friends and I are going to play volleyball, but we need more people to make groups. Do you want to join us?
Cathy: Volleyball? I've never played it, and I don't know much about the rules.
Kazuo: Don't worry. We just play it to have fun. For you, it will be a good chance to make new friends in Japan.
Cathy: Well, you may be right. OK, I'll go. Where are we going to play?
Kazuo: At the city gym. Do you know where it is? It's near the city hall.
Cathy: Umm, I don't.
Kazuo: Then, how about meeting at the park in front of the station?
Cathy: OK, but can I ask you a favor? I want you to teach me how to play volleyball. Can you do that before your friends come?
Kazuo: Sure. I'll also explain the rules of volleyball then.
Cathy: Thanks, Kazuo.

続いて質問に移ります。

1番 Why did Kazuo talk to Cathy?
(この間約 4 秒)

2番 Where will Cathy and Kazuo meet first next Sunday?
(この間約 4 秒)

3番 What does Cathy want to do before Kazuo's friends come next Sunday?
(この間約 7 秒)

会話を繰り返します。

Kazuo: Hi, Cathy. Are you free next Sunday?
Cathy: Yes. What's up?
Kazuo: My friends and I are going to play volleyball, but we need more people to make groups. Do you want to join us?
Cathy: Volleyball? I've never played it, and I don't know much about the rules.
Kazuo: Don't worry. We just play it to have fun. For you, it will be a good chance to make new friends in Japan.
Cathy: Well, you may be right. OK, I'll go. Where are we going to play?
Kazuo: At the city gym. Do you know where it is? It's near the city hall.
Cathy: Umm, I don't.
Kazuo: Then, how about meeting at the park in front of the station?
Cathy: OK, but can I ask you a favor? I want you to teach me how to play volleyball. Can you do that before your friends come?
Kazuo: Sure. I'll also explain the rules of volleyball then.
Cathy: Thanks, Kazuo.

続いて質問に移ります。

- 1 番** Why did Kazuo talk to Cathy?
(この間約 4 秒)
- 2 番** Where will Cathy and Kazuo meet first next Sunday?
(この間約 4 秒)
- 3 番** What does Cathy want to do before Kazuo's friends come next Sunday?
(この間約 9 秒)

次に**問題 4**に移ります。1 週間前にあなたの学校にやってきた留学生のベン (Ben) があなたに話しかけます。ベンの質問に対するあなたの答えを、**英語で解答用紙**に書きなさい。英語を **2 回**放送したあとに、答えを記入する時間をとります。では、始めます。

My host family has a boy who is eight years old. He is shy and doesn't talk to me much. To become friends with him, I want to do something together with him. What can I do?

(この間約 4 秒)

繰り返します。

My host family has a boy who is eight years old. He is shy and doesn't talk to me much. To become friends with him, I want to do something together with him. What can I do?

(この間約 15 秒)

これで放送によるテストを終わります。次の問題に移ってください。

備考欄	配 点		第 一 問	
	25			
	3	問題 1	1 番	ウ
	3		2 番	ア
	3	問題 2	1 番	イ
	3		2 番	エ
	3	問題 3	1 番	ア
	3		2 番	ウ
	3		3 番	エ
配点は内容について2点、表記について2点とする。採点基準は各学校で定める。	4	問題 4	(例) You can play a card game together. -----	

備考欄	配 点		第 二 問	
	14			
	2	1	(1)	エ
	2		(2)	ア
	2		(3)	イ
	4	2	(1)	エ → イ → ア → ウ
	4		(2)	ウ → オ → ア → エ → イ

備考欄	配 点		第 四 問	
	29			
	4	1	(例) 何かをしようと決心したものの、行動に移さないという状況。	
	2	2	イ	
	3	3	ア	
	3	4	(例) will you buy -----	
	4	5	(1)	(例) They gathered 40 students. -----
	4		(2)	(例) Their way of looking at things does. ----- -----
	3	6	(1)	ウ
	3		(2)	イ
	3		(3)	ウ

備考欄	配 点		第 三 問	
	24			
	3	1	(1)	イ
	3		(2)	エ
	2	2	(1)	ウ
	4		(2)	(例) 真由が助けた女の子は真由の親切な行為を決して忘れないだろう、と真由の父親が言うのを聞いたから。
	4		(3)	(例) She saw an elderly woman who got lost ----- and couldn't get back to her house. -----
	4		(4)	エ → イ → オ → ウ → ア
	4		(5)	(例) also be kind to others

備考欄	配 点		第 五 問
	8		
配点は内容について5点、表記について3点とする。採点基準は各学校で定める。	8	(例) I think calling him on the phone is better.	

		John will be happy to hear your voice. Also,	

		after telling him “Happy Birthday,” you can	

		enjoy talking about other topics with him, too.	

(注) 上記以外については、各学校で適宜基準を設けるものとする。

令和21年度における宮城県全体の高校の在り方(イメージ)

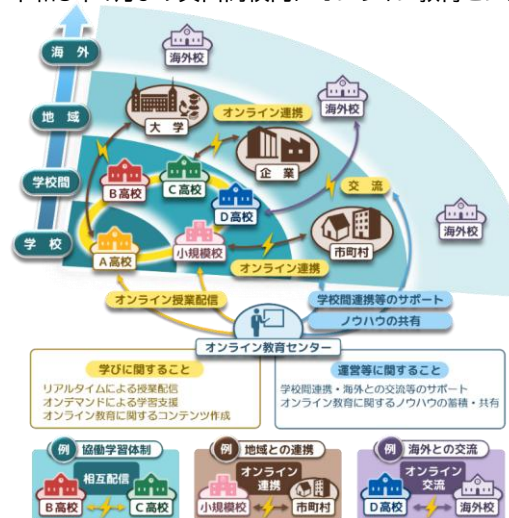
- 圏域ごとに必要となる学びを検討するとともに、生徒の多様な学習ニーズに応じた学びの機会を提供する。
- 宮城県全体を一つの「学校」としてとらえ、どこに住んでいても質の高い学びにアクセスできる環境を整える。
- そのため、各圏域に配置する高校間において、学校間連携やオンラインを効果的に活用することで連携し、学校という物理的な教室や校舎の枠を越えた学びを実現する。

創造的再構築後のイメージ



オンライン教育センターを核とした教育空間の拡張のイメージ

- 令和8年4月より貞山高校内にオンライン教育センターを設置し、授業配信等を実施する。



オンライン教育センターにおける授業配信の様子



涌谷高校における遠隔授業の様子

進学系拠点校のイメージ

- オンラインの活用などによりピアグループを形成し、進学系拠点校が連携して相互に配信する授業等を生徒が受講するなど、学校の枠を越えた学習環境を整備する。



ピアグループのオンライン授業のイメージ



Google Geminiで作成

R7現在の配置状況

- 中学校卒業生数(R7.3卒業生):19,265人
○全日制設置学級数:338学級
※R7全日制必要学級数:305学級
○定時制設置学級数:25学級

		学級数														
		学科別														
		普通	農業	工業	商業	水産	体育	英語	家政	看護	福祉	理数	美術	災害	国際	総合
南部	35	15	2	6	4	0	1			1						6
中部	188	139	7	17	12	0	2	2	2			4	1	1	1	0
北部 (大崎)	40	22	6	6	2				1							3
北部 (栗原)	11	6			1											4
東部 (石巻)	35	19	0	5	4	3										4
東部 (登米)	14	8	1	3	1						1					
気仙沼	15	8		1	1	2										3
全日制計	338	217	16	38	25	5	3	2	3	1	1	4	1	1	1	20
		64%	5%	11%	7%	1%	1%	1%	1%	0.3%	0.3%	1%	0.3%	0.3%	0.3%	6%

R21年春の姿

- 中学校卒業生数(R21.3卒業生):12,240人 ○全日制必要学級数見込み:188学級
○定時制設置学級数(別枠):13学級 ○その他別枠の学級数:7学級

学びの類型 ※市立は高校名	学級数	役割
進学系・普通系	108	高い学力と探究力を身に付けることを目指し、ピアグループを形成することや、進学意識の高い生徒のための教育課程の充実など、希望進路の実現に向けた学習環境を整備する。また普通科の改革の推進により、地域の特色や社会的ニーズに応じた新たな学科の設置や、地域や大学等と連携した探究的な学びの推進など、総合的な探究の時間や学校設定科目などの活用により、従来の普通科の考え方にとらわれない学びを創出し、地域や学校の特色に応じた魅力化を図る。
農業系	12	AIやIoT、データ分析などのスマート農業に必要とされる情報・デジタル技術やバイオテクノロジーなどの学びを教育課程に取り入れる。また、地域の産業・自然・文化などの特色を反映した教育課程を設定することで、生徒が地域資源に触れながら課題解決型の学習に取り組み、実社会で活かせる力を育成できる複合学科を設置する。
工業系	~22	生徒が複数の専門分野に触れ、自身の興味・関心や将来の進路に応じた学びを選択できるよう、幅広く選択可能な柔軟なカリキュラムを設定する。また、学校間連携や地域の企業・団体との協働を通じ、多様な実習先や実践的な学習機会を確保し、AIやIoTなどの学びも取り入れながら、最新の技術や現場の課題に対応できる能力を育成する学習環境を整備する。
商業系	~11	地域資源や産業の特長を理解し、商品開発や流通、マーケティングなど実社会で求められるAIなどの活用を含む知識や技術について、より学びを深め実践するとともに、農業など他学科と連携し、生産から製造、販売までの一連の流れを総合的に学べる複合学科を設置する。
水産系	~3	大学や企業、研究施設との連携により、先端技術に関する学びを充実させ、オンライン等を効果的に活用し、その成果を学校間で共有する。また、AIやIoTなどを学びに取り入れるほか、商品開発や流通、マーケティングなど実社会で求められる能力を身に付けるため、商業など他学科と連携し、水産資源の6次産業化を含む生産から製造・販売までの一連の流れを総合的に学べる複合学科を設置する。
家庭系	2	家庭に関する学びは、地域の福祉を支える人材の育成だけでなく、幅広い領域での活躍を見据え、将来の多様な進路選択につながる教育の充実を図ります。
看護系	1	看護に関する学びは、地域の福祉や医療を支える人材の育成だけでなく、幅広い領域での活躍を見据え、将来の多様な進路選択につながる教育の充実を図る。
ideal	9	生徒の多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる学習者中心の柔軟な授業時間や、福祉などのキャリア教育にも対応したカリキュラムの設定、チューター制の導入、個に応じた学習を支える体制を構築する。
県立全日制計	~168	※一部くくり募集を想定しているため、重複計上があり、合計の学級数は必要学級数を上回る。
市立仙台		※市立のため、市教委と学級数等について、今後調整
市立仙台工業		
市立仙台商業		
市立桜坂		
市立全日制計		
県立+市立計	188	※仙台市、石巻市との調整の結果、変動する可能性がある。

※英語、理数、体育、美術、災害科学、国際の学びは進学系・普通系に含まれる。

※上記学級数に中等教育学校の学級数は含まれない。

R7現在の配置状況

		学級数		
		学科別		
		普通	工業	
南部	昼間	1	1	
	夜間			
中部	昼間	6	6	
	夜間	6	2	4
北部 (大崎)	昼間	3	3	
	夜間	2		2
東部 (石巻)	昼間	3	3	
	夜間	2	2	
東部 (登米)	夜間	1	1	
	夜間	1	1	
定時制計		25	19	6
		通信制 500		
		※定員数		

R21年春の姿

<定時制・通信制>

学びの類型 ※市立は高校名	学級数	役割
定時制(昼間)	3	定時制高校の現状を踏まえながら、idealスクールで取り組んだ実績を活用し、生徒の多様な学習スタイルや生活状況により一層対応できる教育の在り方を検討する。
定時制(夜間)	5	定時制高校の現状を踏まえながら、idealスクールで取り組んだ実績を活用し、生徒の多様な学習スタイルや生活状況により一層対応できる教育の在り方を検討する。
通信制	(500名) ※定員	通信制高校(課程)のニーズを踏まえながら、スクーリング拠点や通信制高校の増設を行うことで、場所や時間にとらわれず学べる学習機会の充実を図り、全ての生徒が安心して学びを継続できる環境を整備する。
公立定時制計	8	
市立仙台大志 (I部、II部)		※市立のため、市教委と学級数等について、今後調整
市立仙台工業 (夜間)		
市立定時制計		
県立+市立計	13	※仙台市との調整の結果、変動する可能性がある。

<その他別枠>

学びの類型	学級数	役割
ideal	7	生徒の多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる学習者中心のidealスクールの柔軟な授業時間やカリキュラムの設定、チューター制の導入、個に応じた学習を支える体制の有効性などの実績を踏まえ、他地域への拡充を検討します。
別枠計	7	

R7現在の配置状況

- 中学校卒業生数(R7.3卒業生):1,349人
- 全日制設置学級数:35学級(9校)
- ※R7全日制必要学級数:28学級
- 定時制設置学級数:1学級(1校)

学校名	学級数							
校数	学科別							
9	普通	体育	農業	工業	商業	看護	総合	
白石	7	6				1		
白石蔵王	1	1						
柴田	4	3	1					
大河原産業	6		2		4			
村田	3							3
白石工業	6			6				
角田	4	4						
伊具	3							3
大河原産業川崎	1	1						
全日制計	35	15	1	2	6	4	1	6
	—	43%	3%	6%	17%	11%	3%	17%
白石七ヶ宿 (昼間)	1	1						
定時制計	1	1						

R21年春の姿

- 中学校卒業生数(R21.3卒業生):641人
- 全日制必要学級数見込み:15学級

学びの類型	学級数	役割
進学系・普通系	7	高い学力と探究力を身に付けることを目指し、ピアグループを形成することや進学意識の高い生徒のための教育課程の充実など、希望進路の実現に向けた学習環境を整備する。また、普通科の改革の推進により、地域の特色や社会的ニーズに応じた新たな学科の設置や、地域や大学等と連携した探究的な学びの推進など、総合的な探究の時間や学校設定科目などの活用により、従来の普通科の考え方にとらわれない学びを創出し、地域や学校の特色に応じた魅力化を図る。
農業系	1	AIやIoT、データ分析などのスマート農業に必要とされる情報・デジタル技術やバイオテクノロジーなどの学びを教育課程に取り入れる。また、地域の産業・自然・文化などの特色を反映した教育課程を設定することで、生徒が地域資源に触れながら課題解決型の学習に取り組み、実社会で活かせる力を育成できる複合学科を設置する。
工業系	3	生徒が複数の専門分野に触れ、自身の興味・関心や将来の進路に応じた学びを選択できるよう、幅広く選択可能な柔軟なカリキュラムを設定する。また、学校間連携や地域の企業・団体との協働を通じ、多様な実習先や実践的な学習機会を確保し、AIやIoTなどの学びも取り入れながら、最新の技術や現場の課題に対応できる能力を育成する学習環境を整備する。
商業系	3	地域資源や産業の特長を理解し、商品開発や流通、マーケティングなど実社会で求められるAIなどの活用を含む知識や技術について、より学びを深め実践するとともに、農業など他学科と連携し、生産から製造、販売までの一連の流れを総合的に学べる複合学科を設置する。
看護系	1	看護に関する学びは、地域の福祉や医療を支える人材の育成だけでなく、幅広い領域での活躍を見据え、将来の多様な進路選択につながる教育の充実を図る。
全日制計	15	

※圏域でアイデアルの要素を取り入れ、多様な生徒へのニーズに対応する。

R7現在の配置状況

- 中学校卒業生数(R7.3卒業生):13, 315人
○全日制設置学級数:188学級(29校)
※R7全日制必要学級数:189学級
○定時制設置学級数:13学級(5校)

学校名	学級数											
校数 29	学科別											
	普通	農業	工業	商業	体育	英語	家政	理数	美術	災害	国際	
仙台第一	8	8										
仙台第二	8	8										
仙台第三	8	6						2				
宮城第一	7	5						1				1
仙台南	5	4						1				
仙台南華	6	6										
仙台南	7	7										
仙台南東	6	5					1					
泉館山	6	6										
泉	6	5					1					
泉松陵	6	6										
宮城野	6	5							1			
仙台三桜	7	7										
仙台西	6	6										
多賀城	7	6									1	
名取北	6	6										
富谷	6	6										
黒川	5	2		3								
利府	7	5			2							
塩釜	8	6										
松島	4	2			2							
工業	8			8								
農業	6		6									
宮城広瀬	6	6										
名取	7	6						1				
亘理	4	2	1					1				
市立仙台	8	8										
市立仙台工業	6			6								
市立仙台商業	8				8							
全日制計	188	139	7	17	12	2	2	4	1	1	1	1
	—	74%	4%	9%	6%	1%	1%	2%	1%	1%	1%	1%

R21年春の姿

- 中学校卒業生数(R21.3卒業生):9, 263人
○全日制必要学級数見込み:128学級
○定時制設置学級数:10学級

学びの類型 ※市立は高校名	学級数	役割
進学系・普通系	81	高い学力と探究力を身に付けることを目指し、ピアグループを形成することや、進学意識の高い生徒のための教育課程の充実など、希望進路の実現に向けた学習環境を整備する。また、普通科の改革の推進により、地域の特色や社会的ニーズに応じた新たな学科の設置や、地域や大学等と連携した探究的な学びの推進など、総合的な探究の時間や学校設定科目などの活用により、従来の普通科の考え方にとらわれない学びを創出し、地域や学校の特色に応じた魅力化を図る。
農業系	6	研究・開発を志す生徒には学術的な学び、技術の磨き上げを目指す生徒には実践的で専門的な学びを提供することで、生徒の多様な進路希望に応じた知識・技能を総合的に育成し、生徒が自らの可能性を最大限に発揮して新たな領域を切り拓くことができる環境を整える。また、農業系の学びに理数系の学びを取り入れることなどによる、理数系教育の強化や専門技術教育の実践などを重点的にを行い、データサイエンスや環境技術、バイオテクノロジーなど、先端科学技術や地域産業の発展に寄与できるスペシャリストの育成を目指す。
工業系	10	研究・開発を志す生徒には学術的な学び、技術の磨き上げを目指す生徒には実践的で専門的な学びを提供することで、生徒の多様な進路希望に応じた知識・技能を総合的に育成し、生徒が自らの可能性を最大限に発揮して新たな領域を切り拓くことができる環境を整える。また、工業系の学びに理数系の学びを取り入れることなどによる、理数系教育の強化や専門技術教育の実践などを重点的にを行い、データサイエンスや環境技術、バイオテクノロジーなど、先端科学技術や地域産業の発展に寄与できるスペシャリストの育成を目指す。
商業系	2	観光などの地域資源や産業の特長を理解し、商品開発や流通、マーケティングなど実社会で求められるAIなどの活用を含む知識や技術について、より学びを深め実践するとともに、他学科と連携し、総合的に学べる複合学科を設置する。
家庭系	1	家庭に関する学びは、地域の福祉を支える人材の育成だけでなく、幅広い領域での活躍を見据え、将来の多様な進路選択につながる教育の充実を図ります。
ideal	9	生徒の多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる学習者中心の柔軟な授業時間や、福祉などのキャリア教育にも対応したカリキュラムの設定、チューター制の導入、個に応じた学習を支える体制を構築する。
県立全日制計	109	※英語、理数、体育、美術、災害科学、国際の学びは進学系・普通系に含まれる。
市立仙台		※仙台市立のため、市教委と学級数等について、今後調整
市立仙台工業		
市立仙台商業		
市立全日制計		
県立+市立計	128	※仙台市との調整の結果、変動する可能性がある。

※上記学級数に中等教育学校の学級数は含まれない。

R7現在の配置状況

	学級数		学科別	
			普通	工業
貞山(昼3、夜1)	4	4		
市立仙台大志 (Ⅰ部3、Ⅱ部1)	4	4		
第二工業(夜間)	2			2
市立仙台工業(夜間)	2			2
名取(夜間)	1	1		
定時制計	13	9	4	

通信制	500
-----	-----

※定員数

R21年春の姿

学びの類型 ※市立は高校名	学級数	役割
定時制(昼間)	3	定時制高校の現状を踏まえながら、idealスクールで取り組んだ実績を活用し、生徒の多様な学習スタイルや生活状況により一層対応できる教育の在り方を検討する。
定時制(夜間)	2	定時制高校の現状を踏まえながら、idealスクールで取り組んだ実績を活用し、生徒の多様な学習スタイルや生活状況により一層対応できる教育の在り方を検討する。
通信制	(500名) ※定員	通信制高校(課程)のニーズを踏まえながら、スクーリング拠点や通信制高校の増設を行うことで、場所や時間にとらわれず学べる学習機会の充実を図り、全ての生徒が安心して学びを継続できる環境を整備する。
県立定時制計	5	
市立仙台大志 (Ⅰ部、Ⅱ部)		※仙台市立のため、市教委と学級数等について、今後調整
市立仙台工業 (夜間)		
市立定時制計		
県立+市立計	10	※仙台市との調整の結果、変動する可能性がある。

公立学級数計 138

R7現在の配置状況(大崎)

- 中学校卒業生数(R7.3卒業生):1,669人
○全日制設置学級数:40学級(11校)※R7全日制必要学級数:30学級
○定時制設置学級数:5学級(2校)

学校名	校数	学級数						
		学科別						
	11	普通	農業	工業	商業	家政	総合	
古川	6	6						
古川黎明	6	6						
岩出山	2	2						
鹿島台商業・松山・南郷	6	2	1		2	1		
小田田農林	5		2					3
涌谷	3	3						
中新田	3	3						
加美農業	3		3					
古川工業	6			6				
全日制計	40	22	6	6	2	1	3	
	—	55%	15%	15%	5%	3%	8%	
田尻さくら	3	3						
古川工業(夜間)	2			2				
定時制計	5	3		2				

R7現在の配置状況(栗原)

- 中学校卒業生数(R7.3卒業生):447人
○全日制設置学級数:11学級(4校)※R7全日制必要学級数:9学級

学校名	校数	学級数		
		普通	商業	総合
築館	4	4		
築館一迫商業	1		1	
岩ヶ崎	2	2		
迫桜	4			4
全日制計	11	6	1	4
	—	55%	9%	36%

R21年春の姿

- 中学校卒業生数(R21.3卒業生):1,096人 ○全日制必要学級数見込み:20学級
○定時制設置学級数(別枠):1学級 ○その他別枠の学級数4学級

学びの類型	学級数	役割
進学系・普通系	8	高い学力と探究力を身に付けることを目指し、ピアグループを形成することや、進学意識の高い生徒のための教育課程の充実など、希望進路の実現に向けた学習環境を整備する。また、普通科の改革の推進により、地域の特色や社会的ニーズに応じた新たな学科の設置や、地域や大学等と連携した探究的な学びの推進など、総合的な探究の時間や学校設定科目などの活用により、従来の普通科の考え方にとらわれない学びを創出し、地域や学校の特色に応じた魅力化を図る。
農業系	4	AIやIoT、データ分析などのスマート農業に必要とされる情報・デジタル技術などの学びを教育課程に取り入れるとともに、地域の特色を反映した教育課程を設定することで、生徒が地域資源に触れながら課題解決型の学習に取り組み、実社会で活かせる力を育成できる複合学科を設置する。また、「食」をテーマとした様々な職業専門的な学びのほか、農場を活用したキャンパス制による農業教育を展開する。
工業系	4	生徒が複数の専門分野に触れ、自身の興味・関心や将来の進路に応じた学びを選択できるよう、幅広く選択可能な柔軟なカリキュラムを設定する。また、学校間連携や地域の企業・団体との協働を通じ、多様な実習先や実践的な学習機会を確保し、AIやIoTなどの学びも取り入れながら、最新の技術や現場の課題に対応できる能力を育成する学習環境を整備する。
商業系	3	地域資源や産業の特長を理解し、商品開発や流通、マーケティングなど実社会で求められるAIなどの活用を含む知識や技術について、より学びを深め実践するとともに、農業など他学科と連携し、生産から製造、販売までの一連の流れを総合的に学べる複合学科を設置する。
家庭系	1	家庭に関する学びは、地域の福祉を支える人材の育成だけでなく、幅広い領域での活躍を見据え、将来の多様な進路選択につながる教育の充実を図ります。
ideal	4 (別枠)	生徒の多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる学習者中心の柔軟な授業時間や、看護、福祉などのキャリア教育にも対応したカリキュラムの設定、チューター制の導入、個に応じた学習を支える体制を構築する。
全日制計	24	

学びの類型	学級数	役割
定時制(夜間)	1 (別枠)	定時制高校の現状を踏まえながら、idealスクールで取り組んだ実績を活用し、生徒の多様な学習スタイルや生活状況により一層対応できる教育の在り方を検討します。
定時制計	1	

県立学級数計 25

R7現在の配置状況(石巻)

- 中学校卒業生数(R7.3卒業生):1,403人
○全日制設置学級数:35学級(8校)※R7全日制必要学級数:28学級
○定時制設置学級数:4学級(2校)

学校名	校数	学級数					
		学科別					
		普通	工業	商業	水産	総合	
石巻	8	6	6				
石巻好文館	5	5					
石巻西	4	4					
水産	3				3		
石巻商業	4			4			
石巻工業	5		5				
石巻北	4					4	
市立桜坂	4	4					
全日制計	35	19	5	4	3	4	
	—	54%	14%	11%	9%	11%	
東松島(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)	3	3					
石巻北飯野川(昼間)	1	1					
定時制計	4	4					

R7現在の配置状況(登米)

- 中学校卒業生数(R7.3卒業生):615人
○全日制設置学級数:14学級(3校)※R7全日制必要学級数:11学級
○定時制設置学級数:1学級(1校)

学校名	校数	学級数					
		学科別					
		普通	農業	工業	商業	福祉	
佐沼	6	6					
登米	2	2					
登米総産	6		1	3	1	1	
全日制計	14	8	1	3	1	1	
	—	57%	7%	21%	7%	7%	
佐沼(夜間)	1	1					
定時制計	1	1					

R21年春の姿

- 中学校卒業生数(R21.3卒業生):1,029人 ○全日制必要学級数見込み:20学級
○定時制設置学級数(別枠):1学級 ○その他別枠の学級数:3学級

学びの類型 ※市立は高校名	学級数	役割
進学系・普通系	9	高い学力と探究力を身に付けることを目指し、ピアグループを形成することや、進学意識の高い生徒のための教育課程の充実など、希望進路の実現に向けた学習環境を整備する。また、普通科の改革の推進により、地域の特色や社会的ニーズに応じた新たな学科の設置や、地域や大学等と連携した探究的な学びの推進など、総合的な探究の時間や学校設定科目などの活用により、従来の普通科の考え方にとらわれない学びを創出し、地域や学校の特色に応じた魅力化を図る。
農業系	1	AIやIoT、データ分析などのスマート農業に必要とされる情報・デジタル技術やバイオテクノロジーなどの学びを教育課程に取り入れるとともに、キャンパス制の活用による農業の学びを展開するなど、地域の産業・自然・文化などの特色を反映した教育課程を設定することで、生徒が地域資源に触れながら課題解決型の学習に取り組み、実社会で活かせる力を育成できる複合学科を設置する。
工業系	4	生徒が複数の専門分野に触れ、自身の興味・関心や将来の進路に応じた学びを選択できるよう、幅広く選択可能な柔軟なカリキュラムを設定する。また、キャンパス制の活用による工業の学びを展開するほか、学校間連携や地域の企業・団体との協働を通じ、多様な実習先や実践的な学習機会を確保し、AIやIoTなどの学びも取り入れながら、最新の技術や現場の課題に対応できる能力を育成する学習環境を整備する。
商業系	2	地域資源や産業の特長を理解し、商品開発や流通、マーケティングなど実社会で求められるAIなどの活用を含む知識や技術について、より学びを深め実践するとともに、水産など他学科と連携し、生産から製造、販売までの一連の流れを総合的に学べる複合学科を設置する。
水産系	2	大学や企業、研究施設との連携により、先端技術に関する学びを充実させ、オンライン等を効果的に活用し、その成果を学校間で共有する。また、AIやIoTなどを学びに取り入れるほか、商品開発や流通、マーケティングなど実社会で求められる能力を身に付けるため、商業など他学科と連携し、水産資源の6次産業化を含む生産から製造・販売までの一連の流れを総合的に学べる複合学科を設置する。
ideal (別枠)	3	生徒の多様な生活・学習スタイルに応じてフレキシブルに学ぶことのできる学習者中心の柔軟な授業時間や、農業などのキャリア教育にも対応したカリキュラムの設定、チューター制の導入、個に応じた学習を支える体制を構築する。
県立全日制計	21	
市立桜坂		※石巻市立のため、市教委と学級数等について、今後調整
市立全日制計		
県立+市立計	23	※石巻市との調整の結果、変動する可能性がある。
学びの類型	学級数	役割
定時制(夜間)	1 (別枠)	定時制高校の現状を踏まえながら、idealスクールで取り組んだ実績を活用し、生徒の多様な学習スタイルや生活状況により一層対応できる教育の在り方を検討します。
県立定時制計	1	
公立学級数計	24	

R7現在の配置状況

- 中学校卒業生数(R7.3卒業生):467人
- 全日制設置学級数:15学級(4校)
- ※R7全日制必要学級数:10学級
- 定時制設置学級数:1学級(1校)

学校名	学級数					
校数	学科別					
4	普通	工業	商業	水産	総合	
気仙沼	6	6				
本吉響	3					3
気仙沼向洋	3		1		2	
南三陸	3	2		1		
全日制計	15	8	1	1	2	3
	—	53%	7%	7%	13%	20%
気仙沼(夜間)	1	1				
定時制計	1	1				

R21年春の姿

- 中学校卒業生数(R21.3卒業生):211人
- 全日制必要学級数見込み:5学級
- 定時制設置学級数(別枠):1学級

学びの類型	学級数	役割
進学系・普通系	3	高い学力と探究力を身に付けることを目指し、ピアグループを形成することや、進学意識の高い生徒のための教育課程の充実など、希望進路の実現に向けた学習環境を整備する。また、普通科の改革の推進により、地域の特色や社会的ニーズに応じた新たな学科の設置や、地域や大学等と連携した探究的な学びの推進など、総合的な探究の時間や学校設定科目などの活用により、従来の普通科の考え方にとらわれない学びを創出し、地域や学校の特色に応じた魅力化を図る。
工業系	2	生徒が複数の専門分野に触れ、自身の興味・関心や将来の進路に応じた学びを選択できるよう、幅広く選択可能な柔軟なカリキュラムを設定する。また、学校間連携や地域の企業・団体との協働を通じ、多様な実習先や実践的な学習機会を確保し、AIやIoTなどの学びも取り入れながら、最新の技術や現場の課題に対応できる能力を育成する学習環境を整備する。
商業系		地域資源や産業の特長を理解し、商品開発や流通、マーケティングなど実社会で求められるAIなどの活用を含む知識や技術について、より学びを深め実践するとともに、水産など他学科と連携し、生産から製造、販売までの一連の流れを総合的に学べる複合学科を設置する。
水産系		水産に関する基礎的な知識・技術に加え、AIやIoTなどを学びに取り入れるほか、商品開発や流通、マーケティングなど実社会で求められる能力を身に付けるため、商業など他学科と連携し、水産資源の6次産業化を含む生産から製造・販売までの一連の流れを総合的に学べる複合学科を設置する。
全日制計	5	

※圏域でアイデアルの要素を取り入れ、多様な生徒へのニーズに対応する。

学びの類型	学級数	役割
定時制(夜間)	1(別枠)	個に応じた多様な学びの提供やキャリア教育の充実により、多様な生徒の個性の伸長を図り、社会の向上・発展に寄与できる人材を育成する。
定時制計	1	

県立学級数計 6

みやぎ県立高校将来ビジョン 2026→2040第1期実施計画策定スケジュール

令和8年6月17日	・令和8年度第1回県立高等学校将来構想審議会
令和8年7～9月	・地区別意見聴取会 （7/25東部・北部、7/26気仙沼、8/2中部・南部） ・市町村等説明会 ・中学生への意見聴取等
令和8年10月下旬～11月上旬	・令和8年度第2回県立高等学校将来構想審議会
令和8年11月中旬～12月中旬	・パブリックコメント
令和9年1月	・文教警察委員会報告
令和9年2月	・第1期実施計画決定

- 申請した4事業のうち1事業（県水産高校・11億円）採択。【全国の状況 今回申請分：171／採択数：69】
- 現時点で保留とされている他の3事業は、国からの指摘を踏まえて内容を精査し、今後の採択を目指す。

審査結果所見（総評）

県全体の課題設定、改革先導拠点の選定、事業の推進体制は妥当性を評価された一方、一部改善を要する点が示された。

全ての県立高校（オンライン教育センター）

学びの量的・質的充実

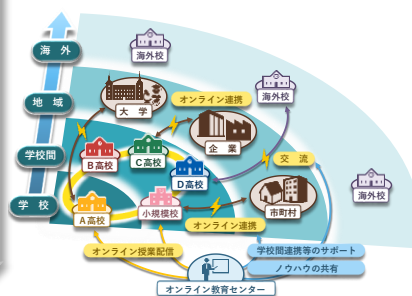
1

全県立高校のレベルアップに向けた、オンラインをフル活用した教育空間の拡張（オンライン教育センターの設置）

9
億円

△今回保留

- 小規模校への多様な科目配信
- 習熟度別学習コンテンツをオンデマンドで展開
- 全県立高校のネットワーク化とデジタル・リアルを組み合わせた発表・交流
- 仙台第二高校敷地内にオンライン教育センターを設置して大学・企業と連携



〈特に優れた点〉

- 少子化を見据え全県を一つの学校とみなすネットワークの構築
- 習熟度別学習や地域差を越えた科目アクセスなど多様な学習ニーズに対応する計画

〈改善を要する点〉

- 従来の遠隔授業との違いや独自性の提示
- 大学や産業界等との恒常的な連携体制の構築と成果普及の方略の具体化

4圏域【白石・古川・石巻・気仙沼】進学系拠点校＋ナンバースクール

進学力向上

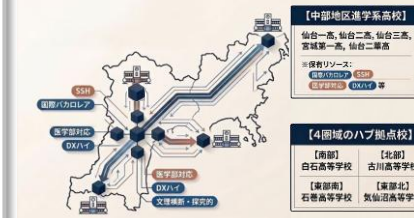
2

全県下の進学力向上に向けた、4圏域拠点校と仙台市内ナンバースクールとの県立高校連合

11.5
億円

△今回保留

- 4圏域拠点校の生徒が仙台地区各校の特色ある授業を受けられる環境を整備
- 9校で文理横断型の課外講習・合同学習を実施
- 仙台第一高の施設を活用して9校の生徒・教員が参集するラボスペースを設置
- 授業を支える予習・復習コンテンツを開発



〈特に優れた点〉

- STEAMや文理融合探究を学校間連携と組み合わせる明確な方向性
- 探究学習の深化に必要な教員の資質能力向上の検討

〈改善を要する点〉

- 理数系人材の確保に向けた教育内容や目標設定のさらなる明確化
- 各授業への位置付けや協力校との連携における調整方法の具体化

県工業高校

専門学科の実践的な学び

3

県内企業で活躍する人材育成に向けた、県工業高校のアップデートと県内工業系高校による共同利用

30.5
億円

△今回保留

- 企業活動を踏まえた実践的な内容により生産技術や品質保証などを担う人材を育成
- 複合型工作機械・産業用ロボットの導入と学科横断による実社会につながる学び
- 工業系高校からの遠隔操作や企業・大学とのデータ共有
- 小中学生など地域に開かれた校外開放スペースを整備



〈特に優れた点〉

- 半導体や高度ものづくりに対応した設備整備と外部からの技術支援
- 成果普及の取組の構造化と教職員を対象とした多様な取組

〈改善を要する点〉

- 各学科の単元や評価方法など具体的な教育課程への落とし込み
- 探究的な学びやアントレプレナーシップに関する教員研修の拡充

県水産高校

専門学科の実践的な学び

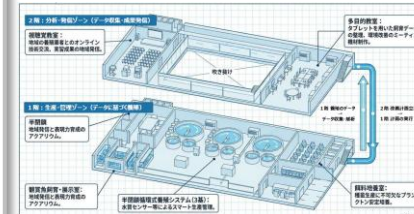
4

持続可能な漁業に向けた、次世代型「陸上養殖・水産イノベーション教育拠点」の整備

11
億円

◎採択

- 半閉鎖循環式の陸上養殖施設を整備してAI・IoTで水温・水質を管理する養殖教育を推進
- バイオ・ICT・水質管理・自動化制御などの先進技術を習得
- 他学科と連携し水産資源の6次産業化に対応した実践的な学び



〈特に優れた点〉

- 陸上養殖や水産DXなど地域の水産課題に対応する明確な目的
- 商業高校等への普及想定やこれまでの実績を活かした外部連携

〈改善を要する点〉

- 育成する能力のさらなる検討と具体的なカリキュラム・科目内容刷新への反映
- 事業終了後も見据えた持続可能な運営体制・コストの精査

1 調査内容

部活動の遠征等における移動の実態及び安全管理体制等について

2 調査対象

県立学校91校で遠征等を実施した全ての運動部及び文化部（サークルや同好会等を含む）

3 調査対象とした遠征等

- (1) 県外大会（コンクールを含む）
- (2) 県内大会（コンクールを含む）
- (3) 大会以外の県外遠征（練習試合や合宿等を含む）
- (4) 大会以外の県内遠征（練習試合や合宿等を含む）

4 調査対象期間

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

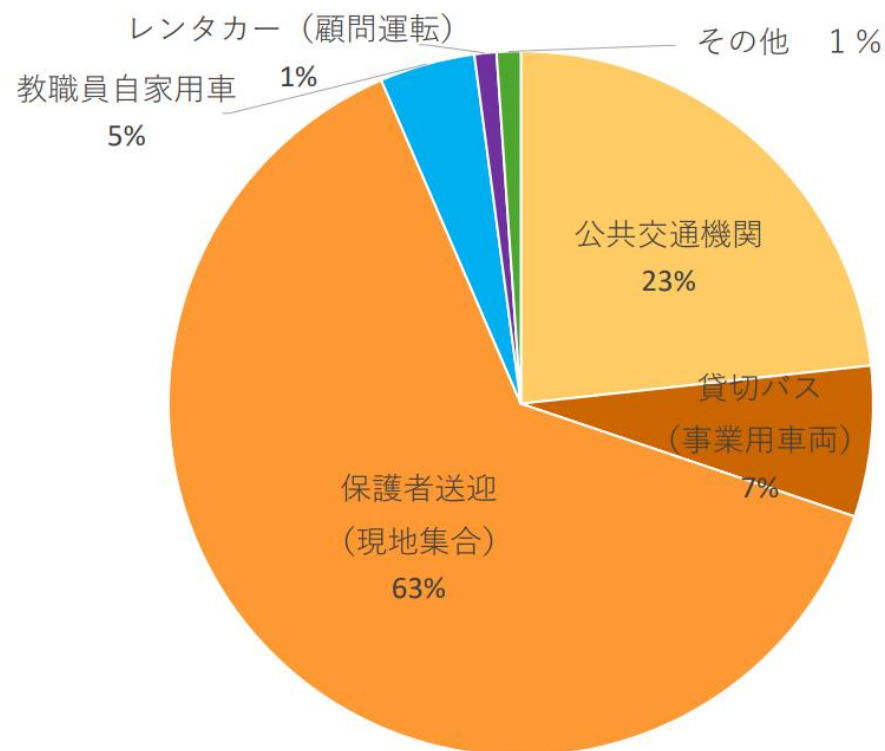
5 調査項目

- (1) 遠征等の実施回数及び移動手段、経費負担について
- (2) 業者（バス会社等）との契約形態について
- (3) 安全確保・安全管理について

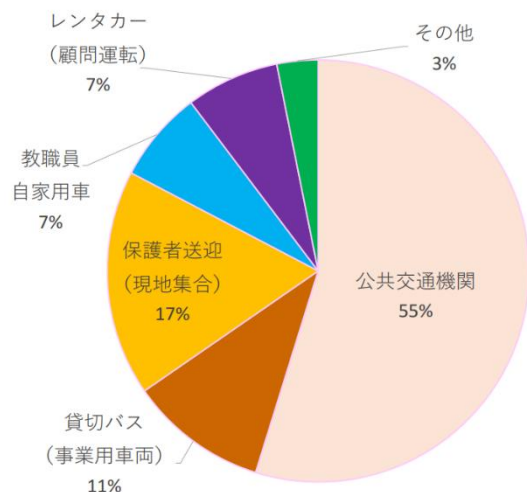
6 調査結果

○遠征等を実施した学校は75校
（高等学校66校、特別支援学校7校、中学校2校）

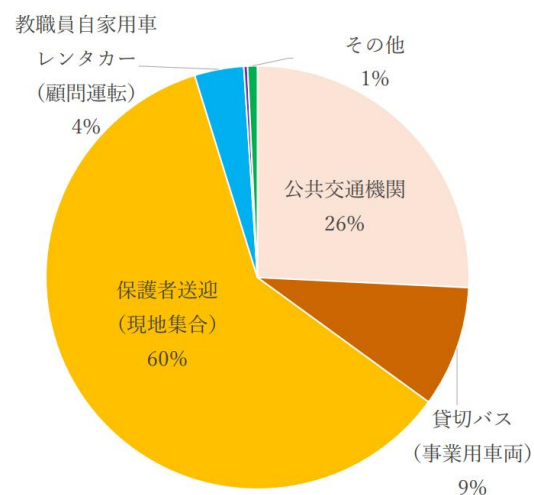
○全体の実施回数：16,238回



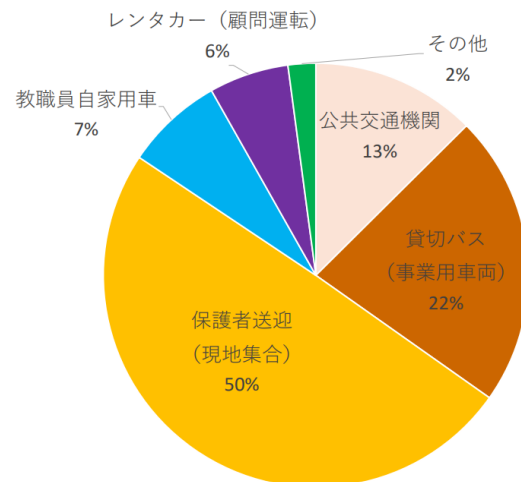
(1) 県外大会(コンクールを含む) 実施回数:699回



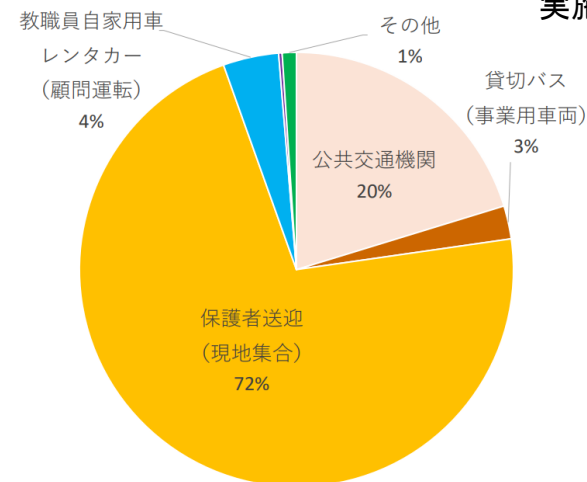
(2) 県内大会(コンクールを含む) 実施回数:6,218回



(3) 大会以外の県外遠征(練習試合や合宿等を含む) 実施回数:1,236回



(4) 大会以外の県内遠征(練習試合や合宿等を含む) 実施回数:8,085回



7 調査分析

(1) 移動手段の傾向(全体)

- ・公共交通機関・貸切バス・保護者送迎(現地集合)による移動が93%

- ・教職員自家用車やレンタカー(顧問運転)による移動が6%

＜理由＞

目的地までの公共交通機関が整備されていない

少人数のため、バスの手配が困難な状況

試合開始時間が早く、公共交通機関では間に合わない 等

(2) 業者(バス会社等)との契約形態について

- ・バス会社に依頼した学校は53校

(高等学校50校、特別支援学校1校、中学校2校)

- ・電話による口頭での依頼や、事前の見積徴収を行わずにバスを依頼していた等の学校が8校

- ・いわゆる「白タク」行為に該当する事例はなかった

(3) 安全確保・安全管理について

- ・対象となる全ての学校(75校)において、安全確保や安全管理が図られていた

(保護者からの承諾、遠征等実施における管理職の確認、危機管理マニュアルに基づいた対応)

(4) 経費負担について

- ・保護者負担が多くを占めており、生徒会遠征費や部活動後援会費、高体連等の外部からの補助金等の負担もあった

8 今後の対応について

(1) 部活動等における遠征時の移動については、生徒の安全確保を最優先とした上で、令和8年5月12日付けで発出した通知に基づいた対応がなされるよう、各学校に対して周知・徹底を図っていく。

(2) 令和8年6月30日付けで、国から通知が発せられたことから、他自治体における対応なども参考にしながら、現行のガイドラインの見直しなどにより、より安全で持続可能な部活動環境の整備に努めていく。